

其恪守實踐スヘキ要款ヲ左ニ揭示ス苟モ小學校教員ノ職ニ在ル者夙夜匪懈服膺シテ
忽忘スルヲ勿レ

明治十四年六月

文部卿 福岡孝弟

- 一 人ヲ導キテ善良ナラシムルハ多識ナラシムルニ比スレハ更ニ緊要ナリトス故ニ教員タル者ハ殊ニ道徳ノ教育ニ力ヲ用ヒ生徒ヲシテ
- 皇室ニ忠ニシテ國家ヲ愛シ父母ニ孝ニシテ長上ヲ敬シ朋友ニ信ニシテ卑幼ヲ慈シ及自己ヲ重ニスル等凡テ人倫ノ大道ニ通曉セシメ日常ニ己カ身ヲ以テ之カ模範トナリ生徒ヲシテ徳性ニ薰染シ善行ニ感化セシメントテ務ムヘシ
- 一 智心教育ノ目的ハ專ラ人々ヲシテ智識ヲ廣メ材能ヲ長シ以テ其本分ヲ盡スニ適當ナラシムルニ在リ豈徒ニ聲名ヲ博取シ奇功ヲ貪求セシメンカ爲ナランヤ故ニ教員タル者ハ宜ク此旨ヲ體認シ以テ生徒智心上ノ教育ニ從事スヘシ
- 一 身体教育ハ獨リ体操ノミニ依著スヘカラス宜ク常ニ校舍ヲ清潔ニシ光線溫度ノ適宜及大氣ノ流通ニ留意シ又生徒ノ健康ヲ害スヘキ癖習ニ汚染スル等ヲ豫防シ以テ之ニ從事スヘシ
- 一 鄙吝ノ心志陋劣ノ思想ノ懷クヘカラスハ人々皆然リト雖モ特ニ教員タル者ハ自己ノ心上ニ於テ最モ謹テ之ヲ除去セサルヘカラス蓋シ幼童ノ智徳ヲ養成シ身体ヲ發育スルノ重任ニ膺リ以テ世ノ福祉ヲ増進スルノ實効ヲ奏スルハ因ヨリ鄙吝陋劣ニシテ偷安貪利ヲ事トスル徒ノ戒テ能クスヘキ所ニアラサレハナリ

- 一 學校管理上ニ欠クヘカラスナル快活ノ氣象ハ心神萎靡セル人ノ能ク具有スヘキ所ニアラス又生徒教授上ニ欠クヘカラスナル許多ノ勞力ハ身体孱弱ナル者ノ能ク能耐スヘキ所ニアラス是故ニ教員タル者ハ宜ク特ニ起居飲食等ノ常度ヲ守リ敬謹及運動等ノ良規ニ循テ其身心ノ健康ヲ保全シ以テ其職務ヲ盡スノ地ヲ做サン
トテ務ムヘシ
- 一 教員タル者ハ唯小學校教則中ニ掲グル所ノ學科ニ通スルノミテ以テ足レリトセス博ク教則外ノ學科ニ涉ラントテ要ス苟モ此ノ如クナラサレハ儻テ教授上ニ破綻ヲ生シテ生徒ノ信憑ヲ失ヒ遂ニ其身ヲ學校ノ上ニ置ク能ハサルニ至ルヤ必セリ
- 一 教員タル者ハ常ニ整然タル秩序ニ由リ學識ヲ廣メ以テ其心志ヲ練磨セントテ務ムヘシ否ラサレハ決シテ教授ノ實効ヲ奏スル根柢ヲ立ツル能ハス蓋シ我カ練磨セサルノ心志ヲ以テ能ク他人ノ心志ヲ練磨シ得ル者ハ未タ曾テ之アラサルナリ
- 一 師範學校等ニ於テ嘗テ學習セシ所ノ教育法ハ概テ其ノ一様子タルニ過キサルモノナリ故ニ教員タルモノハ徒ニ之ヲ踏襲スルヲ以テ足レリトセス宜ク常ニ自ラ其得失利病ヲ考究取捨シ以テ之ヲ活用セントテ務ムヘシ
- 一 人ノ心神及身体ノ組織作用ニ至テハ教員タル者最モ深ク意ヲ留メ講究ト經驗トニ由テ其原理實際ニ精通セントテ要スヘシ否ラサレハ假令孜孜汲々トシテ教育ニ從事スルモ遂ニ臆度妄作ノ弊ヲ免ル、ト能ハサルナリ

- 一 學校管理ノ事ハ之ヲ教授ノ事業ニ比スレハ更ニ困難ナリトス故ニ教員タルモノハ常ニ人情世態ヲ審ニシ通義公道ヲ辨シ且事ヲ處スルノ方法務ヲ理スルノ順序等ヲ諳練セサルヘカラス
- 一 校則ハ校内ノ秩序ヲ整肅ナラシムルニ止ラス兼テ生徒ノ徳誼ヲ勸誘スルノ要具タリ故ニ教員タル者ハ能ク此旨趣ヲ体認シ以テ之ヲ執行セサルヘカラス
- 一 熟練懇切匪勉ノ三者ハ亦教育上ニ欠クヘカラサルノ美事タリ故ニ教員タル者能ク此三者ヲ具備シテ其事ニ從フ下キハ獨リ教授ノ實効ヲ奏スルヲ得ヘキノミナラス又生徒ヲシテ不知不識此等ノ美事ニ感化シ習慣自然ノ如クナラシムルニ至ルヘシ
- 一 學校ヲ統率スルハ殊ニ剛毅、忍耐、威重、懇誠、勉勵等ノ諸徳ニ由ルヘシ蓋シ剛毅ニアラサレハ難ニ勝ル能ハス忍耐ニアラサレハ久ヲ持スル能ハス威重ニアラサレハ人ヲ服スル能ハス懇誠ニアラサレハ衆ヲ懷ル能ハス勉勵ニアラサレハ事ヲ成ヌ能ハス
- 一 生徒若シ黨派ヲ生シ爭論ヲ發スル等ノ事アラハ之ヲ處置スル極メテ穩當詳密ニシテ偏頗ノ弊ナク苛刻ノ失ナカラシムル要ス故ニ教員タル者ハ常ニ寬厚ノ量ヲ養ヒ中正ノ見ヲ持シ就中政治及宗教上ニ涉リ執拗矯激ノ言論ヲナス等ノ丁アルヘカラス
- 一 人トシテ善良ノ性行ヲ有スヘキハ言ヲ候タスト雖モ教員タル者ニ至テハ最モ

二十一年訓第一三九號參看

善良ノ性行ヲ有セサルヘカラス否ヲサルトキハ獨リ幼童ノ徳性ヲ涵養シ善行ヲ誘掖スルヲ能ハサルノミナラス却テ其天賦ヲ戕賊スルニ至ルヘシ蓋シ幼童ノ中心タル至虛至冲ニシテ外物ノ爲ニ感染セラル、丁極メテ鋭敏ナレハナリ

一 教員タル者ノ品行ヲ尙クシ學識ヲ廣メ經驗ヲ積ムヘキハ亦其職業ニ對シテ盡スヘキノ務ト謂フヘシ蓋シ品行ヲ尙クスルハ其職業ノ品位ヲ貴クスル所以ニシテ學識ヲ廣メ經驗ヲ積ムハ其職業ノ光澤ヲ増ス所以ナリ

○訓第六六號 (明治二十年四月二十五日)

各 郡

尋常小學校以下教員「授業生」等其資格アルモノヲ得カタキ場合ニ於テハ當分左之方法ニ據リ教授セシメラルヘシ

但左ノ方法ニ據リ雇ヲ置クト雖モ其資格ヲ有スルモノアルトキハ直ニ解雇ノ上本職任用ノ手續ヲ經ヘシ

右訓令ス

- 一 師範學校卒業證書ヲ有スルモノ又ハ小學中等科以上ノ教員免許狀ヲ有スルモノニシテ有効滿期ノモノ若シクハ小學校ノ教授ニ從事スルコト二個年以上ニシテ小學中等科第五級以上ノ生徒ヲ卒業セシメタル經歷アリ且品行正シキモノハ尋常小學校以下ノ教員又ハ「授業生」ニ代用ス
- 一 小學初等科教員ノ免許狀ヲ有スルモノニシテ有効滿期ノモノ又ハ小學校ノ教

二十三年勅令第二
百十五號及廿五年
縣令第六號ニヨリ
小學簡易科消滅以
下做之

- 授ニ從事スルコト一年以上ニシテ初等科第一級以上ノ生徒ヲ卒業セシメタル
經歷アリ日品行正シキモノハ小學簡易科ノ教員若シクハ尋常小學校以下ノ「授
業生」ニ代用ス
- 一 教員ヲ代用セントスルトキハ其事由校名俸給ヲ具シ且本人履歷書ヲ添ヘ知事
ノ許可ヲ經ヘク其罷免及授業生ノ代用ハ之ヲ專行スヘシ
- 一 代用教員ノ罷免及代用「授業生」ノ雇罷ハ事由校名氏名ヲ具シ前月分ヲ一括シ
翌月ノ始メニ之ヲ開申スヘシ
- 一 代用教員「授業生」等ノ俸給ハ各本職俸給規定ノ最寡額以下タルヘシ
- 一 代用教員「授業生」ヲ雇罷スルトキハ左ノ書式ニ據リ辭令書ヲ發スヘシ
辭令書式 (用紙奉書四ツ切)

(任用)

當分何郡何小學校(小學簡易科何校)教員(授業生)雇ヲ命ス但月俸金何圓ヲ給ス
年號月日 郡名 印

(罷免)

何郡何小學校(小學簡易科何校)雇

雇ヲ免ス (辭表ヲ差出シタルトキハ依願ノ二字ヲ冠ス)

氏名 郡名 印 氏名

年號月日

郡名

◎達甲第一號 (明治廿一年一月六日)

郡役所「戶長役場」
小學校

二十三年勅令第二
百十五號及廿五年
縣令第六號ニヨリ
簡易小學校消滅

小學校職員ノ出張ヲ要スルハ其事由ヲ具シ尋常又ハ簡易小學校ニ係ルモノハ學
校長若クハ主座訓導并ニ管理者(郡長ノ管理ニ係ルモノハ連署ヲ要セスト雖「
戶長」ニ於テ經費ノ掌理ヲ托セラレタルモノハ連署ヲ要ス)連署シ高等小學校ニ係
ルモノハ學校長ヨリ共ニ郡長ニ伺出テ許可ヲ受クヘシ

但郡長ニ於テ本縣管外ニ係ル者ヲ許可セントスルハ豫メ本廳ノ認可ヲ經ヘシ
◎告示第七十號 (明治廿一年十月廿三日)

小學校教員以下受験者心得

- 第一條 受験者ハ試験ノ當日試験場ニ出頭シタルハ直ニ受験者名簿ニ捺印スヘシ
但病氣其他ノ事故ニ依リ出席スル能ハサルハ其旨速ニ試験場ニ届出ヘシ
- 第二條 受験者ハ毎日試験ノ時限ニ至レハ直ニ試験席ニ就クヘシ
但該時限ニ後レタルモノハ試験席ト認ムルヲ以テ試験席ニ就クヲ得ス
- 第三條 受験者ハ試験中缺席スルヲ得ス
但止ムヲ得サル事情アリテ缺席シタルトキハ該受験者ノ試験ハ無効タルヘシ

小學校長及教員職務及服務細則左ノ通之ヲ定メ本年七月一日ヨリ施行ス

小學校長及教員職務及服務細則

第一條 市町村立小學校長又ハ首席教員ハ校務ノ整理及教員擔任ノ事務ニ關シ處務規程ヲ設ケ及小學校教則ニ依リ各教科目ノ教授細目ヲ定メ郡市長ニ開申スヘシ
第二條 市町村立小學校正教員及准教員(一時教授スル者)其小學校ニ於テ教授スヘキ各教科目ノ教授細目ニ依リ豫定教案及教授週録ヲ作り學校長又ハ首席教員ノ檢認ヲ受クヘシ

第三條 市町村立小學校長又ハ首席教員ハ土地ノ情况及季候等ヲ參酌シテ教員及兒童ノ登校並退校ノ時間ヲ定メ郡市長ニ開申スヘシ

第四條 市町村立小學校及教員ハ(休職者ハ除ク)就職地一里以外ニ居住スルコトヲ得ス但止ヲ得サルトキハ郡市長ノ許可ヲ受クヘシ

第五條 市町村立小學校長及教員ハ新ニ任用セラレ又ハ轉任ヲ命セラレタルトキハ七日以内ニ就職スヘシ

二十六年縣令第五十三號ヲ以テ第六條但書改正

第六條 市町村立小學校長及教員休職轉任退職等ノトキハ擔任ノ事務ニ就キ引繼書ヲ作り學校長又ハ首席教員ニ之ヲ引繼クヘシ但學校長又ハ首席教員ノ事務ニ就テハ其引繼ヲ了リタルトキハ雙方連署シテ市長又ハ郡長ニ届出ツヘシ

第七條 市町村立小學校長及教員ハ登校シタルトキ出勤簿ニ捺印スヘシ

二十六年縣令第五十三號ヲ以テ第八條但書改正第二項追加

第八條 市町村立小學校長及教員ハ傷病若クハ疾病其他ノ事故ニ依リ欠勤スルトキハ事由並豫定日數ヲ具シ市町村長又ハ町村學校組合長ニ届出ツヘシ但町村立小學校長及教員ハ欠勤七日ニ及フトキハ郡長ニ届出ツヘシ

傷病若クハ疾病ニヨリ引續欠勤スルトキハ十五日毎ニ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ市長又ハ郡長ニ届出ツヘシ

又ハ郡長ニ届出ツヘシ

二十六年縣令第五十三號ヲ以テ第九條但書改正

第九條 市町村立小學校長及教員ハ私事ニ依リ旅行セントスルトキハ其事由並期限ヲ定メテ郡市長ノ許可ヲ受クヘシ但休暇中ノ旅行ハ其旅行地及期限ヲ定メテ市長又ハ郡長ニ届出ツヘシ

第十條 豫備後備ノ軍籍ニ在ル小學校長及教員ニシテ戰時若クハ事變ニ際シ召集セラレタルトキハ直ニ知事ニ届出ツヘシ其歸着ノトキ亦同シ

第十一條 私立小學校長及教員ノ職務及服務細則ハ設立者ニ於テ之ヲ定メ知事ノ許可ヲ受クヘシ

二十七年縣令第五十二號ヲ以テ第九條ノ次ハ第十條ヲ加ヘ第十條ヲ第十條トス

◎縣令第十七號 (明治二十五年三月三十一日)

明治二十四年(十一月)文部省令第十九號小學校教員檢定等ニ關スル規則ニ依リ小學校教員檢定ニ關スル細則左ノ通之ヲ定メ本年五月一日ヨリ施行ス

小學校教員檢定ニ關スル細則

第一條 正教員ノ檢定試験ハ毎年五月准教員ノ檢定試験ハ毎年十一月トシ其場所期日ハ豫メ告示スヘシ

第二條 正教員ノ檢定試験ヲ行フ者ハ毎年三月准教員ノ檢定試験ヲ請フ者ハ毎年九月志願書ニ履歷書ヲ添ヘテ願出ツヘシ

第三條 檢定試験ヲ請フ者ハ左項ニ依リ手数料ヲ納ムヘシ

二十五年訓令第三十四號全年訓第一六三號二十六年訓第八四號參看

二十五年告示第八十四號參看

- 一 高等小學校本科正教員 金 五拾錢
- 一 尋常小學校本科正教員及高等小學校專科正教員 金 四拾錢
- 一 小學校本科准教員及高等小學校專科准教員 金 參拾錢
- 第四條 甲種ノ檢定ヲ請フ者ハ願書ニ履歷書ヲ添ヘテ隨時願出ツヘシ
但文部省令第十九號第七條第七款ニ該當スル者ニ限り郡市長ノ具申ニ依リテ之ヲ檢定ス
- 第五條 免許狀ヲ受クル者ハ左項ニ依リ手数料ヲ納ムヘシ
 - 一 小學校正教員 金 參拾錢
 - 一 小學校准教員 金 貳拾錢
- 第六條 免許狀ノ毀損又ハ亡失等ニ依リ更ニ下付ヲ請ヒ又ハ書換ヲ請フモノハ前條ニ依リ手数料ヲ納ムヘシ
- 第七條 手数料ハ當該官廳ノ納入告知書ニ依リ納入ノ手續ヲナスヘシ
- 第八條 檢定手数料免許手数料ハ願下ヲナシ若クハ檢定ニ應セサルトキト雖モ當該官廳ハ之ヲ還付セス
- 第九條 准教員ノ免許狀ハ本縣管内ニ於テ七ヶ年間有効トス
- 第十條 甲種ノ檢定ヲ請フ者ハ履歷書中左ノ事項ヲ附記スヘシ
 - 一 學業ノ項ニハ學修セシ圖書目冊數
 - 一 職業ノ項ニハ學校ノ義務ニ從事シタル經歷アル者ニ限り其養成シタル生徒ノ學級別

二十五年告示第八十四號參看

附錄第一號 師範學校卒業生ニ與フル免許狀書式

小學校准教員免許狀

族 籍

何學校卒業生 氏 名

生 年 月

右ハ明治何年何月何日ヨリ明治何年何月何日マテ小學校准教員タルコトヲ免許ス

年 月 日

愛媛縣 印

番 號

附錄第二號 師範學校卒業生ニアラサル者ニ與フル免許狀書式

小學校准教員免許狀

何科目何科目 族 籍
何科目、、、 氏 名
生 年 月

右ハ前記ノ科目ニ就キ檢定シ明治何年
何月何日ヨリ明治何年何月何日マテ
(尋常)小學校本科(高等小學校專科)准
教員タルコトヲ免許ス

年 月 日

愛 媛 縣 印

番 號

附錄第三號 檢定願書式

小學校教員檢定(試驗)願

私儀愛媛縣管内ニ於テ(尋常)小學校本科(高等小學校專科)正(又ハ准)教員志願
ニ付檢定(試驗)相成度別紙履歷書相添ヘ此段相願候也

年 月 日

住 所 族 籍

氏

名

愛媛縣知事宛

(備考)專科教員ノ檢定ヲ請フ者ハ其學科科目ヲ記載スヘシ

◎縣令第二十一號 (明治二十五年四月十三日)

明治二十四年(十一月)文部省令第十九號小學校教員檢定等ニ關スル規則ニ依リ小
學校准教員檢定試驗程度ニ關スル規則左ノ通之ヲ定メ本年五月一日ヨリ施行ス

小學校准教員檢定試驗程度ニ關スル規則

第一條 尋常小學校本科准教員試驗程度左ノ如シ

修身 人倫、道德ノ大要

教育 教授ノ原理、管理法ノ大要及實地授業

國語 文法、文學ノ大要及公私日用文、記事文

算術 珠算四則雜題及度量衡貨幣時刻ノ計算法筆
算四則、分數、小數及比例、利息算

地理 日本地理ノ大要

歴史 日本歴史ノ大要

習字 楷書、行書、草書

二十五年縣令第三
十九號ヲ以テ本規
則中「倫理」ヲ「修
身」ト改ム

圖畫 自在畫法ノ大要

音樂 單音唱歌及樂器用法ノ大要

体操 普通体操

裁縫 普通衣服ノ縫方、裁方

第二條 高等小學校本科(男)准教員ノ試験程度左ノ如シ

修身 人倫、道德ノ要旨

教育 教授ノ原理、管理法ノ大要及實地授業

國語 文法、文學ノ大要及公私日用文、論說文ノ類

漢文 文法及文學ノ大要

數學 珠算四則雜題及度量衡貨幣時刻ノ計算法筆算四則、分數、小數及比例、利息算、開平、開立

簿記 單記

地理 日本地理、外國地理及地文學ノ大要

歴史 日本歴史及外國歴史ノ大要

博物 動物、植物、礦物及入身生理ノ大要

物理 總論、力學、熱學、音響學、光學、電氣學ノ大要

化學 無機化學ノ大要

習字 楷書、行書、草書

圖畫 自在畫法及容易ナル用器畫法

音樂 單音唱歌及樂器用法ノ大要

体操 普通体操及兵式体操

第三條 高等小學校本科(女)准教員試験程度ハ左項ノ外前條ニ據ル

家事 衣食住ニ係ル事項、普通衣服ノ縫方、裁方及裁縫器具ノ用法

第四條 高等小學校專科准教員試験程度ハ左項ノ外第二條及第三條ノ程度ト同等

以上トス

手工 木工具ノ名稱、用法及實地作業ノ大要

農業 土壤、水利、肥料、農具、耕耘、栽培及養蠶養畜ノ大要

商業 商店、會社、賣買、金融、運送、保險等ノ大要及商業簿記

外國語(英語) 讀方、譯解、習字、會話、會話、文法及作文

裁縫 普通衣服ノ縫方、及裁方裁縫器具ノ用法

◎訓令第二十八號 (明治二十五年四月十九日)

郡役所 市役所

町村役場

明治二十三年(十月)勅令第二百十五號小學校令第七十八條第八十五條第八十九條ニ依リ學務委員事務規程左ノ通之ヲ定メ本年十月一日ヨリ施行ス

學務委員事務規程

第一條 學務委員ハ左ノ要項ニ依リ市町村學校組合又ハ區ニ屬スル國ノ教育事務

二十六年縣令第三十七號ヲ以テ裁縫ノ項追加

二十六年訓令第五十三號ヲ以テ第五款ヲ削除シ以下趣上ス

- 一 就キ市町村長町村學校組合長又ハ區長及其代理者ヲ補助スルモノトス
- 二 學齡兒童就學ニ關スル件
- 三 家庭教育ニ關スル件
- 四 小學校授業料ノ免除及物品若クハ勞力代納ニ關スル件
- 五 小學校管理ニ關スル件
- 六 學校教員ノ慰勞又ハ賞與ニ關スル件
- 七 學車統計報告ニ關スル件
- 八 學務委員ハ國ノ教育事務ニ關シ前條ニ掲グルモノヲ除クノ外臨時ニ市町村長町村學校組合長又ハ區長及其代理者ノ指示ヲ受ケテ其事務ヲ補助スヘシ
- 九 學務委員ハ市町村長學校組合長又ハ區長及其代理者ノ指示ヲ受ケテ小學校幼稚園圖書館盲啞學校其他小學校ニ類スル各種ノ學校ヲ視察スヘシ
- 十 學務委員國ノ教育事務取扱ニ關スル細則ハ市町村長町村學校組合長又ハ區長及其代理者之ヲ定ム

二十五年訓令第二十九號參看

◎告示第八十四號 (明治二十五年六月十一日)
 有期ノ小學校教員免許及ハ師範學科卒業證書ヲ所持シ小學校訓導ノ職務ニ在ル者其免許狀又ハ卒業證書ノ有効滿期ニ至リ本年三月縣令第十七號小學校教員檢定ニ關スル細則第四條ニ依リ甲種ノ檢定ヲ請フ者ハ客年十一月文部省令第二十號小學校長及教員ノ任用辭職其他進退ニ關スル規則第六條二項ノ場合ニ至ラハ檢定ノ

二十六年三訓令第二十九號參看

上免許狀ヲ授與スルモ更ニ任用ノ手續ヲ經ヘキ儀ニ候條有効滿期ノ日ヨリ凡ソ三十日以前本廳ニ到達候様檢定願書差出ヘシ

◎告示第三十五號 (明治二十五年九月二十一日)
 小學校教員檢定ヲ請フ者規則ニ依リ不都合ナシト認ムルモノハ願書ニ對シ別途指令ヲ與ヘス其甲種ニ係ルモノハ相當免許狀ヲ授與シ乙種ニ係ルモノハ施行ノ期日ニ於テ試驗場ニ出頭スヘシ

但試驗施行ノ期日及場所ハ時々豫メ告示ス

◎告示第三百三十六號 (明治二十五年九月二十一日)
 小學校教員幼稚園保母盲啞學校其他小學校ニ類スル各種學校教員免許狀ヲ授與シタルモノハ自今其領受證書ヲ差出ニ及ハス

◎第二五九號 (明治二十五年九月二十四日)

本年(七月)文部省令第十八號ニ依リ小學校教員免許狀又ハ小學師範學科卒業證書ヲ所持シ既ニ有効滿期ニ至リタル者又ハ來明治二十六年四月三十日マテニ有効滿期ニ至ルヘキ者ニシテ猶小學校教員タランコトヲ欲シ其人物學力適當ト認ムル者アルトキ所持免許狀又ハ卒業證書及履歷書ヲ徵シ左記事項ニ就キ調査シテ意見ヲ付シ隨時有効延期ヲ具申スヘシ

右訓令ス

郡役所 市役所

調査要項

- 一人物 本項ニハ氣質、言行、身体等ノ要領ヲ記ス
- 一學業 本項ニハ從來ノ服務上教授ノ堪否及其素力ノ概要ヲ記ス
- 一同僚及人民ノ信認 本項ニハ同務者及在職地人民ノ感情一斑ヲ記ス

○内第二〇號 (明治廿五年九月廿四日)

學級編制ノ都合ニ依リ准教員ヲ採用シ教員配置上一時教授ヲ命スルコトアルヘシト雖正教員タルヘキ者ヲ准訓導ニ任シ而シテ一時教授ヲ命スルカ如キコトアリテハ教員待遇上ニ於テモ不都合候條正教員ヲ准訓導ニ任スルハ補助教授ノ場合ニ限リ一時教授セシムヘキ必要アルトキハ必ス資格相當訓導ニ任スヘキ儀ニ付不都合ナキ様注意セラルヘシ

右内訓ス 郡長宛

◎告示第十號 (明治二十六年一月二十七日)

明治二十四年(十一月)文部省令第十九號小學校教員檢定等ニ關スル規則第九條第十條及第十一條中左記ノ科目ニ限リ本人ノ請ヒニ依リテハ當分檢定ヲ行ハス

- 一 尋常小學校本科教員 音樂
- 一 高等小學校本科教員 音樂、簿記
- 一 小學校女教員 體操

◎告示第十一號 (明治二十六年一月二十七日)

某科目ヲ欠除セル小學校本科教員免許狀ヲ所持スル者ニ限リ當分該科目ノ檢定ヲ請フコトヲ得

但合格ノ科目ハ所持免許狀ニ追記ス

○訓第八四號 (明治二十六年三月二十二日)

尋常師範學校

小學校教員檢定ハ客年三月縣令第十七號小學校教員檢定ニ關スル細則ニ依リ郡市長ヲ經テ出願セシムヘキ等ノ處其校ニ於テ卒業シ新ニ小學校教員檢定ヲ請フ者ハ左項ニ依リ其校ヲ經テ出願セシムヘシ

- 一 檢定願書ハ小學校教員檢定ニ關スル細則附録書式ニ依ルヘシ
- 一 但履歷書ハ添付ヲ要セス
- 一 學校長ハ修學中ノ經歷及従前ノ資格ヲ審査シ出願ノ當否ニ就キ意見ヲ添中スヘシ

但入學前小學校准教員以上ノ教員免許狀ヲ有シ一ケ年以上教職ニ從事シタル者アルトキハ其在職年月日學校名職名ヲ添申スヘシ

一 免許狀ヲ下付シタルトキ學校長ハ小學校教員檢定ニ關スル細則ニ據リ相當免許手数料ヲ徵收シ之ヲ本廳ヘ納入スヘシ

○訓第二二九號 (明治二十六年七月二十五日)

郡役所 市役所

小學校教員免許狀又ハ小學師範學科卒業證書有効延期ノ儀ハ明治二十五年九月第二五九號訓令ノ趣有之候處本年三月文部省令第三號ニ依リ更ニ明治二十九年四月三十日迄ニ有効満期ニ至ルヘキモノニシテ猶教員タラントヲ欲スルモノアルハ隨時有効延期ヲ具申スヘシ

但調査要項ハ従前ノ例ニ依ルヘシ

右訓令ス

○内第二〇號 (明治廿六年七月廿八日)

一時教授ノ准教員ハ其任用期限内ト雖モ適當ノ正教員ヲ得テ薦舉シ其任命ノ上ハ直ニ退職ヲ命スヘキ筈ニ付一時教授ノ准教員タルヘキ候補者ハ其任用期限内ニ於テモ退職ヲ命スヘキ場合アルコトヲ承認セシメ而シテ薦舉セシメラルヘシ

右内訓ス

郡長宛

一時教授ノ准教員ハ其任用期限内ト雖モ適當ノ正教員ヲ得テ薦舉シ其任命ノ上ハ直ニ退職ヲ命スヘキ筈ニ付一時教授ノ准教員タルヘキ候補者ハ其任用期限内ニ於テモ退職ヲ命スヘキ場合アルコトヲ承認セシメ而シテ薦舉セラルヘシ

右内訓ス

市長宛

○縣令第五十二號 (明治二十六年十二月二十八日)

明治二十五年(三月)本縣令第十一號小學校長及教員任用解職其他進退ニ關スル細則左ノ通改正シ明治二十七年一月六日ヨリ施行ス

小學校長及教員任用解職其他進退ニ關スル細則

第一條 市長又ハ郡長ニ於テ市町村立小學校教員ヲ推薦スルトキハ其任用スヘキ學校名職名並交付スヘキ給與額ノ意見書及履歷書ヲ添付スヘシ

前項教員給料額ニ就テハ參事會町村長又ハ町村學校組合長ノ意見書ヲ徵シ同時ニ之ヲ進達スヘシ

第二條 市長又ハ郡長ニ於テ市町村立小學校長ノ兼任又ハ解任スヘキ必要アリト認ムルトキハ其事由並氏名ヲ知事ニ具申スヘシ

第三條 市長又ハ郡長ニ於テ一時教授スル准教員夫任用スヘキ必要アリト認ムルトキハ第一條本文事項ノ外一ケ年以内ニ於テ其任用スヘキ期限ノ見込ヲ附中ス

ハシ

第四條 市長又ハ郡長ニ於テ市町村立小學校正教員ノ休職ニ該當スヘキ者ト認ムル并又ハ休職ノ期限滿ツルモ其事由消滅セサルトキハ事狀ヲ知事ニ具申スヘン但休職ノ期限ニ見込アルトキハ之ヲ附申スヘシ
休職者ノ代員トシテ任用シタル者其休職者ノ復職ニ依リ解職ヲ要スルトキ亦前項ノ例ニ依ル

第五條 市町村立小學校教員退職ヲ願出タルトキハ市町村長又ハ町村學校組合長ニ於テ其理由ヲ審査シ意見ヲ付シテ進達スヘシ
但郡長ハ其理由ノ當否ニ就キ意見ヲ附申スヘシ

第六條 市長又ハ郡長ハ市町村立小學校長及教員ノ任用休職復職解職等ノ辭令ヲ本人ニ傳達シ其受書ヲ徵シテ一ヶ月限り取纏ノ之ヲ進達スヘシ

第七條 私立小學校ノ設立者ニ於テ學校長及教員ヲ任用シタルトキハ其年月日ヲ具シ履歷書ヲ添付シ解職シタルトキハ其年月日及事由ヲ具シ施行ノ日ヨリ五日以内ニ開申スヘシ

○三訓第一四號 (明治廿七年一月十二日)

小學校教員銓衡委員

市町村立小學校教員銓衡規程左ノ通り之ヲ定ム
右訓令ス

市町村立小學校教員銓衡規程

第一條 市町村立小學校教員ノ銓衡ハ銓衡委員中ノ一人ニ於テ審査シタル案文ニ依リ可否ノ意見ヲ表明スヘシ
但委員長ニ於テ會議ニ附スルヲ必要ト認ムルトキハ隨時開會スルコトヲ得

第二條 市町村立小學校教員ノ銓衡ハ銓衡委員過半数ノ同意ニ依リ可否ヲ決スヘシ可否同數ナルトキハ委員長ノ決スル所ニ依ル

第三條 銓衡委員ハ市町村立小學校教員ノ解職休職增俸減俸等ニ關シ知事ノ諮詢ニ答フヘシ

第五節 給與及授業料

○訓第一三九號 (明治廿一年八月一日)

郡役所

小學校教員雇及「授業生」雇ノ俸給并ニ旅費支給方左ノ通心得ヘシ
但來ル八月十日ヨリ實施ス

右訓令ス
一 小學校教員雇及「授業生」雇ノ俸給支給方ハ客年(十二月)達甲第百八號小學校職員俸給支給規則第一條第五條第八條及第十五條以下ヲ除キ其他及左項ニ據リ支給スヘシ

- 一 月俸ハ毎月末日ニ於テ支給ス若シ當日休暇ニ該ルルハ翌月一日之ヲ支給スルモノトス
- 但解雇又ハ死去ノ際ハ日割ヲ以テ支給ス
- 二 病氣ニ依リ登校セサルモノ三十一日以後ハ俸給ヲ支給セサルモノトス
- 一 小學校教員雇及「授業生」雇ノ旅費支給方ハ十九年(十月)縣令第十六號授業生ニ準據支給スヘシ

(參照) 達甲第百八號 (明治二十年十二月十九日)

第二條 新任ノトキハ職務ニ就キタル當日ヨリ俸給ヲ支給シ其當月分ハ日割ヲ以テ計算スルモノトス

第三條 轉任ノトキハ前任所ノ事務ヲ終リタル當日迄ハ前任ノ俸給翌日ヨリハ新任ノ俸給ヲ支給シ其當月分ハ日割ヲ以テ計算スルモノトス

第四條 増俸減俸ハ辭令到達ノ翌日ヨリ起算シ其當月分ハ日割ヲ以テ計算スルモノトス

第六條 自己ノ便宜ニ由リ退職ノトキハ辭令到達ノ當日マテ日割ヲ以テ當月分ノ俸給ヲ支給スヘシ

第七條 願濟私事旅行ノ者又ハ私事ノ故障(自己ノ病氣ヲ除ク)ニ由リ登校セザルモノトス

三十一年訓第一三九號第一項ニヨリ第八條採録セス

ルモノ十六日以後ハ日割ヲ以テ俸給ノ半額ヲ減シ三十一日以後ハ俸給ヲ給セサルモノトス

第九條 忌引ニ由リ登校スル能ハサル場合ニ於テハ第七條及ヒ第八條ノ限リニアラス

第十條 第七條ノ場合ト第八條ノ場合ト相續テ起ルトキハ第七條ニ始マリ第八條ニ終レハ其間通算シテ第八條ニ據リ俸給ヲ減削シ第八條ニ始マリ第七條ニ終レハ其間通算シテ第七條ニ據リ俸給ヲ減削スヘシ

但夏季冬季休業又ハ忌引等ノ場合ト連續スルトキハ其休業又ハ忌引ノ日數ヲ除キ計算スヘシ

第十一條 犯罪嫌疑ノ廉アリテ拘引セラル、者及ヒ私事訴訟ノ原告人又ハ引合人トナリ登校セサルトキハ其間日數ヲ計算シテ俸給ヲ給セサルモノトス

第十二條 轉任ノトキ前任所ニ於テ俸給ノ過數ナルトキハ新任所ヨリ直ニ之ヲ前任所ニ返付スヘシ

第十三條 減俸私事旅行病氣其他ノ事故ニ因リ俸給ヲ追徴スヘキモノアルトキハ翌月ノ俸給ヨリ差引計算スルモノトス

但自己ノ便宜ニ由リ退職シタルモノニ係ルトキハ此限ニアラス

第十四條 俸給ノ日割計算ハ其月ノ現日數ニ依ル

縣令第十六號 (明治十九年十月十六日)
 公立小學校職員旅費ハ學校長訓導准訓導ハ戶長授業生以下入用係筆生等ニ準據
 支給スルモノトシ本月廿日ヨリ施行ス
 達甲第二十四號 (明治十九年九月廿四日)

各郡町村
 郡町村吏旅費規則ノ義本年(六月)閣令第十四號ニ據リ旅費額別表ノ通改定シ本
 月二十一日ヨリ施行ス
 但本年(六月)乙第百十三號達旅費規則ハ本文施行ノ日ヨリ廢止ス
 (別表)

旅費額

等級	旅費額		管外車馬賃	管内車馬賃	郡内陸路雜費	管外日當	管内日當
	瀛車賃	瀛船賃					
一等	一哩每	里一海	一里每	一里每	一里每	一日每	一日每
二等	金五錢	金四錢	金六錢	金四錢	金三錢	金四十	金二十
三等	金四錢	金三錢	金五錢	金三錢	金二錢	金卅錢	金貳拾錢

備考

管内管外ノ區別ハ縣ノ内外ナ云フ
 三等ノ内諸雇以下ハ戶長役場雇及郡役所小使等ノ類ナ云フ
 郡町村吏旅費規則附則
 第一條 町村吏及郡役所雇其郡役所管内旅行ノ節ハ車馬賃ヲ給セス陸路雜費ト
 シテ表面ノ金額ヲ支給ス

二十年縣令第六十
 四號參看

第二條 町村吏及郡役所雇其郡役所管内ノ島嶼ニシテ渡海ニアラサレハ至リ難
 キ場所ニ限リ陸路雜費ヲ給セス船賃賃費トシテ別表ノ金額ヲ支給ス
 第三條 町村吏其所轄内ニ於テハ陸路雜費ハ派テ之ヲ給セス
 (別表)

渡海船賃額

郡名	地名	往復船賃
新居周布桑村郡	大島浦ヨリ黒島村ニ至	金 六 錢
	椋名村ヨリ今治港ニ至	金三十二錢
	幸新田村ヨリ今治港ニ至	金 四 十 錢
	泊村ヨリ今治港ニ至	金 四 十 錢
	宮窪村ヨリ今治港ニ至	金三十二錢
	木浦村ヨリ今治港ニ至	金五十六錢
	木浦村ヨリ今治港ニ至	金四十八錢
	下弓削村ヨリ今治港ニ至	金 七 十 錢
	岩城村ヨリ今治港ニ至	金六十二錢
	瀬戸村ヨリ今治港ニ至	金 五 十 錢
	井口ヨリ今治港ニ至	金五十八錢
越智野間郡	大見村ヨリ今治港ニ至	金四十三錢

宮浦村ヨリ今治港ニ至	金四十三錢
口物村ヨリ今治港ニ至	金三十六錢
岡村ヨリ今治港ニ至	金三十四錢
陸月村ヨリ三津港ニ至	金十六錢
大浦村ヨリ三津港ニ至	金二十六錢
饒村ヨリ三津港ニ至	金三十四錢
元怒和村ヨリ三津港ニ至	金四十錢
興居島村ヨリ三津港ニ至	金十二錢
日振島ヨリ蔭淵浦ニ至	金一圓
戸島浦ヨリ蔭淵浦ニ至	金五十錢

南宇和北宇和郡
(讚岐國ニ屬スル分ハ之ヲ省ク○廿三年以後ノ改廢ハ本達ニ必要ナキヲ以テ畧ス)

右ニ掲グルモノ、外一里以上ニ渉ル場所ハ一里毎ニ金六錢ヲ給シ其端里數ハ給セス
 但一里未滿ノ場所ハ渾テ金三錢ヲ給ス

◎縣令第一號 (明治二十五年一月十四日)

明治二十三年(十月)法律第九十號市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法第拾四條ノ納金ニ關スル規則左ノ通之ヲ定ム

市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法納金ニ關スル規則

- 第一條 市町村立小學校正教員ハ毎月給料ヲ受取リタルトキハ即日其百分ノ一二當ル金額ヲ市役所又ハ町村役場ニ納ムヘシ
 - 第二條 市町村長ハ前條ノ納金ヲ收入シタルトキハ領收證書ヲ交付シ仕譯書ヲ添ヘ翌月五日迄ニ市長ハ縣廳町村長ハ郡役所ニ納ムヘシ
 - 第三條 市町村ハ毎月正教員ノ給料ヲ支出シタルトキハ其百分ノ一二當ル金額ヲ前條納金ト同時ニ市ハ縣廳町村ハ郡役所ニ納ムヘシ
 - 第四條 郡長ニ於テ第二條及第三條ノ納金ヲ收入シタルトキハ仕譯書ヲ添ヘ其月十五日迄ニ縣廳ニ納ムヘシ
 - 第五條 土地ノ使用又ハ物品ヲ以テ給料ニ換給シタルトキハ其歩合ノ金額ハ納金ノ計算ニ加フルモノトス
- ◎縣令第二十三號 (明治二十五年四月十四日)
- 明治二十三年(十月)勅令第二百十五號小學校令第四十四條ニ依リ市町村立小學校授業料規則左ノ通之ヲ定メ本年七月一日ヨリ施行ス
- 市町村立小學校授業料規則
- 第一條 尋常小學校及高等小學校授業料ノ金額ハ左ノ範圍ニ依リ市町村長又ハ町村學校組合長ニ於テ之ヲ確定スヘシ
 - 尋常小學校 一ヶ月金貳拾錢以下金參錢以上

高等小學校 一ヶ月金五拾錢以下金貳拾錢以上

第二條 小學校ノ授業料ハ一家ノ兒童二人以上同時ニ就學スルトキハ一人ハ全額ヲ納メシメ其他ハ八員ニ應シ三分ノ一マテ輕減スルコトヲ得

前項輕減ノ方法ハ市町村長又ハ町村學校組合長ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第三條 小學校ノ授業料ハ市町村長又ハ町村學校組合長ノ許可ヲ得テ物品若クハ勞力ヲ以テ代納スルコトヲ得前項代納ノ制限ハ市町村長又ハ町村學校組合長ノ定ムル所ニ依ル

第四條 小學校ノ授業料ハ兒童ノ保護者ニ於テ其兒童ヲ就學セシメタル月ヨリ出席スルト否トニ拘ハラズ之ヲ納ムヘシ

但全月間出席ヲ停止シタル場合ハ此限ニアラス

第五條 小學校ニ於テ前月間休業シタル日ハ其月ノ授業料ヲ徵收セサルモノトス

第六條 兒童ノ保護者ニ於テ自己ノ便宜ニ依リ其兒童ヲ他ノ市町村立小學校又ハ一町村若クハ一區限リ費用ヲ負擔セル他ノ小學校ニ就學セシムルトキハ其小學校ニ納ムヘキ授業料定額ノ倍數ヲ納ムヘシ

但其小學校ニ於テ第七條ニ依リ授業料ヲ徵收セサルトキハ第一條ノ範圍ニ依リ市町村長又ハ町村學校組合長ノ指定スル所ニ依ル

第七條 小學校基本財産ノ收益ヲ以テ其小學校一週年度ノ經費ヲ支辨シ得ルトキハ授業料ヲ徵收セサルコトヲ得

第八條 小學校ノ授業料ヲ納付スヘキ期日ハ市町村長又ハ町村學校組合長ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第九條 市町村長又ハ町村學校組合長ニ於テ授業料ヲ免除シタルトキハ之ヲ保護者ニ示達スヘシ

第十條 第一條ノ規定ニ據リ難キ事情アルトキハ市町村長又ハ町村學校組合長ハ市會町村會又ハ町村學校組合會ノ意見ヲ聞キ知事ノ許可ヲ受ケ特別ノ處分ヲナスコトヲ得

◎縣令第二十四號 (明治二十五年四月十五日)

明治二十三年(十月)勅令第二百十五號小學校令第六十條ニ依リ市町村立小學校教員給料旅費ノ標準左ノ通之ヲ定メ本年七月一日ヨリ施行ス

市町村立小學校教員給料旅費標準

第一條 市町村立小學校教員ノ給料ハ月給トシ其標準左ノ如シ

但尋常小學校訓導ノ給料ハ土地ノ情況ニ依リ最下級ノ給料額ヨリ貳圓マテテ減スルコトヲ得此場合ニ於テモ進級ノ法ハ第三條ニ依ルモノトス

職名	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級
高等小學校訓導	三圓	二圓	二圓	六圓	六圓	六圓	三圓	三圓	三圓	十圓
尋常小學校訓導	二圓	一圓	一圓	五圓	五圓	五圓	二圓	二圓	二圓	七圓
高等(尋常)小學校准訓導	一圓	一圓	一圓	四圓	四圓	四圓	一圓	一圓	一圓	六圓

第二條 初メテ訓導准訓導ニ任用スルモノハ十級ノ給料ニ依ルヲ常例トス
但師範學校ノ卒業生ヲ准訓導ニ任用スル場合ハ六級常小學校ノ訓導ニ任用
スル場合ハ八級ノ給料ニ依ルモノトス

第三條 市町村立小學校教員ハ六級以下ノ給料ヲ受クルモノハ在職滿二ケ年毎ニ
五級以上ノ給料ヲ受クル者ハ在職滿三ケ年毎ニ其勤務ノ經歷ヲ稽考シ功蹟アル
者ハ一級ヲ進ムルモノトス
但在職一ケ年以上ニシテ特ニ顯著ナル功蹟アル者ハ本文ノ期限ニ依ラス臨時
ニ進級スルコトアルヘシ

第四條 市町村立小學校教員ノ給料最上級ニ達シ五年ヲ踰ヘタル者功蹟拔群ナル
トキハ標準額以上ニ於テ訓導ハ拾圓以内准訓導ハ五圓以内増加スルコトヲ得

第五條 市町村立小學校教員ノ旅費ノ標準ハ左ノ如シ

職名	甲種		乙種		丙種	
	第一種	第二種	第一種	第二種	第一種	第二種
訓導	五錢	五錢	四錢	五錢	三錢	四錢
准訓導	五錢	五錢	四錢	四錢	三錢	三錢
	五錢	五錢	四錢	四錢	三錢	三錢
	錢	四拾	錢	四拾	錢	三拾
			四錢	四錢	三錢	三錢
			四錢	四錢	三錢	三錢
			五錢	三拾	錢	三拾

第六條 市町村立小學校教員ノ旅費ハ旅行ノ性質ニ依リ前條ノ標準ニ依ラス一旅
行ニ就キ金額ヲ定メ又ハ實費ニ依リ之ヲ定ムルコトヲ得

◎縣令第二十五號 (明治二十五年四月十六日)

明治二十三年(十月)勅令第二百十五號小學校令第六十條ニ依リ市町村立小學校教

員給料旅費及諸給與支給規則左ノ通之ヲ定メ本年七月一日ヨリ施行ス

市町村立小學校教員給料旅費及諸給與支給規則

第一章 給料

- 第一條 教員ノ給料ハ毎月二十六日ヨリ末日マテニ於テ支給スルモノトス
- 第二條 新任ノ片ハ發令ノ翌日ヨリ給料ヲ支給シ其月ハ日割ヲ以テ計算スル者トス
- 第三條 増給減給ハ發令ノ翌日ヨリ起算シ其月ハ日割ヲ以テ計算スルモノトス
- 第四條 轉任ノトキハ發令ノ當日マテハ前任地ノ市町村翌日ヨリハ新任地ノ市町
村ニ於テ給料ヲ支給シ其月ハ日割ヲ以テ計算スルモノトス
- 第五條 休職ノ者ハ其間現給三分ノ一ヲ支給スルモノトス
但休職又ハ復職ヲ命シタル月ハ給料ノ全額ヲ支給ス休職中第六條又ハ第七條
ノ場合ニ當ル者ハ各本條ノ例ニ準シテ給料ヲ支給スルモノトス
- 第六條 廢校又ハ學校編制ノ變更ニヨリ退職シタルトキ若クハ死亡ノトキハ其月
ノ給料全額ヲ支給スルモノトス
- 第七條 私事ノ故障ニヨリ退職ハトキハ辭令ヲ受ケタル當日マテ日割ヲ以テ其月
ノ給料ヲ支給スルモノトス
- 第八條 私事ノ故障ニヨリ登校セサルモノ十五日ヲ踰ユルトキハ日割ヲ以テ給料
ノ半額ヲ減シ三十日ヲ踰ユルトキハ給料ヲ支給セサルモノトス
- 第九條 傷病若クハ疾病ニヨリ登校セサルモノ三十日ヲ踰ユルトキハ日割ヲ以テ

二十七年縣令第三十二號全第五十六號參看

給料ノ半額ヲ減シ九十日ヲ除ユルトキハ給料ヲ支給セサルモノトス

但公務ノ爲メ傷痕ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノハ此限ニアラス

第十條 徴兵令第二十一條第三項ニヨリ服役ノモノハ任地出發ノ當日ヨリ任地へ歸着ノ當日マテ給料ヲ支給セサルモノトス

第十一條 第八條ノ場合ト第九條ノ場合ト相續テ起ルトキハ其第八條ニ始マリ第九條ニ終ルモノハ其間通算シテ第九條ニヨリ給料ヲ減シ第九條ニ始マリ第八條ニ終ルモノハ其間通算シテ第八條ニヨリ給料ヲ減スルモノトス

第十二條 勤務ノ日數ニ給料ヲ減スル場合ニ於テハ學校ノ休業日及忌引等ノ日數ハ總テ計算セサルモノトス

第十三條 給料ノ日割計算ハ其月ノ現日數ニ據ル計算上厘未滿ノ端數ハ切捨トス

第十四條 市町村又ハ町村學校組合ニ於テ土地ノ使用又ハ物品ヲ以テ給料換給ノ許可ヲ受ケタルトキハ市町村長又ハ町村學校組合長ニ於テ其支給方法ヲ定メ知事ノ許可ヲ受ケヘシ

第十五條 同一ノ學校ニ在勤スル者ハ滿五ヶ年毎ニ年功給料トシテ現給十分ノ一以上十分ノ二以下ノ給料ヲ増加スルモノトス

第二章 旅費

第十六條 旅費ハ順路ノ路程及經過ノ日數ニ據リ瀛車賃瀛船賃車馬賃日當ヲ支給スルモノトス

但土地ノ便宜ニヨリ日當ヲ除クノ外ハ勞力ヲ以テ換給スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ本人發程前之ヲ通知シ且其供給ヲナスヘシ

第十七條 瀛車賃ハ瀛車旅行瀛船賃ハ瀛船旅行車馬賃ハ陸路旅行日當ハ休泊料及其他諸費ニ充ツル爲メ之ヲ支給スルモノトス

第十八條 瀛車賃ハ哩數瀛船賃ハ海里數車馬賃ハ陸里數日當ハ日數ニ應シ之ヲ支給スルモノトス

但海灣河湖等其他海里ヲ以テ算セサル場所ヲ渡航スルトキハ其地方公稱ノ里數ニ應シ車馬賃ノ額ヲ支給スルモノトス

第十九條 日當ハ陸路六里末滿瀛車十哩未滿瀛船十海里未滿ノ旅行ニハ支給セサルモノトス

但公務ニヨリ宿泊スルトキハ宿泊ノ日數ニ應シテ日當ヲ支給スルモノトス

第二十條 瀛車賃瀛船賃及車馬賃ハ其種類毎ニ經過セシ路程ノ總數ヲ合算シ之ヲ支給スルモノトス

但一位未滿ノ端數ハ計算セサルモノトス
第二十一條 旅行ノ兩會計年度ニ跨ルトキハ各年度毎ニ之ヲ區分シ旅費ヲ計算スルモノトス

但瀛車賃瀛船賃ハ會計年度ニ拘ハラス瀛車瀛船ノ到達地ニ着シタル日ヲ以テ之ヲ區分シテ計算スルモノトス

第二十二條 赴任ノ旅費ハ前任地ヨリ轉任地ニ至ルマテ本職相當ノ瀛車賃瀛船賃車馬賃ノ倍數ヲ支給スルモノトス

第二十三條 新任ノ旅費ハ本人居住地ヨリ任地ニ至ルマテ本職相當ノ旅費ヲ支給スルモノトス

但尋常師範學校ヲ卒業シ直ニ任命ヲ受ケタルモノハ同學校所在地ヲ以テ本人ノ居住地ト看做スモノトス

第二十四條 旅行中歸省其他私事ノ爲メ許可ヲ得テ迂路ヲ通過スルトキハ順路ノ路程ニ應シテ旅費ヲ支給スルモノトス

第二十五條 旅行中廢校又ハ學校編制ノ變更ニヨリ退職シタルモノ若クハ死亡シタルモノハ前官相當ヲ以テ舊任地マデノ旅費ヲ支給スルモノトス

第二十六條 第二十二條第二十三條ノ場合ニ於テ日當ヲ支給スルカ爲メ其日數ヲ計算スルハ瀛車旅行ハ一日二百哩詰瀛船旅行ハ一日百海里詰陸路旅行ハ一日十二里詰トス

但距離接近シテ數種ノ旅行相跨ルトキハ各其路程十二分ノ一ヲ以テ一時間ノ行程トシ一日ノ旅行ヲ十二時間トシテ其日數ヲ計算スルモノトス

第三章 諸給與

第二十七條 教員職務執行ノ爲メニ要スル筆紙墨及其他文具ハ現品又ハ代料ヲ以テ之ヲ支給スルコトアルヘシ

二十五年訓令第六十五號參看

二十五年訓令六十五號參看

但學校ニ之ヲ備フルトキハ此限ニアラス

第二十八條 教員特別ニ勳勵シタルモノアルトキハ年末ニ於テ現給料額以內ノ慰勞金ヲ支給スルコトアルヘシ

第二十九條 教員執務時間ノ制限外ニ於テ補習科ノ教授ヲ擔任スルトキハ毎月現給三分ノ一以內ノ報酬金ヲ支給スルコトアルヘシ

◎縣令第二十六號 (明治二十五年四月十六日)

明治二十三年(十月)勅令第二百十五號小學校令第六十條ニ依リ市町村立小學校教員給料換給規則左ノ通之ヲ定メ本年七月一日ヨリ施行ス

市町村立小學校教員給料換給規則

第一條 市町村立小學校教員ノ給料換給ノ步合ハ現給料額三分ノ一以內トス

第二條 市町村立小學校教員ノ給料ヲ換給スル土地ノ使用又ハ物品ハ左ノ制限ニ依ル

- 一 自用耕地
- 二 自用日用品

第三條 市町村立小學校教員ノ給料ノ換給ハ當該教員ノ承諾ヲ得ルニアラサレハ之ヲフコトヲ得ス

但休職ヲ命シタル場合ハ更ニ承諾ヲ經ルヲ要ス

第四條 市町村立小學校教員ノ給料ヲ土地ノ使用ヲ以テ換給スルハ當該教員就職

後一ケ年ヲ經タルモノニアラサレハ之ヲ行フコトヲ得ス

但本人ニ於テ特ニ希望アルトキハ此限ニアラス

第五條 市町村立小學校教員ノ給料ヲ換給セントスルトキハ市參事會又ハ町村長
 町村學校組合長ニ於テ土地ノ使用ハ其地種坪數小作料又ハ借地料ノ金額及平年
 收穫物ノ種類、數量並其價格及耕作ニ關スル諸費、日用品ハ其品名、數量、價格
 ナ調査シ換給ノ歩合ヲ定メ當該教員ノ承諾書ヲ添ヘテ價格ノ確定ヲ請フヘシ

第六條 前條價格ノ確定ハ土地ノ使用ハ一ケ年ヲ以テ相當價格ノ標準ヲ定メ之ヲ
 十二分シテ月額ヲ確定シ日用品ハ總テ一ケ月ノ需用數ヲ計リ其數量ニ依リテ月
 額ヲ確定ス

第七條 郡長ニ於テ換給ノ價格ヲ確定シタルトキハ第五條ノ要件並確定ノ價格ヲ
 具シ知事ニ開申スヘシ

第八條 市參事會又ハ町村長町村學校組合長ハ土地ノ使用又ハ物品ノ價格確シ定
 タルトキハ當該教員ニ移牒シ其翌月ヨリ之ヲ施行スヘシ

◎縣令第二十七號 (明治二十五年四月十六日)

明治二十四年(三月)文部省令第一號私立小學校代用規則ニ依リ代用私立小學校授
 業料規則左ノ通之ヲ定メ本年七月一日ヨリ施行ス

代用私立小學校授業料規則

第一條 代用私立小學校授業料ノ金額ハ設立者ニ於テ市町村長又ハ町村學校組合

長ニ協議シテ之ヲ定ムヘシ

但其金額ハ市町村立尋常小學校授業料ノ規定額ヲ超ユルコトヲ得ス

第二條 代用私立小學校ノ授業料ハ兒童ノ保護者ヨリ物品若クハ勞力ヲ以テ代用
 ナ申出ツルトキハ之ニ應スヘシ

前項代納ノ制限ハ設立者ニ於テ市町村長又ハ町村學校組合長ニ協議シテ之ヲ定
 ムヘシ

第三條 代用私立小學校ニ於テ全月間休業シタルトキ又ハ規定ニ依リ全月間兒童
 ノ出席ヲ許サ、ルトキハ其月ノ授業料ヲ徵收スルコトヲ得ス

第四條 代用私立小學校授業料ノ徵收期日ハ設立者ニ於テ市長村長又ハ町村學校
 組合長ニ協議シテ之ヲ定ムヘシ

第五條 代用私立小學校設立者ハ兒童ノ保護者貧窮ナル場合又ハ一家ノ兒童二人
 以上同時ニ就學スル場合ニ於テハ市長村長又ハ町村學校組合長ノ協議ニ應シ授
 業料ノ全部若クハ一部ヲ免除シ又ハ之ヲ輕減スヘシ

◎訓令第五十六號 (明治二十五年九月十七日)

郡役所 市役所

町村役場

本年(四月)縣令第二十四號市町村立小學校教員給料旅費標準第一條但書ニ依リ給
 料額ヲ定メ及全則第六條ニ依リ旅費額等ヲ定メントスル場合ハ旅行ノ性質ヲ詳具

シ金額等ヲ定メ豫メ本廳ノ認可ヲ得ヘシ
◎縣令第四十七號 (明治二十五年九月三十日)

市町村立小學校教員ニ支給スヘキ旅費額左ノ通確定ス
但町村學校組合ヲ以テ設置セル高等小學校教員ノ旅費額ハ別ニ之ヲ確定ス

松山市

甲種ニ依ル

風早和氣温泉久米郡

三津濱町 雄群村

乙種ニ依ル

其他各町村

丙種ニ依ル

越智野間郡

各町村

丙種ニ依ル

新居周布桑村郡

西條町 神拜村學校組合

乙種ニ依ル

其他各町村(千足山村ヲ除ク)

二十五年縣令第五
十六號ヲ以テ各町
村中ニ神山ヲ加
ヘ括弧内「山村」
ヲ削除ス
二十六年縣令第六
號ヲ以テ滿崎村ヲ
加ヘ括弧内「滿崎
村」ヲ削除ス

丙種ニ依ル

宇摩郡

各町村

丙種ニ依ル

上浮穴郡

各村

丙種ニ依ル

下浮穴伊豫郡

各町村

丙種ニ依ル

喜多郡

三善村

丙種(郡内)乙種(郡外)ニ依ル

瀧川村

丙種(郡内)乙種(郡外)甲種(縣外)ニ依ル

其他各町村

丙種ニ依ル

西宇和郡

宮内村
 甲種ニ依ル
 川之石村
 乙種ニ依ル
 其他各町村
 丙種ニ依ル
 東宇和郡
 各町村
 丙種ニ依ル
 南宇和北宇和郡
 吉田町、丸穂村、八幡村、立間村
 乙種ニ依ル
 其他各町村
 丙種ニ依ル
 ◎縣令第五十五號 (明治三十五年十一月三十日)
 南宇和高等小學校外七校教員ノ旅費額左之通確定ス
 南宇和郡南宇和高等小學校
 右甲種ニ依ル

二十六年縣令第三十二號ヲ以テ桑村
 校追加
 二十六年縣令第四十號ヲ以テ西條校
 追加

二十六年縣令第十號ヲ以テ内子校追加
 二十六年縣令第三十二號ヲ以テ川上校以下五校追加
 二十六年縣令第四十號ヲ以テ周知校追加
 二十七年縣令

上浮穴郡久萬高等小學校
 桑村郡桑村高等小學校
 新居郡西條高等小學校
 右乙種ニ依ル
 宇摩郡三島高等小學校
 全 郡小富士高等小學校
 伊豫郡郡中高等小學校
 西宇和郡日吉崎高等小學校
 全 郡青石高等小學校
 喜多郡粟津高等小學校
 全 郡内子高等小學校
 久米郡川上高等小學校
 風早郡風早高等小學校
 周布郡福岡高等小學校
 全 郡小松高等小學校
 新居郡東新高等小學校
 東宇和郡周知高等小學校
 全 郡道泉高等小學校

令第五十號ヲ以テ
道泉以下二校追加

二十六年縣令第
三十二號ヲ以テ今
治校以下三校追加

二十五年訓第三三
〇號參看

北宇和郡津島高等小學校
右丙種ニ依ル

越智郡今治高等小學校
全 郡河南高等小學校

野間郡波止濱高等小學校

右郡内ハ丙種郡外ハ乙種ニ依ル

○訓令第六十五號 (明治二十五年十二月二十一日)

郡役所 市役所

町村役場

本年(四月)縣令第二十五號市町村立小學校教員給料旅費及諸給與支給規則第二十
八條第二十九條ニ依リ慰勞金又ハ報酬金ヲ支給セントスルトキハ市町村長又ハ町
村學校組合長ニ於テ其事由並金額ヲ具シ市立小學校ニ就テハ知事町村立小學校ニ
就テハ郡長ニ稟申スヘシ

但本文支給ヲ相當ト認ムルトキハ當該官廳ヨリ辭令書ヲ交付スヘシ

○縣令第五十四號 (明治二十六年十二月二十八日)

明治二十五年(九月)本縣令第四十六號市町村立小學校教員給料額確定示達手續左
ノ通改正シ明治二十七年一月六日ヨリ施行ス

一 市町村立小學校教員ノ給料額ハ本人へ交付シタル俸給辭令ヲ本縣公布式新聞

ニ登載シテ確定ノ示達ニ代フルモノトス

○縣令第五十六號 (明治二十七年九月十九日)

明治二十四年文部省令第二十號第五條第二項ニ依リ高等師範學校女子高等師範學
校工業教員養成所尋常師範學校ニ入學スルモノニシテ休職ヲ命スルモノ及同第三
項ニ依ル休職者ニハ明治二十五年愛媛縣令第二十五號第五條第一項本文ヲ適用セ
ス尋常師範學校ニ於ケル小學校教員講習科ニ入學スルモノニシテ休職ヲ命スルモ
ノニハ特別ノ場合ヲ除クノ外給料全額ヲ支給ス

市町村立小學校准教員ニシテ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者戰時若クハ事變ニ際シ召集
セラレタルトキハ任地出發ノ當日ヨリ任地ニ歸着ノ當日迄給料ヲ支給セス

第六節 雜

○訓第一〇號 (明治二十年一月二十一日)

各 郡

小學校及小學簡易科ノ名稱ハ自今學校所在ノ地名ヲ用ヒラルヘシ
但所轄内「戶長」ハモ此旨指示セラルヘシ

右訓令ス

○縣令第六號 (明治二十五年二月十日)

文部大臣ニ具申シ其指揮ニ依リ明治二十三年(十月)法律第八十九號地方學事通則

二十三年勅令第二
百十五號二十五
縣令第六號ニヨリ
小學簡易科消滅

及勅令第二百十五號小學校令ヲ本年四月一日ヨリ施行ス

第四章 各種學校幼稚園及書籍館

◎縣令第十號 (明治二十年一月十二日)

市町村立私立學校幼稚園書籍館設置廢止規則別冊ノ通相定ム

(別冊)

市町村立私立學校幼稚園書籍館設置廢止規則

第一章 市町村立

(第一條)

(第二條)

第三條 小學校ニ非ラサル他ノ市町村立學校又ハ幼稚園書籍館ヲ設置セントスルトキハ管理者ニ於テ左ノ各項ヲ調査シ知事ノ認可ヲ受クヘシ

學校ニ係ル項目

- 一 設置ノ事由
- 一 名稱
- 一 位置
- 一 教則
- 一 校則

二十五年縣令第十號ヨリ私立小學校幼稚園書籍館ニ關スル廢止規則第一號ヲ以テ本達中「市町村立」トアルヲ「市町村立」ト改ム
二十三年勅令第二百十五號二十五年縣令第十號ヨリ第一條第二條消滅
二十三年縣令第十號ヲ以テ第三條削除以下逐次遞上

生徒定員

校舍敷地

設置部内戸數人口及地價額

經費收支豫算(第一條經費收支豫算ノ項ニ同シ以下之ニ準スヘシ)

第四條 小學校ニ非ラサル他ノ市町村立學校又ハ幼稚園書籍館設置ノ後變更セントスルモノアルハ前條ニ準シ更ニ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第五條 小學校ニ非ラサル他ノ市町村立學校又ハ幼稚園書籍館ヲ廢止セントスルハ事由ヲ具シ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第二章 私立

第六條 私立學校幼稚園書籍館ヲ設置セントスルハ第三條各項(設置部内戸數人口地價ノ項ヲ除ク)ノ外尙設立者及教員若クハ保姆等ノ履歷ヲ具シ願出ヘシ

(但)

第七條 私立學校幼稚園書籍館設置ノ後位置名稱生徒又ハ幼兒ノ定員ヲ變更スルトキハ之ヲ届出其他ノ各項ヲ變更セントスルトキハ更ニ願出ヘシ

第八條 私立學校幼稚園書籍館ヲ廢止スルトキハ其事由ヲ具シ届出ヘシ

(附錄第一號書式)

附錄第二號書式

市町村立學校設置伺

設置ノ事由

二十三年縣令第十號ヨリ第六條中「第四條」ハ「第三條」ニ變更
二十五年縣令第十號ヨリ第六條但非消滅
二十三年勅令第二百十五號二十五年縣令第十號ヨリ第一號書式消滅

<p>一 名稱 何々(本校設置ノ目的并ニ何ノ情况アリテ之ヲ要スル等詳具スルヲ要ス)</p> <p>二 位置 何縣國郡町村番地</p> <p>三 教則 學科課程、教科用圖書、學期、授業日數、休日、授業要旨及試験ノ種別、試問ノ程度、採點法、及第落第ノ判別法、卒業證書式等別紙ノ通(別紙ハ本縣小學校教則若クハ師範學校教則等ニ準據シテ取調記載スヘシ)</p> <p>校則 入學退學規則、生徒心得、通學規則、寄宿舍規則、禁條罰則、授業料徵收方等別紙ノ通(取調及記載方ハ前項ニ同シ)</p> <p>一 生徒定員 何々(其教授セントスル人員(男女ヲ區別ス)及其年齡何歲以上ニシテ何程ノ學力ヲ有スル者ヲ入學セシムル等ヲ詳記スヘシ)</p> <p>一 校舍敷地 (第一號書式ノ部ニ同シ)</p> <p>一 設置部内戸數人口及地價額</p>
--

<p>一 戶數 何戸</p> <p>一 人口 何人</p> <p>一 地價 何圓</p> <p>一 經費收支豫算 別紙ノ通(別紙ハ經費取扱規則附錄書式ニ準シ記載スヘシ) 右之通設置仕度此段相伺候也</p> <p>年 月 日</p> <p>知 事 宛</p> <p>(備考) 一 幼稚園書籍館及私立學校等ハ右書式ニ準スヘシ</p> <p>(參照) 縣令第十號 (明治二十年一月十二日) 町村立私立學校幼稚園書籍館設置廢止規則</p> <p>第一條 一 經費收支豫算(本項調査方并取扱方ハ小學校經費取扱規則ニ依ルヘシ) 附錄第一號書式</p> <p>一 校舍敷地 別紙圖面ノ通</p>	<p>官 姓 名</p>
--	--------------

但校舍敷地共學校所有又ハ何ノ誰ヨリ借入等（別紙圖面ニハ敷地ハ地番方位坪數四隣ノ景况建物ハ其間取窓戸昇降口每室坪數等ヲ詳記スヘシ）

◎縣令第三十三號（明治十九年十二月十四日）
小校經費取扱規則別紙ノ通相定ム

但明治十五年（二月）甲第三十九號布達ヲ廢止ス

（規則畧之）

◎訓第四〇四號（明治二十二年九月六日）

郡役所

近來某學會又ハ何研究會ト稱シ殆ント私立學校ト同一ナル組織ヲ爲シ未タ其手順ヲ經スシテ學術ヲ教授講究スルモノ有之哉ニ相聞ヘ右ハ教授者ノ學力修學者ノ年齡及ヒ教授用書等ニ依リテハ弊害不尠儀ニ付實際石様ノモノ有之場合ハ速ニ其手順ヲ經ヘキ様指示セラルヘシ

右訓令ス

◎縣令第十二號（明治二十三年一月三十一日）

明治十五年（三月）甲第六十八號達私立學校心得左ノ通改定ス

私立學校心得

第一條 私立學校ハ縣官郡市町村吏員ノ視察ヲ拒ムコトヲ得ス

第二條 私立學校ニシテ其設置ノ主旨教則若クハ校則ニ違反シタルトキハ直ニ改正セシメ又ハ其學校ヲ廢止セシムルコトアルヘシ

第三條 私立學校ハ不都合ノ行爲アリテ官公私立學校ニ入學スルコトヲ禁止セラレタル者ノ入學ヲ許スヘカラサルハ勿論小學校ト均シキ普通教育ヲ施サ、ル學校ニ於テハ學齡兒童ヲ入學セシムルヲ得ス

但學齡兒童ト雖モ小學科業ノ除暇又ハ事故理由等アリテ市町村長ニ於テ支障ナキ旨ヲ證明シタル者ハ此限ニ非ス

第四條 私立學校生徒ノ學年末若クハ學期末試驗ハ其施行期日前豫メ郡役所又ハ市役所ヘ届出ヘシ

但私立小學校ハ本文届出ト全時ニ郡市吏員ノ監臨ヲ請フヘシ

第五條 私立小學校ノ教員及助手ハ其郡又ハ市ニ於テ施行スル學事會（教務研究會等）ニ參列スヘシ

第七條 私立學校ノ建築副築又ハ改修ハ豫メ郡役所又ハ市役所ノ調査ヲ受クヘシ

第八條 私立學校ハ所定ノ學事表簿ヲ調製シ期限アルモノハ其都度郡役所又ハ市役所ヘ差出スヘシ

◎縣令第十三號（明治二十五年三月二十四日）
明治二十四年（十一月）文部省令第十八號幼稚園圖書館盲啞學校其他小學校ニ類ス

二十五年八月縣令
第四十二號ニ依リ
第五條消滅

ル各種學校及私立小學校等ニ關スル規則ニ依リ幼稚園圖書館盲啞學校其他小學校ニ類スル各種學校及私立學校設置廢止規則左之通之ヲ定メ本年七月一日ヨリ施行ス
幼稚園圖書館盲啞學校其他小學校ニ類スル各種學校及私立小學校設置廢止規則

第一條 市町村又ハ町村學校組合ニ於テ幼稚園圖書館盲啞學校其他小學校ニ類スル各種學校ヲ設置セントスルトキハ左ノ事項ヲ具シ知事ノ許可ヲ受クヘシ
第一款 學校ノ設置ニ係ル項目

- 一 設置ノ事由
- 二 名稱
- 三 位置
- 四 教則
- 五 校則
- 六 兒童ノ定員
- 七 校地及校舎
- 八 經常費見込額

第二款 幼稚園ノ設置ニ係ル項目

- 一 設置ノ事由
- 二 名稱

- 三 位置
 - 四 保育規程
 - 五 園則
 - 六 幼兒ノ定員
 - 七 園地及園舎
 - 八 經常費見込額
- 第三款 圖書館ノ設置ニ係ル項目
- 一 設置ノ事由
 - 二 名稱
 - 三 位置
 - 四 館則
 - 五 圖書ノ種類
 - 六 經常費見込額

第二條 市町村立幼稚園圖書館盲啞學校其他小學校ニ類スル各種學校設置ノ後名稱兒童ノ定員經常費見込額圖書ノ種類等ヲ變更スルトキハ之ヲ開申シ其他ノ事項ヲ變更セントスルトキハ更ニ許可ヲ受クヘシ
第三條 市町村立幼稚園圖書館盲啞學校其他小學校ニ類スル各種學校ヲ廢止セントスルトキハ事由ヲ具シ許可ヲ受クヘシ

第四條 私立ノ幼稚園圖書館盲啞學校其他小學校ニ類スル各種ノ學校ヲ設置セントスルトキハ第一條ノ事項ヲ具シ知事ノ許可ヲ受クヘシ

第五條 私立ノ小學校ヲ設置セントスルトキハ第一條第一款ノ一項乃至三項及五項乃至八項ヲ具シ設立者ノ履歷書ヲ添ヘ知事ノ許可ヲ受クヘシ

前項小學校ノ設備並教則ハ小學校設備規則及小學校教則ヲ適用ス

第六條 私立小學校ノ設立者タルヲ得ヘキ者ハ左ノ資格ヲ具フルヲ要ス

- 一 年齢二十年以上ニシテ一ヶ年以上其地ニ住居シタル者
- 二 一ヶ年以上小學校ノ教員ニ従事シ若クハ三ヶ年以上私立小學校ノ設立者タルヲシテ經歷アル者
- 三 品行方正ノ者

第七條 私立幼稚園圖書館盲啞學校其他小學校ニ類スル各種學校及私立小學校設置ノ後名稱兒童ノ定員經常費見込額圖書ノ種類等ヲ變更スルトキハ之ヲ開申シ

其他ノ事項ヲ變更セントスルトキハ更ニ許可ヲ受クヘシ

第八條 私立幼稚園圖書館盲啞學校其他小學校ニ類スル各種學校及私立小學校ヲ廢止スルトキハ事由ヲ具シ五日以内ニ上申スヘシ

附則

第九條 此規則實施以前許可シタル私立小學校ノ設立者ハ第六條ノ規程ニ依ラズ尙設立者タルコトヲ得

但品行不正ノ者ハ此限ニアラス

第十條 此規則施行以前ニ許可シタル幼稚園圖書館盲啞學校其他小學校ニ類スル各種學校及私立小學校ニシテ本則ニ抵触セサルモノハ繼續スルコトヲ得此場合ニ於テハ設置ニ關スル要件ヲ具シ施行期限前知事ニ開申スヘシ

附錄書式

町村立(私立)學校設置願

- 一 設置ノ事由
- 何々(本學校設置ノ目的並何ノ情況アリテ之ヲ要スル等ヲ詳記スヘシ)
- 一 名稱
- 何學校(又ハ何館何院等)類私立ナルトキハ私立ノ二字ヲ冠スヘシ)
- 一 位置
- 何郡市町村番地
- 一 教則
- 別紙ノ通り(別紙ニハ教科目、課程、教科用圖書、學期、授業要旨、試驗規則、卒業證書式等ヲ記シ且教科用圖書ハ出版年月日著譯者及出版者ノ氏名ヲ詳記スヘシ)
- 一 校則
- 別紙ノ通り(別紙ニハ授業日數、休業日、入退學規則、生徒心得、通學生規則、寄

宿舍規則、禁條罰則、授業料規則等ヲ記スヘシ

一 児童ノ定員

何々(其教授セントスル人員(男女ヲ區別ス))

一 校地校舎

別紙圖面ノ通(圖面ニハ校地校舎、所有主ノ氏名、番地、方位、坪數、四隣ノ景狀、間取、窓戶、昇降口、每室坪數、便所、井戶、体操場ノ位置等ヲ詳記スヘシ)

一 經常費見込額

別紙ノ通(見込額ハ一周年度ニ要スル經濟ノ目的ヲ定ムルモノナレハ事業ヲ消長セサレハ毎年必スシモ變更ヲ要セサルヘシ故ニ成ルヘク精確詳密ナルモノヲ調査シ説明書ヲ添付スヘシ費目ノ分類ハ概子俸給需用費營繕費トシ適宜細目ヲ設クヘシ)

右ノ通設置致度ニ付許可相成度候也

何郡市町村長(又ハ住所族籍)

年月日

知事宛

氏名印

(備考) 幼稚園圖書館私立小學校等ノ設置ニ關スル書式モ右書式ニ準スヘシ

◎縣令第十六號 (明治二十五年三月三十一日)

明治二十四年(十一月)文部省令第十八號幼稚園圖書館盲啞學校其他小學校ニ類ス

二十五年訓令第三十四號全年訓第一六三號參看

ル各種學校及私立小學校等ニ關スル規則ニ依リ幼稚學保姆盲啞園校其他小學校ニ類スル各種學校教員免許規則左ノ通之ヲ定メ本年五月一日ヨリ施行ス

幼稚園保姆盲啞學校其他小學校ニ類スル各種學校教員免許規則

第一條 幼稚園保姆ノ免許ヲ請フ者ハ女子ニシテ左ノ資格ヲ具フルヲ要ス

一 年齡十八年以上ノモノ

一 身體健全ノモノ

一 品行方正ノモノ

第二條 幼稚園保姆ノ免許狀ハ高等小學校ノ學科程度(外國地理体操及ヒ裁縫ヲ省ク)ト左ノ學科程度ニ據リテ試験シ合格シタルモノニ之ヲ授與ス但唱歌ノ試験ニハ複音唱歌及樂器使用法ヲ附加シ又尋常師範學校ニ於テ保姆ノ講習ヲ卒リタルモノハ教育唱歌ノ試験ヲ要セス

教育、育兒法ノ大要、幼稚園管理ノ方法及實地保育

幼稚園保姆ノ免許狀ハ志願者ノ履歷ヲ檢査シ相當ト認ムルトキハ特ニ試験ヲ經スシテ之ヲ授與スルコトアルヘシ

第三條 盲啞學校其他小學校ニ類スル各種學校教員ノ免許ヲ請フモノハ左ノ資格ヲ具フルヲ要ス

一 年齡男子ハ二十年以上女子ハ十八年以上ノ者

一 身體健全ノ者

- 一 品行方正ノ者
- 第四條 盲啞學校其他小學校ニ類スル各種學校教員ノ免許狀ハ其學科ニ教育ノ一科ヲ加ヘ高等小學校正教員試驗ノ程度ニ準シテ試験シ合格シタルモノニ之ヲ授與ス
- 第五條 幼稚園保姆盲啞學校其他小學校ニ類スル各種學校教員ノ免許狀ハ本縣管内ニ於テ終身有効トス
- 第六條 幼稚園保姆盲啞學校其他小學校ニ類スル各種學校教員ノ檢定ハ本人ノ申立ニ依リ臨時之ヲ施行ス
- 但保姆ノ試験ハ時期ヲ定メテ志願者ヲ募リ之ヲ施行スルコトアルヘシ
- 第七條 檢定ヲ請フモノ及免許狀ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ手数料ヲ納ムヘシ
 - 一 檢定手数料 金三十拾錢
 - 一 免許手数料 金二十拾錢
- 第八條 免許狀ノ毀損又ハ亡失等ニ依リ更ニ下付ヲ請ヒ又ハ書換ヲ請フモノハ前條ニ依リ免許手数料ヲ納ムヘシ
- 第九條 手数料ハ當該官廳ノ納入告知書ニ依リ上納ノ手續ヲナスヘシ
- 第十條 檢定手数料免許手数料ハ願下ナシ若クハ檢定ニ應セサルトキト雖モ當該官廳ハ之ヲ還付セス

附錄第一號免許狀書式

幼稚園保姆免許狀

族籍 氏名 生年月日

右ハ愛媛縣管内ニ於テ幼稚園保姆タルヲ免許ス

年月日

縣知事位勳氏 名印

番號

教員免許狀

族籍 何科目 氏名 生年月日

右前記ノ科目ニ就キ檢定シ愛媛縣管内ニ於テ何々學校教員タルヲ免許ス

年月日

縣知事位勳氏 名印

番號

附屬第二號

幼稚園保姆(盲啞學校教員又ハ何々學校教員)檢定願
 私儀愛媛縣管内ニ於テ幼稚園保姆(何々學校教員)志願ニ付檢定相成度別紙履歷書相添ヘ此段相願候也

何郡市町村(寄留者ハ本籍並寄留籍ヲ記ス)
 戶番 族籍

年月日

氏名

愛媛縣知事宛

備考 盲啞學校及各種學校教員ノ志願者ハ檢定ヲ受クヘキ學科目ヲ記スヘシ
◎縣令第三十號 (明治二十五年四月十九日)

明治二十四年十一月文部省令第十八號幼稚園圖書館盲啞學校其他小學校ニ類スル各種學校及私立小學校等ニ關スル規則ニ依リ幼稚園保母盲啞學校其他小學校ニ類スル各種學校長教員任用解職取扱規程左ノ通之ヲ定メ本年七月一日ヨリ施行ス

幼稚園保母盲啞學校其他小學校ニ類スル各種學校長教員任用解職取扱規程

- 第一條 市町村長又ハ町村學校組合長ニ於テ市町村立幼稚園保母盲啞學校其他小學校ニ類スル各種學校長及教員ヲ任用解職セントスル時ハ其意見ヲ具申スヘシ
- 第二條 市町村長又ハ町村學校組合長ニ於テ保母又ハ學校長及教員ノ任用ヲ要スルトキハ其人物資格等ヲ審査シ履歷書ヲ添ヘテ具申スヘシ
- 第三條 保母又ハ學校長及教員ニ支給スヘキ俸給ノ支給書ハ市町村長又ハ町村長又ハ町村學校組合長ニ於テ之ヲ發シ同時ニ知事ニ開申スヘシ
- 第四條 保母又ハ學校長及教員ニ於テ其職ヲ辭セントスルモノアルトキハ市町村長又ハ町村學校組合長ニ於テ其事由ヲ審査シ意見ヲ附シテ進達スヘシ
- 第五條 私立幼稚園盲啞學校其他小學校ニ類スル各種學校設立者ニ於テ保母又ハ

學校長及教員ヲ任用シタルトキハ其年月日ヲ具シ履歷書ヲ添付シ解職シタルトキハ其年月日及事由ヲ具シ施行ノ日ヨリ五日以内ニ開申スヘシ
附錄第一號 市町村立幼稚園保母盲啞學校各種學校長及教員任用解職辭令書式

氏名
何々幼稚園保母(何々學校長又ハ教員)ヲ命ス

年月日
愛媛縣

氏名
何々保母學校長又ハ教員
依願保母(學校長又ハ教員)ヲ免ス

年月日
愛媛縣

附錄第二號 全上俸給支給書式

俸給支給書
一ヶ月俸給金何圓トス

年月日
何市町村

職氏名殿

二十年遠乙第五十
六號ニヨリ第二科
長消滅ニヨリ第一
則第三九二號ヲ以
テ二十年遠乙第五
十六號止三十七
年全一則第四二七
號ヲ以テ課長廢止

- 一 幼兒保育法ニ關スル事
 - 一 生徒衛生上ニ關スル事
 - 一 生徒試驗ニ關スル事
 - 一 生徒獎勵ニ關スル事
 - 一 夜學方法ニ關スル事
 - 一 校內清潔方法ノ事
 - 一 兒童就學勸誘方法ニ關スル事
 - 一 教員學術研究ニ關スル事
 - 一 貧民子女就學方法ノ事
 - 一 學資金増殖方法ニ關スル事
 - 一 學資金管理方法ニ關スル事
- 其他學事ニ關スル公布令達等實施方法ニ關スル事
- 第六條 學事集會ノ開設ハ毎年一回トス
但開會日數ハ一週間以内タルヘシ
- 第七條 學事集會ノ會長ハ郡長トス
但事故アルトキハ第二科長ヲシテ會長タラシムルコトヲ得
- 第八條 學事集會ノ細則ハ郡長之ヲ定ム
- 第九條 學事集會ノ開閉ハ其郡度郡長ヨリ知事ニ開申スヘシ

二十三年勅令第二
百十五號二十五
縣令第六號ニヨリ
小學簡易科消滅

- 第十條 學事集會ニ於テ談話若クハ決議シタル事項ハ閉會後十日以内郡長ヨリ知事ニ開申スヘシ
- 第十一條 學事集會ニ於テ決議シタル事項ニシテ實施ヲ要スルモノアルトキハ知事ノ指揮ヲ受クヘシ
- 第十二條 學事集會ニ於テハ學務外ノ事項又ハ成規ニ抵觸セル事項ヲ談話若クハ討議スルヲ得ス
- ◎達甲第五十一號 (明治十九年十二月十四日)
- 各郡町村

郡長ニ於テハ別紙準則ニ據リ教務研究會ヲ開設セシムルコトヲ得 (別紙)

- 教務研究會準則
- 第一條 教務研究會ハ小學校教科用書ヲ講究シ又ハ授業法管理法ニ關スル事項ヲ研究スルガ爲メ開設スルモノトス
- 第二條 教務研究會ノ區域及其會場ハ郡長之ヲ定メ知事ニ開申スヘシ
- 第三條 教務研究會ノ會員ハ聯合學區內小學校又ハ小學簡易科ノ教職ニ從事スルモノトス
- 第四條 教務研究會ノ會頭ハ會員ノ互選ヲ以テ之ヲ定ムヘシ
- 第五條 教務研究會ノ開設ハ毎年四回乃至八回トシ其日數ハ每會一日乃至二日トス

二十年告示第二十
五號ヲ以テ小學督
業廢止

第六條 教務研究會ノ期日時限及講究スヘキ事項ハ會頭之ヲ定メ豫メ會員ニ通知シ其期日ハ十日前郡長ニ開申スヘシ

第七條 郡吏及小學督業ハ教務研究會ニ臨場指示スルコトアルヘシ

第八條 教務研究會ノ會員病氣又ハ事故ニ依リ參會スル能ハサルトキハ其事由ヲ開會時限前會頭ニ届出ヘシ

第九條 教務研究會ニ於テ講究シタル事項及會員ノ出席欠席姓名等ハ會頭ヨリ其都度郡長ニ開申スヘシ

第十條 教務研究會ノ細則ハ郡長之ヲ定ムヘシ

◎達甲第廿三號 (明治廿一年九月廿一日)

郡役所 「戶長役場」

公立私立學校

禮節ハ風教ノ興廢ニ關スルモノニシテ教育上殊ニ緊要ノ儀ニ付キ學校生徒禮式要項自今左ノ通相心得一層行届候様取計フヘシ

但兵式上ノ禮式ハ此限ニアラス
右相達ス

學校生徒禮式要項

一 尊長ニ對スルハ直立シテ姿勢ヲ正クシ手ヲ前ニ垂レ眼ヲ敬禮スヘキ人ニ注キ以テ体ノ上部ヲ少ク前ニ傾ク (敬禮スヘキ人ニ後方ノ襟ヲ見セシメザルヲ度

トス)ヘシ

帽ヲ冠スルハ右手ニテ帽ヲ脱シ其裏面ヲ外ニ見ハサ、ル様ニシテ左手ト共ニ前ニ垂ルヘシ其他前ニ全シ

但女子ハ帽ヲ脱スルヲ要セス

行進中ニ在リテハ其敬禮スヘキ人トノ距離凡ソ五步ノ前ニ於テ先歩ヲ止メ側ニ避ケ前ノ如ク敬禮スヘシ

教室ニ敬禮スヘキ人ノ入り來ルトキハ教師ノ指揮ニ從ヒ直ニ業ヲ止メ其席ニテ直立シ前ノ如ク敬禮スヘシ敬禮終レハ一旦直立ニ復シ後席ニ就クヘシ

一 同輩ニ對スルトキハ頭ヲ少シク前ニ傾クヘシ
帽ヲ冠スルハ帽ヲ脱スルニ止ムヘシ

但女子ハ帽ヲ冠シタルマ、頭ヲ少シク前ニ傾クヘシ

行進中ニ在リテハ行進シナカラ前ノ如ク敬禮スヘシ

◎訓令第二十三號 (明治二十二年四月十一日)

郡役所 「戶長役場」

凡ソ學校開校式等其校ノ典禮ニ關スルモノナレハ固ヨリ之ヲ行フハ可ナリト雖モ之レカ爲メ徒ラニ虚飾ニ流レ奢侈ニ傾ク等ノ弊ヲ生スルニ至テハ教育ノ本旨ニ悖リ候儀ニ付右ハ專ラ質素ヲ旨トシ務テ冗費ヲ省キ善美ノ風ヲ維持スヘキ様篤ク注意スヘシ

◎訓令第一號 (明治二十四年一月九日)

郡役所 町村役場
公立學校

客年十月下賜セラレタル 勅語ハ實ニ教育ノ本義ニシテ日本國臣民ノ必ス服膺遵守スヘキ所ナリ殊ニ文部大臣ハ訓示ヲ發シ且 勅語并ニ訓示ノ謄本ヲ頒テ聖意ノ貫徹ヲ計ラル依テ學校職員ハ厚ク其意ヲ躰シ左記ニ因リ 勅語ヲ捧讀シ勵精訓誨以テ其ノ本分ヲ盡スヘシ

一 勅語ハ天長節紀元節及新年ノ三大節祝賀式場ニ於テ捧讀スヘシ
但其他便宜ノ時期ニ於テ捧讀スルコトヲ得

一 勅語捧讀了ラハ學校長又ハ教員ハ舉國以來列聖ノ御洪德ヲ彰揚シ國體ノ尊崇スヘキヲ講話シ我 皇室ニ對スル臣民ノ務メヲ懇諭シ且孝悌和信凡ソ人倫ノ大道ヲ訓誨シ以テ 勅語ノ旨ヲ服膺セシムヘシ

一 勅語捧讀ノ際裝置及職員生徒ノ整列方ハ客年十月訓令第九十二號ニ依ルヘシ
一 勅語ハ學校長捧讀シ職員生徒ヲシテ謹慎ニ拜聽セシムヘシ
但學校長不在又ハ之ヲ置カサル學校ニ於テハ主席教員之ヲ捧讀スヘシ

一 勅語捧讀ノ際ハ生徒ノ父母兄弟及親戚等便宜ノ場所ニ於テ拜聽セシムヘシ
◎訓令第八號 (明治二十四年二月十七日)

郡役所 市役所

町村役場 公立學校

教育ニ關スル 勅語並ニ文部大臣訓示謄本ハ鄭重ニ保存スヘキ勿論ノ處若シ萬一ニモ粗略ニ取扱候テハ不都合不悞候ニ付既ニ交附セシ學校ニシテ廢止候場合ハ直ニ其所轄郡役所又ハ市役所へ返納スヘシ郡役所又ハ市役所ハ之ヲ保管シ其所轄内ニ於テ新ニ設置セシ學校アルル更ニ交附スヘシ

但市町村立學校ヲ廢止シ直ニ之ニ代フル學校ヲ設立スルルハ本文ノ手順ニ依ラス新設學校ニ移スヘシ

◎訓令第三十號 (明治二十六年六月十日)

郡役所 市役所
公立學校

一 官吏又ハ著名ノ人士地方來往ノ際學校生徒隊ヲ成シテ道路ニ送迎スルノ事アルカ爲メニ或ハ學課ヲ妨ケ又ハ無用ノ勞ニ涉ルコトアリ自今皇族ニ對シ又ハ其學校々長及教員ニ對スル場合ノ外公立學校校長及教員ハ生徒ヲ誘導シテ是等ノ行爲ヲナスベカラス

但特別ノ事情アルトキハ縣立學校ニ於テハ知事郡市町村立學校ニ於テハ郡長又ハ市長ノ許可ヲ受クヘシ

二 學校生徒ノ遊歩運動ハ快活ノ氣象ヲ養フノ一端タリト雖モ鮮麗ノ旗幟及帽子等ヲ用キ殊ニ女生徒ニ於テ盛粧ヲ競フカ如キハ爲メニ無用ノ費ヲ爲スニ至リ其

弊抄シトセス校長及教員タル者宜シク注意スヘシ

第十四編 土地及水面

第一章 地種

二十二年告示第五
十號全告示第七十
號參看

◎甲第七十八號 (明治十六年十二月二十日)
民有ノ地所河溝道路溜池堤防成許可ノモノ地種變換手續自今別紙ノ通相定ム
右布達候事

(別紙)

地種變換願手續

第一條 河溝道路溜池堤防成着手ノ月ヨリ六ヶ月迄ニ全部着手セシモノハ工事ノ成否ニ拘ラス其翌月十日以内ニ地種變換ノ儀別紙甲號雛形ニ倣ヒ願出ヘシ

第二條 一旦工事着手ノ後若シ其業ヲ中止スルカ又ハ無間斷從事スルモ着手ノ月ヨリ六ヶ月ニ滿テ全部着手ノ場合ニ至ラサルモノハ六ヶ月ヲ分界トシ其工事ヲ施シタル部分ニ限リ地種變換ノ儀別紙乙號雛形ニ倣ヒ工事着手ノ分ト否トノ區別明瞭ノ色分圖面相副願出ヘシ

但一旦中止ノ地所地種組換ノ後再應工事着手ノ節ハ丙號雛形ニ倣ヒ届出ヘシ

第三條 七ヶ月以上ニ渉ル工事ハ六ヶ月毎ニ其工程ヲ量リ地種組換ノ區域ヲ定メ

前條同様ノ圖面相副翌月十日以内ニ地種變換ノ儀別紙丁號雛形ニ倣ヒ願出ヘシ

第四條 許可ノ後六ヶ月ニ至リ工事着手セサルモノハ翌月十日以内ニ別紙戊號雛形ニ倣ヒ届出ヘシ

(別紙)

甲號

潰地々種變換願

何國何郡何村

字何々何番地

何反別何程

外反別何程

何國何郡何村字何々何番地

何反別何程ノ内

一反別何程

外反別何程

右ノ地所何年何月何日何々成御許可ニ付何年何月何日工事着手何年何月何日工事竣功(或ハ未タ竣功ニ至ラス候得共既ニ事業全部へ着手)ニ付地種變換之儀御許可相成度此段奉願候也

何郡何(町村)何番地

年號月日

右(町村)「戸長」

何ノ誰印

地元「戸長」

何ノ誰印

何ノ誰印

「縣令」宛

乙號

潰地々種變換願

何國何郡何村

字何々何番地

何反別何程

外反別何程

畦畔或ハ何々

内

反別何程

工事着手ノ分

外反別何程

畦畔或ハ何々

反別何程

工事未着手ノ分

外反別何程

畦畔或ハ何々

何國何郡何村字何々何番地

何反別何程ノ内

一反別何程

外反別何程

畦畔或ハ何々

内

反別何程

工事着手ノ分

外反別何程

畦畔或ハ何々

反別何程

工事未着手ノ分

外反別何程

畦畔或ハ何々

右ノ地所何年何月何日何々成御許可ニ付何年何月何日工事着手ノ處何々ノ事故ニ據リ何年何月何日工事中止(或ハ六ヶ月内竣功難致)ニ付前書着手ノ分地種變換御許可相成度此段奉願候也

何郡何(町村)何番地

何ノ誰印

年號月日

右(町村)「戸長」

何ノ誰印

地元「戸長」

何ノ誰印

「縣令」宛

丙號

工事中止ノ地所再應着手ノ儀ニ付御届

何國何郡何村
字何々何番地

一何反別何程

外反別何程

畦畔或ハ何々

内

反別何程

糞ニ工事着手ニ付既ニ地種變換御許可分

外反別何程

畦畔或ハ何々

反別何程

今般工事着手ノ分

外反別何程

畦畔或ハ何々

何國何郡何村字何々何番地

何反別何程ノ内

一反別何程

外反別何程

畦畔或ハ何々

内

反別何程

糞ニ工事着手ニ付既ニ地種變換御許可分

外反別何程

畦畔或ハ何々

反別何程

今般工事着手ノ分

外反別何程

畦畔或ハ何々

右ノ地所何々成御許可ニ付糞ニ一旦工事着手ノ處事故有之事業中止ニ付何年何月何日前書功事着手ノ分地種變換ノ儀相願何年何月何日御許可相成候廉今般再應工事着手仕候間此段御届仕候也

何郡何(町村)何番地

年號月日

何ノ誰印

右(町村)「戸長」

何ノ誰印

地元「戸長」

何ノ誰印

「縣令」宛

丁號

潰地々種變換願

何國何郡何村

字何々何番地

一何反別何程

外反別何程

畦畔或ハ何々

内
 反別何程(最初變換願ノ節ハ此項ヲ除ク)既ニ地種變換御許可ノ分
 外反別何程 畦畔或ハ何々
 反別何程 何年何月ヨリ工事着手ノ分
 外反別何程 畦畔或ハ何々
 反別何程 何年何月ヨリ工事着手スヘキ分
 外反別何程 畦畔或ハ何々
 何國何郡何村字何々何番地
 何反別何程ノ内
 一 反別何程
 外反別何程 畦畔或ハ何々
 内
 反別何程(最初變換願ノ節ハ此項ヲ除ク)既ニ地種變換御許可ノ分
 外反別何程 畦畔或ハ何々
 反別何程 何年何月ヨリ工事着手スヘキ分
 外反別何程 畦畔或ハ何々
 反別何程 何年何月ヨリ工事着手スヘキ分
 外反別何程 畦畔或ハ何々

右ノ地所何年何月何日何々成御許可ノ條何年何月ヨリ何年何月迄六ヶ月間工事着手ノ分前書之通地種變換御許可相成度此段奉願候也

年號 月 日

右(町村)「戶長」

何ノ誰印

「縣令」宛

戌號

工事未着手ノ儀ニ付御届

何國何郡何村
 字何々何番地
 一 何反別何程
 外反別何程 畦畔或ハ何々
 何國何郡何村字何々何番地
 何反別何程ノ内
 一 反別何程

外反別何程 畦畔或ハ何々
右ノ地所何年何月何日何々成御許可相成候處何々ノ事故ニ據リ今以テ工事着手不仕候間此段御届仕候也

年號 月 日

右(町村)「戸長」

何ノ誰印

地元「戸長」

何ノ誰印

「縣令」宛

何ノ誰印

◎告示第五十號 (明治二十二年六月七日)

民有地ヲ官有地成ノ河川道路堤塘溝渠等へ許可セシモノ明治十六年(十二月)本縣甲第七十八號布達ニ依リ地種變換出願ノ節ハ每地ノ地價ヲ其反別ノ左側へ記シ出願スヘシ

◎訓令第二十七號 (明治二十五年四月十四日)

郡役所 市役所

町村役場

明治十七年第七號布告地租條例第二十四條ノ荒地ニシテ到底起返ノ目的ナキモノ

二十五年訓第一〇五號參看

ハ是迄改メテ地種變換ノ義出願爲致來リ候處自今ハ其川成海成湖水成ノ届書ヲ受理スルト同時直ニ官有地ニ編入スルヲ以テ別ニ地種ノ變換ヲ出願セシムルニ及ハサル義ト心得ヘシ

◎訓第一〇五號 (明治二十五年四月十四日)

「直稅分署」

地租條例第二十四條ニ掲グル荒地ニシテ到底起返ノ目的ナキモノ地種變換ノ義ニ付今般訓令第二十七號ノ通り相定候ニ付テハ自今該地檢査濟ノ都度左ノ書式ニ倣ヒ本縣内務部へ報告スヘシ

川(海)(湖)成届處分濟報告

地名番地	舊地	自荒地	目反	別地	價地	主名
	田或ハ畑	川或ハ海	、、、、、、			
何郡何村大字何字何々番地						
計						

以下記載方倣之
但シ計ハ郡別ヲ以テシ其總計ハ付スルニ及ハス
右及報告候也

年月日

内務部 宛

基「直稅分署」印

第二章 地籍

◎甲第二百九號 (明治十五年九月廿二日)

地籍編纂規則別冊ノ通相定メ一郡ヨリ漸次着手候條此段布達候事

但着手郡村名等ハ追テ可相達候事

(別冊)地籍編製規則

第一章 綱領

第一條 地籍編製ハ其所有ノ官民ヲ論セス總テ土地ノ經界ヲ釐正シ廣狹ヲ測量シテ其方積ヲ求メ地種ノ名稱ニ據テ圖籍ヲ製シ字名請番號ニ到ルマテ一目瞭然ナラシムルモノニシテ實ニ國家ニ日モ欠クヘカラサル一大緊要ノ典籍ナリ故ニ苟モ本業ニ從事スルモノハ宜シク此旨趣ニ悖戻セサルヲ要ス

第二條 地籍ハ全國地籍府縣地籍州地籍町村地籍ノ五種アリ其町村地籍ハ地元町村ニ於テ之ヲ編製シ郡地籍以上ハ管廳ニ於テ管理スルモノトス

第三條 地籍下調順序ハ每一筆ヨリ起リ一耕地(或ハ何號山)又ハ一字限リ表(丙

丁號離形ニ據ル)ヲ製シ而シテ全町村ニ及ホスモノトス

第四條 地籍ハ一ケ年毎ニ土地ノ變換ヲ添刪更正スルモノトス

第二章 地所經界

第一條 土地ノ區界ヲ釐正スルハ地籍編纂ノ最モ主要トスル所ナレハ各町村及各切圖字各一筆限リ等四至ノ經界ヲ判明ナラシムルヲ以テ第一着之事業トス

第二條 國郡町村四至ノ經界ハ双方(「戶長」及人民總代等)立會之上從來ノ證據又ハ慣例等ニ仍リ取調適宜(可成不粘)品ヲ用ユヘシ)目標ヲ建設シ以テ一目瞭然ナラシムヘシ

第三條 經界ノ他府縣下ニ交接スルモノハ本郡長ヨリ該郡長ハ照會シ郡長又ハ主務ノ書記並ニ双方ノ「戶長」及人民總代等ト俱ニ實地ニ莅會シテ第二條ニ準シ目標ヲ建設スヘシ

但前二條ノ目標建設ニ臨ミ双方其境界ノ所見ヲ異ニスルカ如キ場合ニ於テハ暫ク右目標建設ヲ中止シ處分方伺出ヘシ

第四條 島嶼ニシテ其村浦ノ所屬明瞭ナルモノハ其村浦(最近キ何岬又ハ何岩類)ヨリノ方位ヲ求メ距離ヲ量リ之レヲ圖面ニ詳記スヘシ若シ又從來何村浦ノ所屬不明瞭ノモノハ最寄ノ村浦協議ノ上何村浦ハ所屬ヲ見込テ立テ地景明瞭ナル圖面ヲ製シ處分方伺出ヘシ

第三章 丈量方積

第一條 地籍ハ總テ水平面ヲ實測スルヲ法トス

但耕宅地山林等明治九年地租改正ノ際既ニ丈量濟ノ分ハ暫ク該反別ヲ登錄

十六年甲第六號ヲ以テ第四條但中書ヲ註除全甲第百六十二號ヲ以テ削

スヘシ尤堤塘道路畦畔ノ如キハ平面積ノ反別ヲ量ルモノトス
第二條 島嶼ハ滿潮ノ下キ水上ニ現ル、所チ界トシ丈量スヘシ
第三條 土地ヲ度ルハ曲尺六分ヲ壹釐トシ十釐(六寸)ヲ壹歩トナシ拾歩(六尺)一
間トナシ總テ何萬何千何百何拾何間何步何釐ヲ以テ計算スヘシ
第四條 官有地ノ内嵯峨タル山岳廣漠ナル原野其他河川堤塘道路等未タ實測シ無
之分ハ先概反別ヲ見積リ掲載置クヘシ

(但)
第五條 道路堤塘河川ノ類數耕地(或ハ山)又ハ數字ニ連亘セルモノハ一耕地(或
ハ山)又ハ一字限リヲ以テ一筆ニ取調ヘシ
但一耕地(或ハ山)又ハ一字中ニ於テ其地ノ分離スルモノハ別筆ニ取調ヘシ

第六條 土地ノ方積ヲ求ムル市街ハ坪數ノ稱ヲ以テ勾位迄ヲ須ヒ郡村ハ町反畝步
ヲ以テ步位ニ止メ右以下ハ各切捨タルヘシ尤一筆ニシテ(坪步)未滿ノモノハ何
合何勾ト記載スヘシ

但一繩毎ノ丈量ハ市街地ハ才位迄郡村地ハ勾位迄ヲ記載スヘシ
第四章 地所名稱

第一條 地所ノ名稱ハ明治七年第二百十號全八年第四百十四號全第九百五十四號全
九年第八十八號全十三年第四十三號公布ニ仍ルヘシト雖モ尙別冊書式ニ倣ヒ科
目毎無遺漏取調ヘシ

十六年甲第六十六號ヲ以テ第二條ノ冒頭ニ「地籍簿ニハテ加ヘ」モ「ハ」下「別ニ」ヲ「各」種「ト」改ム
十六年甲第六十六號ヲ以テ第三條ノ冒頭ニ「耕地」以下「下」字ヲ加ヘ「各」種「場」等「ノ」下「各」種「ノ」二字ヲ挿入

十七年甲第七十三號ヲ以テ第一條中「類ハ」ノ下「地目」以下「七」字ヲ「其欄」以下「九」字ニ改ム

第二條 地籍簿ニハ地租改正ノ際一筆ノ内ニ取調タル項々タル各種類ハ別ニ顯ス
ニ及ハスト雖モ本地ノ外書ニナシタルモノハ各種類集シテ掲クヘキモノトス
第三條 一耕地又ハ一字限表中堤塘道路敷地或ハ社寺耕宅地等ノ區域チナシタル
官有地又ハ民有地ノ内ニ有之電信架線柱敷地及ヒ揭示場各種ノ類ハ本地ノ内書
ニ步數ト名稱トヲ顯シ置ヘシ
第四條 官有空地及ヒ堤塘道路敷地中ニ神社堂宇又ハ人民居宅ヲ建設シ或ハ林敷
桑植付等ノ爲メ許可ノケ所ハ其事由ト反別トチ内書ニ顯スヘシ
第五條 河川内ニアル附寄洲ヲ林敷又ハ畑等ニ任用許可ノケ所ハ其河川反別ノ内
書ニ顯スヘシ
第六條 社寺一境内ニシテ官民有兩種混同ノ地所ハ官有地ヲ記載スルハ民有地
ヲ外書ニシ民有地ヲ記載スルハ官有地ヲ外書ニ記載スヘシ

第五章 土地名稱
第一條 官有地ハ總テ其直轄スル官省廳ノ名ヲ以テシ道路堤塘溝渠等ノ類ハ其欄
内チ空野ニ置キ民有地ハ其所有者ヲ登記スヘシ
第二條 地籍編製ノ際地名所有等未定ノ廉アリ現今伺中ニテ指令未濟ノ者ハ其原
稱ニ據テ記載スヘシ
第六章 土地番號
第一條 土地ノ番號ハ地租改正ノ地番ヲ記載スヘシ

但道路堤塘河川ノ類ニシテ未タ地番ノ設ケナキ者ハ新タニ番號(尤番外何番ト唱フヘシ)ヲ付スヘシ

第七章 地籍地圖

第一條 地圖地籍ハ相待テ用ヲ爲スモノニ付前章各種地籍編纂ニ方リ地圖細密ナラサレハ實地明瞭ヲ得難シ故ニ別紙(甲號乙號)凡例ニ倣ヒ精敷ナル圖面ヲ調製スルモノトス

但改租ノ際調製シタル圖面ヲ根據トシテ取調ルモ妨ケナシ

第二條 町村全圖ハ其周圍ヲ限リ三千分一(二厘ヲ以テ一間トス)ノ實測圖ヲ調製シ測點ヲ記入スヘシ

但改租ノ際一厘間(六千分一)又ハ一分間(六百分一)等ヲ以テ調製セシ町村ハ今般漸ニ實測ヲ要セス最前ノ圖面謄寫ノ上其縮圖ノ歩合ヲ登記シ置ヘシ

第三條 町村地籍ハ全國ノ外ニ乙號凡例ニ據リ地番ヲ付シタル切圖(何番耕地)或ハ何號山)又ハ一字限リ圖)ヲモ調製スヘシ

第四條 切圖ノ内木山及林ハ其木種竹山草山又ハ藪秣場木生草地等ノ類ハ其種類ノ一字ヲ番號ノ肩書ニスヘシ

第五條 切圖ニハ一村全圖ニ對照シ其個數ニ應シテ番號ヲ付スヘシ

第六條 岩礁(湖ノ滿干ニ仍リ出沒スル者)ト暗礁(常ニ水底ニアル者)トヲ區別取調圖面ハ其位置ト名稱ヲ記載スヘシ

第七條 地籍及地圖ハ各一通ヲ編製シ測點記(方位間數ヲ記載セシ者)一通ヲ添ヘ

十六年甲第六號ヲ以テ第二條改正十九年甲第八十四號ヲ以テ調製ノ下ヘシ測點以下六字ヲ挿入
十六年甲第六號ヲ以テ第三條調製スヘシノ下以下例除
十八年甲第六號ヲ以テ第四條改正
十九年甲第八十四

號ヲ以テ第七條中「編製シ」ノ下「測點」以下十九字及「留置」通ハ「下該測點以下七字」挿入二十年縣令第四十五號ヲ以テ「郡役所」ヲ經由シ「ノ七字」削除
十八年甲第六號ヲ以テ第九條追加

十六年甲第六十六號ヲ以テ第二條改正

縣廳ニ差出スヘシ縣廳ニ於テハ之レヲ査閲シ誤謬ナキモノハ割印ヲ付シ一通ハ縣廳ニ留置キ一通ハ該測點記ヲ添ヘ其町村ヘ下付スヘシ
第八條 一町村ノ全圖ニハ四隣町村「戸長」并ニ村民總代二名以上ノ連署ヲ要ス
第九條 本地内書ノモノト雖凡池ノ堤塘ニシテ道路ヲ兼テ前後普通道路ヘ連絡スルモノニ限リ町村全圖ヘ顯ハスヘシ
第八章 地籍變換並改正年度
第一條 町村ニ於テ地籍變換ノアル毎遺漏ナク之レヲ記入シ置キ每一ケ年檢査ノ需用ニ供スヘシ
第二條 每一ケ年ノ改正ハ毎年一月一日ニ起リ三月卅一日ニ畢ル即チ前年一月一日ヨリ其年三月卅一日迄ノ土地變換ヲ簿冊上ニ於テ査閲シ或ハ實地ニ就テ檢査スルモノトス

地籍帳

何郡何町(村)

十九年甲第八十四
號以テ地籍帳番
式中各地目反別ノ
下ハ何ヶ所(筆數)
ノ五字追加

官有地

此反別

何ヶ所(筆數)

内譯

第一種 反別

何ヶ所(筆數)

一神地

此反別

何ヶ所(筆數)

内

山陵

此反別

何ヶ所(筆數)

國幣中社

此反別

何ヶ所(筆數)

國幣小社

此反別

何ヶ所(筆數)

縣社

此反別

何ヶ所(筆數)

郷社

此反別

何ヶ所(筆數)

村社

此反別

何ヶ所(筆數)

無格社

此反別

何ヶ所(筆數)

神社遙拜所

此反別

何ヶ所(筆數)

祖靈社

此反別

何ヶ所(筆數)

(此他記載スヘキ科目アレハ右ニ準シ無違漏記載スヘシ以下總テ之ニ
倣フ)

第二種 反別

何ヶ所(筆數)

一官用地

此反別

何ヶ所(筆數)

内

縣廳

此反別

何ヶ所(筆數)

縣廳用地

此反別

何ヶ所(筆數)

内

種藝試驗場	反別	何ヶ所(筆數)
監獄署	反別	何ヶ所(筆數)
監獄支署	反別	何ヶ所(筆數)
監獄署附屬寬役場	反別	何ヶ所(筆數)
同支署附屬何々	反別	何ヶ所(筆數)
警察署	反別	何ヶ所(筆數)
警察分署	反別	何ヶ所(筆數)(交番所。此内ニ入)
官舎	反別	何ヶ所(筆數)(官宅モ此内ニ入)
陸軍省用地		
此反別		何ヶ所(筆數)
内		
鎮臺分營	反別	何ヶ所(筆數)
練兵場	反別	何ヶ所(筆數)
火藥庫	反別	何ヶ所(筆數)
雜庫	反別	何ヶ所(筆數)
病院	反別	何ヶ所(筆數)
射的場	反別	何ヶ所(筆數)
銃兵工作場	反別	何ヶ所(筆數)

司法省用地		
此反別		何ヶ所(筆數)
内		
裁判所	反別	何ヶ所(筆數)
「工部省」用地		
此反別		何ヶ所(筆數)
内		
電信分局	反別	何ヶ所(筆數)
海底線陸揚場	反別	何ヶ所(筆數)
第三種 反別		何ヶ所(筆數)
一山岳		
此反別		何ヶ所(筆數)
内		
銀坑		
此反別		何ヶ所(筆數)
内		
官坑	反別	何ヶ所(筆數)
借區	反別	何ヶ所(筆數)

銅坑	
此反別	何ヶ所(筆數)
內	
官坑	反別
借區	何ヶ所(筆數)
鐵坑	反別
此反別	何ヶ所(筆數)
內	
官坑	反別
借區	何ヶ所(筆數)
鉛坑	反別
此反別	何ヶ所(筆數)
內	
官坑	反別
借區	何ヶ所(筆數)
安質母尼坑	反別
此反別	何ヶ所(筆數)
內	

十六年甲第百六十
二號ヲ以テ一等官
林ヨリ員外官林ニ

官坑	反別	何ヶ所(筆數)
借區	反別	何ヶ所(筆數)
石炭坑	反別	何ヶ所(筆數)
此反別	何ヶ所(筆數)	
內		
官坑	反別	何ヶ所(筆數)
借區	反別	何ヶ所(筆數)
砥石坑	反別	何ヶ所(筆數)
此反別	何ヶ所(筆數)	
內		
官坑	反別	何ヶ所(筆數)
借區	反別	何ヶ所(筆數)
一等官林	反別	何ヶ所(筆數)

至「此木數」ノ三
字削除

- 此反別 何ヶ所(筆數)
- 二等官林 何ヶ所(筆數)
- 三等官林 何ヶ所(筆數)
- 此反別 何ヶ所(筆數)
- 禁伐官林 何ヶ所(筆數)
- 此反別 何ヶ所(筆數)
- 内 何ヶ所(筆數)
- 水源涵養 何ヶ所(筆數)
- 此反別 何ヶ所(筆數)
- 土砂拵止 何ヶ所(筆數)
- 此反別 何ヶ所(筆數)
- 風潮除 何ヶ所(筆數)
- 此反別 何ヶ所(筆數)
- 類雪止 何ヶ所(筆數)
- 此反別 何ヶ所(筆數)
- 漁付場 何ヶ所(筆數)
- 此反別 何ヶ所(筆數)

回船目標

此反別

何ヶ所(筆數)

國郡村境界目標

此反別

何ヶ所(筆數)

員外官林

此反別

何ヶ所(筆數)

貸山地

此反別

何ヶ所(筆數)

内

柴草場

此反別

何ヶ所(筆數)

芻探場

此反別

何ヶ所(筆數)

一丘陵

此反別

何ヶ所(筆數)

一藪

此反別

何ヶ所(筆數)

(種類毎ニ區別シ一廉限リ記載スヘシ以下之ニ做フ)

十八年甲第六號ヲ以テ溝渠舊式改正

- 一 原野
此反別
何ヶ所(筆數)
- 一 荒蕪地
此反別
何ヶ所(筆數)
- 一 河川
此反別
何ヶ所(筆數)
- 一 沼
此反別
何ヶ所(筆數)
- 一 池
此反別
何ヶ所(筆數)
- 一 澤
此反別
何ヶ所(筆數)
- 一 溝渠
此反別
何ヶ所(筆數)
- 一 堤塘
此反別
何ヶ所(筆數)
- 一 用水路
反別
何ヶ所(筆數)
- 一 惡水路
反別
何ヶ所(筆數)

十八年甲第六號ヲ以テ堤塘兼道路梁番式追加

- 一 堤塘兼道路
此反別
何ヶ所(筆數)
- 一 堤塘兼縣道
反別
何ヶ所(筆數)
- 一 全 本道
反別
何ヶ所(筆數)
- 一 全 支道
反別
何ヶ所(筆數)
- 一 全 作場道
反別
何ヶ所(筆數)
- 一 道路
此反別
何ヶ所(筆數)
- 一 國道何號線
反別
何ヶ所(筆數)
- 一 縣道 一等
反別
何ヶ所(筆數)
- 一 全 二等
反別
何ヶ所(筆數)
- 一 全 三等
反別
何ヶ所(筆數)
- 一 里道 以下
反別
何ヶ所(筆數)
- 一 全 本道
反別
何ヶ所(筆數)

二十一年縣令第八十一號ヲ以テ「國道」ノ下「三等」ヲ「何號線」ト改ム

- 一 墳墓地
此反別
何ヶ所(筆數)
- 一 舊行刑場
此反別
何ヶ所(筆數)
- 一 火葬場
此反別
何ヶ所(筆數)
- 一 縣廳附屬地
此反別
何ヶ所(筆數)
- 一 陸軍省附屬地
此反別
何ヶ所(筆數)
- 一 第四種 反別
何ヶ所(筆數)
- 一 寺院敷地
此反別
何ヶ所(筆數)
- 一 學校敷地
此反別
何ヶ所(筆數)
- 一 師範學校
此反別
何ヶ所(筆數)

- 一 中學校
此反別
何ヶ所(筆數)
- 一 小學校
此反別
何ヶ所(筆數)
- 一 説教場
此反別
何ヶ所(筆數)
- 一 病院
此反別
何ヶ所(筆數)
- 民有地
此反別
何ヶ所(筆數)
- 一 第一種
内譯
何ヶ所(筆數)
- 一 田
外畦畔
反別
何ヶ所(筆數)
- 何ヶ
反別
(以下之ニ準ス)
- 一 畑
反別
何ヶ所(筆數)
- 一 宅地
反別
何ヶ所(筆數)
- 一 鹽田
反別
何ヶ所(筆數)

一 鹽濱	反別	何ヶ所(筆數)
一 製鹽場	反別	何ヶ所(筆數)
一 試作地	反別	何ヶ所(筆數)
内		
反別	何ヨリ何迄何ヶ年季	何ヶ所(筆數)
反別	何ヨリ何迄何ヶ年季	何ヶ所(筆數)
一切替畑	反別	何ヶ所(筆數)
一 山	反別	何ヶ所(筆數)
内		
草山	反別	何ヶ所(筆數)
内		
柴草場	反別	何ヶ所(筆數)
蕪秣場	反別	何ヶ所(筆數)
木山	反別	何ヶ所(筆數)
内		
檜山	反別	何ヶ所(筆數)
松山	反別	何ヶ所(筆數)
桐山	反別	何ヶ所(筆數)

種類毎ニ區別シテ記載スヘシ林ノ部モ亦同シ

雜木山	反別	何ヶ所(筆數)
諸抗山	反別	何ヶ所(筆數)
内		
石炭山	反別	何ヶ所(筆數)
斫石山	反別	何ヶ所(筆數)
砥石山	反別	何ヶ所(筆數)
一 林		
内		
檜林	反別	何ヶ所(筆數)
松林	反別	何ヶ所(筆數)
栗林	反別	何ヶ所(筆數)
雜木林	反別	何ヶ所(筆數)
一 草地		
一 學校敷地	反別	何ヶ所(筆數)
此反別		
内		
中學校敷地		何ヶ所(筆數)
此反別		

小学校敷地	此反別	何ヶ所(筆數)
一 病院敷地	此反別	何ヶ所(筆數)
一 郷藏敷地	此反別	何ヶ所(筆數)
一 物干場	此反別	何ヶ所(筆數)
一 牧場	此反別	何ヶ所(筆數)
一 水車場	此反別	何ヶ所(筆數)
一 堂宇敷地	此反別	何ヶ所(筆數)
一 郷社	此反別	何ヶ所(筆數)
一 村社	此反別	何ヶ所(筆數)

(但無格社ハ何ヶ所此反別何程ト取束子此大ヘ記載スヘシ)

一 神社遙拜所	此反別	何ヶ所(筆數)
一 祖靈社	此反別	何ヶ所(筆數)
一 寺院敷地	此反別	何ヶ所(筆數)
一 寺院遙拜所	此反別	何ヶ所(筆數)
一 池	此反別	何ヶ所(筆數)
一 沼	此反別	何ヶ所(筆數)
一 荒地	此反別	何ヶ所(筆數)
内	此反別	何ヶ所(筆數)
田	反別	何ヨリ何迄何ヶ年免租 何ヶ所(筆數)

畑 反別
第二種 反別

何ヨリ何迄何ヶ年免租

何ヶ所(筆數)

一 郷社

此反別

何ヶ所(筆數)

一 村社

此反別

何ヶ所(筆數)

一 墳墓地

此反別

何ヶ所(筆數)

一 火葬場

此反別

何ヶ所(筆數)

一 石寄場

此反別

何ヶ所(筆數)

一 池

此反別

何ヶ所(筆數)

一 沼

此反別

何ヶ所(筆數)

一 井戸敷

此反別

何ヶ所(筆數)

一 泉敷

此反別

何ヶ所(筆數)

一 堤塘

此反別

何ヶ所(筆數)

一 溝渠

此反別

何ヶ所(筆數)

内

用水路

反別

何ヶ所(筆數)

惡水路

反別

何ヶ所(筆數)

一 道路

此反別

何ヶ所(筆數)

内

本道

反別

何ヶ所(筆數)

支道

反別

何ヶ所(筆數)

作場道

反別

何ヶ所(筆數)

寄

合反別何程

何ヶ所(筆數)

此譯

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	官三	同	同	同	同	同	同	同	同
同	民一	同	同	同	同	同	同	同	同
同	八	竹	山	同	同	同	同	同	同
同	七	何社 <small>(縣社又ハ村社無 格社等社格ヲ云)</small>	何社 <small>(縣社又ハ村社無 格社等社格ヲ云)</small>	同	同	同	同	同	同
同	六	燈明臺敷地	燈明臺敷地	同	同	同	同	同	同
同	五	杉	杉	同	同	同	同	同	同
同	四	何郡何村	何郡何村	同	同	同	同	同	同
同	三	何等官林	何等官林	同	同	同	同	同	同
同	二	何社 <small>(縣社又ハ村社無 格社等社格ヲ云)</small>	何社 <small>(縣社又ハ村社無 格社等社格ヲ云)</small>	同	同	同	同	同	同

(紙末へ全町村地籍書式ニ倣ヒ類寄スヘシ)
右何號(或ハ字)山林地番名受等書面ノ通相違無之候也

年月日

何町村
總代 何 誰 印
何町村
「戸長」 何 誰 印

(左ノ圖式等ハ畧之)
一甲號 町村全圖 (十八年甲第六號參看)

- 一甲號 凡例 (二十一年縣令第八十一號參看)
- 一乙號 切圖 (十五年甲第二百四十五號參看)
- 一乙號 凡例 (十八年甲第六號參看)
- ◎乙第六十四號 (明治十六年五月五日)

各郡町村

客年(九月)甲第三百九號布達地籍編纂規則第七章第二條町村全圖之儀ハ郡地籍圖之基本ニ付一層緻密之調査ヲ要スルハ論ヲ俟タサル儀ニ候得共或ハ實測ニ際シ測點又ハ間數等ノ登記ニ於テ粗漏誤謬アル所ハ製圖上實地下相反シ四隣町村圖ト自然離隔ヲ生シ候様立至リ候ニ付右等厚ク注意シ取調ヘク萬一四至ノ境界符合セサル場合ニ於テハ其个所限リ再調セシムル歟若シクハ係リ官吏派遣更ニ實測爲致候儀モ可有之候條後日看易キ爲メ必ス毎測點ニ假目標(第何號點ト記セシモノ)建設シ追而査閱濟マテ存置候様可致此旨相達候事

但町村ノ都合ニ依リ一字限リ又ハ一耕地限リ分割實測セシモノモ本文ニ準ス

◎甲第四百十四號 (明治十六年九月十一日)

客年(九月)甲第三百九號ヲ以テ地籍編纂規則制定一郡ヨリ漸次着手スヘキ旨及布達候處詮議ノ次第有之更ニ管内一般ニ着手ス

但各町村ハ着手時日確定ノ上其旨届出ヘシ

右布達候事

◎乙第四十二號 (明治十七年三月十二日)

各郡町村

明治十五年(九月)甲第二百九號布達地籍編纂規則雛形ノ内社寺院佛堂等ノ廉ハ明治十二年乙第二百三十一號達ニ據リ取調タル社寺佛堂明細帳ニ登記有之モノニ限リ候條其旨可相心得此旨相達候事

但舊小祠堂宇敷ノ類ハ總テ現在ノ地目ヲ付スヘキ義ト可心得尤地租改正ニ懸ル

諸帳簿ノ内明治九年現在ノ地目ニ抵觸スルモノハ至急訂正方願出ヘシ

○訓第五號 (明治二十年一月十八日)

地籍編纂費負擔又ハ賦課ノ義ニ付「戸長」ヨリ伺出ノ向モ有之候處右ハ其町村人民ヲ負擔ニ屬シ且賦課之義ハ該町村人民ノ協議ヲ以テ適宜支辨可致義ニ有之尤費用賦課ノ方法等協議ヲ爲メ總代ヲ設クルハ若シカラス候條爲心得各町村「戸長」ヘ示達セラルルハシ
各但費用等ノ儀ニ付「戸長」ヨリ伺中ノ分ハ別段指令及ハス且本文ニ抵觸スル從前ノ指令ハ消滅タルヘシ
右訓令ス

各郡長宛

○訓第一五號 (明治二十年二月一日)

地籍編纂ノ儀ニ付テハ明治十六年甲第四百四十四號ヲ以テ及布達候以來今以テ未着

手ノ町村アリ不都合不少候右ハ既往ノ情況ニ據レハ將來事業成功ノ目的相立タサルノミナラス既ニ着手ノ向モ現今ノ如ク各町村ノ適宜ヲ以テ區々整理セシメ候テハ忽チ郡地籍ノ編纂上ニ差支ヲ生シ尙且徒ラニ町村ノ境界實測等ニ許多ノ手數ヲ要シ費用相嵩ミ候義ニ付自今更ニ各町村ニ於テ協議ヲ遂ケ每郡一齊ニ着手編製セシメ候様致度然ルホハ事業自カラ速成シ隨テ冗費可相省候條右特ニ注意ヲ加ヘ各町村「戸長」以下ヲ督勵シ速ニ編製ノ効ヲ奏セシメラルヘシ依テ每郡其整頓期限ヲ定メ來ル三月十日限開申セラルヘシ

各郡長宛

第三章 官有地及水面

◎乙第三百二十五號 (明治十二年十月三日)

各郡町村

本人在籍地外ニ係ル部分本植付願或ハ他ノ官地拜借使用及拂下願等與書ノ義自今其在籍地及地所々在ノ「戸長」通署候義ト可相心得此段相達候事

◎乙第二十一號 (明治十三年二月廿日)

各郡町村

中小學區學校設立ノ地所無代價下渡ノ儀自今公立小學校ハ五百坪以内公立中學校公立專門學校ハ千坪以内ノ地ヲ該學校設置ノ地所トシテ官有地ニ於テ無差支場所

一 比準地價又ハ收利金額ハ見易キ爲メ朱書ヲ以テ記入スルヲ要ス

一 池沼ノ類ニテ民有地中ニ比準スヘキモノナキトキハ一ケ年ノ收利見積リ金額
ヲキ記載スヘシ

一 賣買實價反金ナキトキハ斜線ヲ畫シテ其無キヲ示スヘシ

一 賣渡代價即チ市町村長ニ於テノ見込價格ト比準地價ト差違アルトキハ表尾ニ
備考ヲ設ケ其事由ヲ成ルヘク詳悉スルヲ要ス

◎告示第百三號 (明治二十三年九月二十七日)

開墾牧畜ノ爲メ官有原野ノ拂下ヲ請フモノハ左ノ條項ニ據ルヘシ

第一條 原野拂下願書ハ知事宛ニテ地元町村長ヲ經由シ書留郵便ヲ以テ當廳ニ差
出スヘシ其願書ニハ拂下出願ニ係ル原野所在ノ國郡町村字地目反別素地相當代
價ヲ記載シ且事業方法書收支豫算書及實測圖ヲ添付スヘシ其事業ノ方法ハ左ノ
項目ニ據リ可成詳細ニ記載スルヲ要ス

開墾事業ノ方法

一 田又ハ畑

一 實測反別

一 着手ノ順序 (裂地開墾セントスルトキハ道路若クハ河川ニ沿ヒタル一方ヨ

リシ又ハ濫リニ散點シテ着手スルコトヲ許サス)

一 防風林薪炭林ヲ仕立ツヘキ植樹地ノ反別及樹木ノ種類

一 家屋等ノ敷地

一 成功ノ期限

一 毎年成功スヘキ豫定反別

一 牧畜事業ノ方法

一 牧場實測反別

一 着手ノ順序

一 種畜牝牡ノ頭數

一 毎年蕃息スヘキ豫定ノ畜數

一 放牧地及牧草仕付ノ反別

一 家屋畜舍等ノ敷地

一 成功ノ期限

第二條 原野ノ拂下ハ總テ豫約ノ方法ニ據リ代價ヲ納付シタル後ニアラサレハ其
所有權ヲ拂受人ニ移轉セシメサルモノトス其代價ハ事業成功ノ後拂受人又ハ其
保證人ヨリ當廳ヘ納付セシム

但事業成功ノ部分ニ對スル所有權ハ拂受人ノ請求ニ依リ其部分ニ相當スル代
價ヲ納付セシメタル上之ヲ拂受人ニ移轉セシムルコトアルヘシ

第三條 拂下ヲナスヘキ原野ノ反別ハ四百町歩以內トス但土地ノ區域又ハ事業ノ
方法ニ依リテハ特ニ此制限ノ超過ヲ許可スルコトアルヘシ

第四條 事業ノ成功期限ハ十五ケ年以内トス

但天災其他止ムヲ得サル事由ニ依リ中途拂受人ニ於テ豫定ノ事業方法又ハ成功期限ノ變更ヲ要スルコトアルトキハ其拂受人ヲシテ更ニ事業方法書及收支豫算書ヲ出サシメ其ノ事業ノ變更及成功期限ノ猶豫ヲ許可スルコトアルヘシ

第五條 拂下豫約ヲナシタル土地ノ使用料等ハ總テ之ヲ徴收セサルモノトス

第六條 左ニ記載スル項目ハ拂受人ヲシテ之ヲ遵守セシム
一 拂下豫約ニ係ル土地ハ當廳ノ許可ヲ得スシテ之ヲ他人ニ貸渡スコトヲ得サルコト

二 拂下豫約土地ニ對スル負擔及其土地ヨリ生スル損害ニ就テハ拂受人其責ニ任スヘキコト

三 拂受人ハ拂下豫約許可ノ日ヨリ滿六ケ月己内ニ豫定ノ方法ニ從ヒ事業ニ着手スヘキコト

四 拂受人ハ前年ニ於ケル事業ノ功程ヲ翌年一月中ニ當廳ヘ報告スヘキコト

五 拂受人ニ於テ事業ニ着手シ及事業ノ成功シタルトキハ十日以内ニ當廳ヘ報告スヘキコト

六 拂下豫約土地内ニ在ル木竹其他指定シタル物件ハ拂受又ハ特別ノ契約ヲナスニアラサレハ拂受人ニ於テ之ヲ採取シ若クハ使用スヘカテサルコト

七 官吏ヲ派遣シ事業ノ進否及方法ヲ検査セシムルキハ之ヲ拒ムヲ得サルコト

二十三年訓令第九十五號參看

八 拂受人ハ拂下豫約許可ノ日ヨリ十日以内ニ標杭ヲ境界ニ建設スヘキコト
九 事業ハ必豫定ノ方法書ニ依リ之ヲナスヘキコト
第七條 拂受人第六條ニ記載スル事項ヲ遵守セス又ハ成功期限ニ至リ事業成功セサルトキハ豫定通成功セル部分ニシテ相當代價ヲ納付シタルモノハ之ヲ除キ其他ハ當廳ヘ返還セシム
前項ノ場合ニ於テ返還地ニ係ル勞費ハ當廳ニ於テハ之ヲ辨償セス又返還地ニ在ル植物建物等ハ相當ノ期限ヲ定メ之ヲ取拂ハシム

市役所 町村役場

◎訓令第三十七號 (明治二十四年四月二十二日)
明治二十三年勅令第六十九號及同百三十五號官有地特別處分規則ニ據リ官有地ノ賣渡シ又ハ貸渡ヲ出願スル者アルトキハ自今該地ノ故障有無ヲ取調申スヘシ
◎訓令第六十一號 (明治二十四年六月十二日)

郡役所 市役所

町村役場

官ニ屬スル公有私有ノ水面埋立及公有水面使用願書ヲ差出スモノアルトキハ市町村長ハ市町村會ニ諮問シ其意見ヲ聞キ願書ト俱ニ之ヲ差出スヘシ
◎告示第七十六號 (明治廿七年十二月廿八日)
官有土地水面貸渡規程別冊ノ通相定ム

十四年甲第四百一十七號
廿七年縣令第四十五號
廿七年訓令第七十一號參看

(別冊)

官有土地水面貸渡規程

- 第一條 此規程ニ官有土地水面トアルハ隨意ノ契約ニ依リ貸渡シ得ヘキ官ニ屬スル私有ノ土地、水面ヲ云フ
- 前項ノ土地、水面ヲ借受ケントスル者ハ本規程ニヨルヘシ
- 第二條 官有土地水面ヲ借受ケントスル者ハ甲第一條様式ニ依リ願書ヲ差出スヘシ前項ノ土地、水面ヲ借受ケントスルモノハ管内在籍者ニシテ身元確實ナル保證人ヲ立ツヘシ
- 保證人ハ借受人契約ノ義務ヲ怠リタルハ借受人ニ代リ其義務履行ノ責ニ任スヘシ
- 第三條 官有土地、水面貸渡ノ許可ヲ得タルハ其指令書ヲ受領シタル日ヨリ五日以内ニ乙第一號様式ノ證書ヲ差出スヘシ
- 第四條 貸渡許可ノ期限ハ通常一期五ケ年以内トス若シ満期ニ至リ引續キ借受ケントスルモノハ運クモ期明三ケ月以前甲第二號様式ニ依リ出願シ許可ヲ得タル上ハ更ニ乙第一號様式ノ證書ヲ差出スヘシ
- 第五條 借受人死亡、退隱ニ依リ家督相續人ニ於テ前約ヲ繼續セントスルモノハ其相續ノ日ヨリ三十日以内ニ甲第三號様式ニ依リ届出ツヘシ
- 前項ノ届書ニハ保證人連署ノ上尙死亡ニ係ルモノハ親戚退隱ニ係ルモノハ退隱者之レニ連署スヘシ

第六條 借地上ニ在ル物件ノ遺産相續人ニ於テ前約ヲ繼續シ借受ケント欲スルモノハ其相續ノ日ヨリ三十日以内ニ乙第二號様式ノ證書ヲ差出スヘシ

前項ノ證書ニハ保證人連署ノ上尙該家ノ戸主ハ之レニ連署スヘシ

第七條 借地上ニ在ル物件ヲ賣買、讓與ニ依リ其讓受人ニ於テ前約ヲ繼續シ借受ケントスル者ハ特ニ許可スルコトアルト雖モ最前契約ノ條件ハ之ヲ變更スルコトヲ許サス

前項ノ出願ヲ爲サントスルモノハ甲第四號様式ニ依リ願出許可ヲ得タルハ其指令書ヲ受領シタル日ヨリ五日以内ニ乙第三號様式ノ證書ヲ差出スヘシ

第八條 借受期限内中使用目ヲ變更セントスルハ甲第五號様式ニ來リ願出許可ヲ受クヘシ其地形ヲ變更スルノトキ亦同シ

第九條 借受期限内ニ其土地水面ヲ返却セントスルハ期日以前ニ於テ其旨届出ツヘシ満期返却ノハ亦同シ

第十條 土地、水面ノ借受人改姓名又ハ轉籍、轉居等ヲ爲シタルハ八十五日以内ニ其旨届出ツヘシ

第十一條 官有土地、水面ノ借受人ハ期限内中其土地、水面保護ノ責ニ任スヘシ

第十二條 貸渡土地、水面ハ期限内ト雖モ官ニ於テ使用ノ必要アルトキ又ハ公共事業ノ爲メ又ハ公共ノ利益トナル事業ノ爲メ其土地、水面ヲ要スルハ又ハ借受人契約ノ條件ニ違背シタルハ何時ニテモ契約ヲ解除シ返却セシムルコトアル

前項ニ依リ契約ヲ解除スルハ借受人ハ當廳ノ命令シタル期限内ニ返却スヘシ
 第十三條 當廳ノ許可ヲ得テ地形ヲ變更シ又ハ地上ニ物件ノルトキ契約解除ノ命
 令ヲ受ケタルハ其命令セシ期限内ニ滿期返却ノ場合ニ於テハ其期限内ニ物件
 ハ取除キ地形ハ原形ニ復シ返却スヘシ

第十四條 借受土地、水面ハ當廳ノ許可ヲ得ルニアラサレハ之ヲ他人ニ轉貸スル
 コトヲ許サズ

第十五條 借受人故意、怠慢ニ依リ貸渡土地ヲ荒廢ニ歸シ又ハ破壞亡失セシメタ
 ルトキハ借受人ニ其損害ヲ賠償セシムヘシ

第十六條 借受人契約違背ニ依リ契約ヲ解除シタル爲メ借受人ニ於テ損害ヲ生ス
 ルモ當廳ハ其損害賠償ノ責ニ任セス

第十七條 貸渡土地ニ對スル公費ノ賦課ハ借受人ノ負擔トス

第十八條 本規程ニ依リ差出ス願届書及契約書ハ總テ郡市町村ヲ經由スルヲ要ス
 甲第一號様式（正副二通ヲ要ス）

官有土地（水面）借用願

何郡（市）町村大字何番地（地番ノ設ケナキモノハ何番地先ト記スヘシ）

一官有何々地反別何程（市街地ハ坪數ヲ以テ記スヘシ）

但地上立木竹何程（立木竹ハ其種類本數目通長等ヲ詳記スヘシ）

此一ヶ年借地料金何程

借地期限 何年何月ヨリ何年何月マテ何年間

但一反歩ニ付 金 何程
 （市街地ハ坪當リヲ記スヘシ）

右ハ何々用（使用ノ目的ヲ詳記スヘシ）ノ爲メ前書ノ期間借用仕度尤モ御許可ノ上
 ハ明治廿七年十二月御縣告示第百七十六號官有土地水面貸渡規程ノ各條項ヲ遵守
 スヘキハ勿論借地料金ハ御指定ノ通上納可仕候間御貸渡被成下度別紙圖面相添ヘ
 此段奉願候也

年 月 日

住所

借用人

何 某 印

住所

保證人

何 某 印

（水面ハ隣接地主又ハ水理關係者ノ連署ヲ要ス）
 前書ノ通出願ニ付與書候也

（市）町村長

何 某 印

愛媛縣知事宛

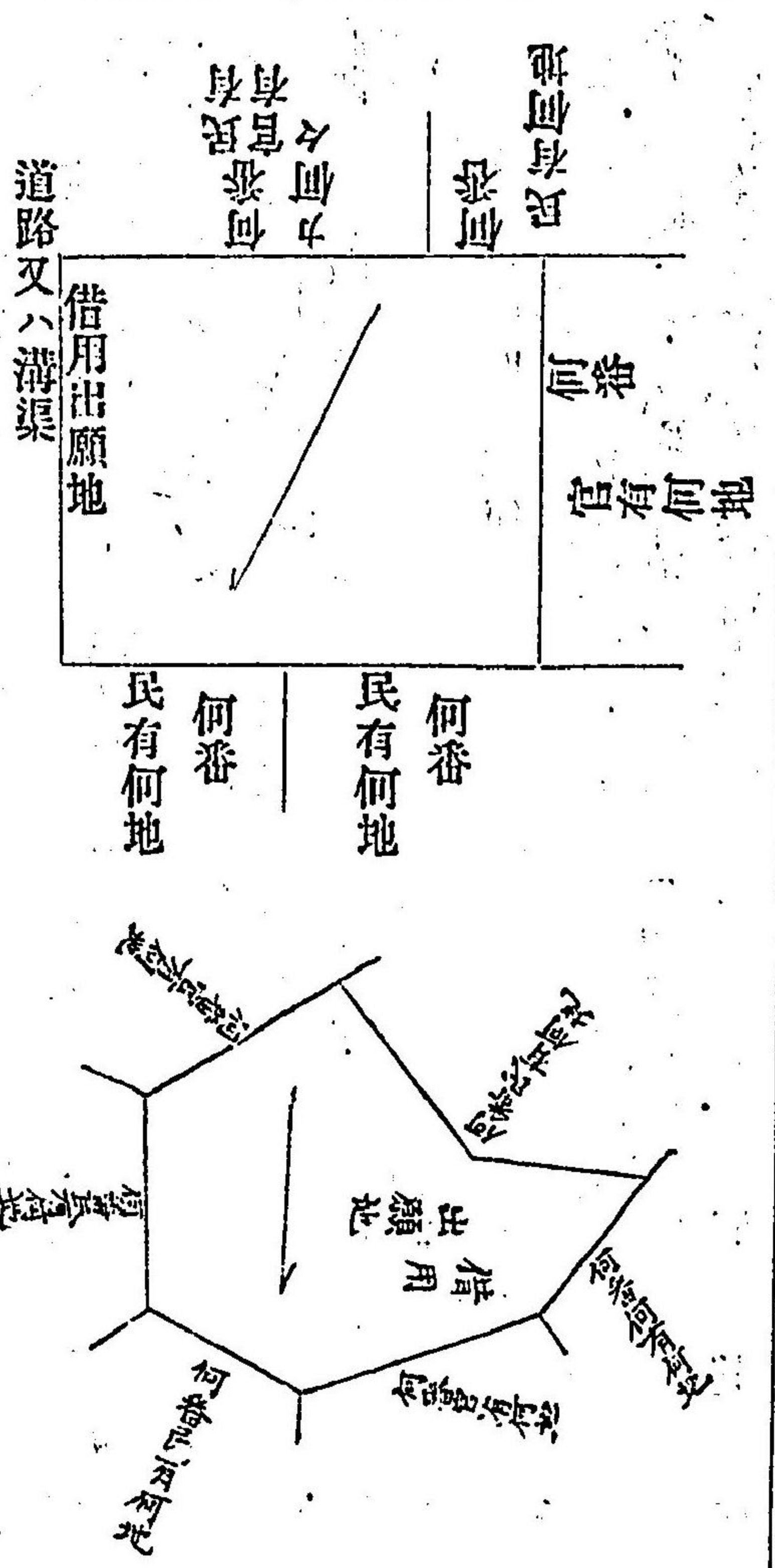
（圖面ノ例）

借用願人

何 某 印

何郡（市）町村大字、字、番地

一官有土地（水面）反別（坪）何程



甲第二號様式 (正副二通ヲ要ス)
 官有土地(水面)借用繼續願
 何郡(市)町村大字、字、何番地(地番)ノ設ナキモノハ何番地先ト記スヘシ)
 一官有何々地反別何程(市街地ハ坪數ヲ以テ記スヘシ)
 但地上立木竹何程(立木竹ハ其種類、本數、目通、長等ヲ詳記スヘシ)
 此一ヶ年借地料金何程 但(一反)或ハ一坪ニ付金何程)
 借地期限(何年何月ヨリ何年何月マテ)何年間

右ハ何々ニ使用ノ爲メ明治何年何月ヨリ全何年何月マテ借用罷在候處土地(水面)
 ト(何々事情ヲ詳記スヘシ)ニ付尙前書ノ期間繼續借用仕度尤明治廿七年十二月御
 縣告示第百七十六號官有土地水面貸渡規程ノ各條項ヲ遵守スヘキハ勿論借地料金
 ハ御指定ノ通上納可仕候間御許可被成下度別紙圖面相添ヘ此段奉願候也

住所 繼續借用人 何 某 印
 住所 保證人 何 某 印

(水面ハ隣接地主又ハ水利關係者ノ連署ヲ要ス)
 前書ノ通出願ニ付奥書候也

愛媛縣知事宛
 甲第三號様式 家督相續ニ付御届
 何郡(市)町村大字、字、何番地(地番)ノ設ケナキモノハ何番地先ト記スヘシ)
 一官有何々地反別(坪數)何程
 右ハ從來私何(續柄)某ニ於テ何々ニ使用ノ爲メ借用罷在候處全人義ハ何年何月何
 日死亡(退隱)仕候ニ付何年何月何日私家督相續仕候ニ付テハ何某ヨリ何年何月何

日付ヲ以テ差出候契約ノ條件ハ爾來私ニ於テ確守履行仕候間此段御届申上候也

年月日

住所

繼續人 何 某 印

住所

親戚(退隱者)何 某 印

住所

保證人 何 某 印

(水面ハ隣接地主又ハ水利關係者ノ遷署ヲ要ス)

前書ノ事實相違無之ニ付與書候也

愛媛縣知事宛

(市)町村長 何 某 印

甲第四號様式 (正副二通ヲ要ス)

官有土地(水面)借用權利換願

何郡(市)町村大字、字、何番地(地番ノ設ケナキモノハ何番地先ト記スヘシ)

一官有何々地反別何程 (市街地ハ坪數ヲ以テ記スヘシ)

但地上立木竹何程(立木竹ハ其種類、本數、目通、長等ヲ詳記スヘシ)

此一ヶ年借地料金何程 但(一反歩一坪)ニ付金何程)

右官有土地(水面)ハ何某ニ於テ何々(從來使用ノ事故ヲ記スヘシ)ノ爲メ明治何年

何月ヨリ何年何月マテ何年間借用罷在候處今般該地上(水面繋留)ノ物件何某へ賣買(或ハ借用權讓與ノ事故ヲ詳悉スヘシ)仕度候ニ付爾來何某借用ノ權利ヲ其儘何某ニ於テ繼承ノ上契約履行仕度候間特別ノ御詮議ヲ以テ御許可被成下度此段連署ヲ以テ奉願候也

年月日

住所

繼承人 何 某 印

住所

前借用人 何 某 印

住所

保證人 何 某 印

(前拜借人ト繼承人ト保證人ヲ異ニスルハ共ニ連署シ前後借用人ノ保證人タルトテ肩書スヘシ)

前書ノ通出願ニ付與書候也

(市)町村長

何 某 印

愛媛縣知事宛

甲第五號様式 (正副二通ヲ要ス)

官有土地(水面)使用目換願

何(市)町村大字、字、何番地(地番ノ設ケナキモノハ何番地先ト記スヘシ)一官有何々地反別(坪數)何程

右ハ從來何々(從來ノ使用目ヲ記スヘシ)ニ使用ノ爲メ借用罷在候處今般何々(使用目ノ變更ヲ要スル事由ヲ詳記スヘシ)ニ付將來何々(將來ノ使用目)ニ使用仕度モ御許可ノ上ハ明治何年何月何日付ヲ以テ差出候契約ノ條件ハ從前ノ通履行可致候間特別ヲ以テ御許可被成下度此段奉願候也

年月日

住 所

住 所

借用人 何 某 印

保 證 人 何 某 印

(水面ハ隣接地主又ハ水利關係者ノ連署ヲ要ス) 前書之通出願ニ付與書候也

(市)町村長 何 某 印

愛媛縣知事宛

乙第一號樣式

印紙

官有土地(水面)借用證

何郡(市)町村大字、字、番地(地番ノ設ケナキモノハ何番地先ト記スヘシ) 一官有何々地反別(坪數)何程 但地上立木竹何程(立木竹ハ其種類、本數、目通、長等ヲ詳記スヘシ)

此借地料一ヶ年金何程 但(一反步(一坪)ニ付)金何程

右官有土地(水面)今般何々(使用ノ目的ヲ詳記スヘシ)ノ爲明治何年何月ヨリ全何年何月マテ何年間借用ノ義御許可相成候ニ付テハ明治廿七年十二月御縣告示第七十六號官有土地水面貸渡規程ノ各條項ヲ遵守シ尙借用料金上納付テハ明治廿四年三月御縣告示第四十五號官有土地森林原野收入金徵收規程ヲ遵守可致萬一右等御規程ノ條項ニ違背シタルハ直ニ御引揚ケ相成候共異議不申立ハ勿論爲メニ官廳ニ於テ損害ヲ生シタルハ借用人ニ於テ賠償可仕候モ借用人負擔ノ義務ヲ怠リ候節ハ保證人ハ借用人ニ代テ義務ヲ履行可致候因テ保證人連署ヲ以テ承諾書差出候也

年月日

住 所

住 所

借用人 何 某 印

保 證 人 何 某 印

乙第二號樣式

印紙

官有土地(水面)繼承借用證

何郡(市)町村大字、字、番地(地番ノ設ケナキモノハ何番地先ト記スヘシ)

一官有地反別(坪數)何程
 但地上立木竹何程(立木竹ハ其種類、本數、目通、長等ヲ詳記スヘシ)
 右官有土地(水面)從來私何(續柄)某ニ於テ借用罷任候處全人義ハ明治何年何月何日死亡(退隱)ニ付上ニ現在(水面ニ繋留)スル全人ノ財産ハ今般私ニ於テ相續仕候ニ付テハ全人ヨリ明治何年何月何日付テ以テ差出候契約ノ條件ハ爾來私ニ於テ確守履行可致候因テ關係人一同連署ノ上更ニ承諾書差出候也

年月日
 住 所 繼承人 何 某 印
 住 所 親戚(退隱者)何 某 印
 住 所 保證人 何 某 印

乙第三號樣式

印紙

官有土地(水面)借用權利換證

何郡(市)町村大字、字、番地(地番)設ケナキモノハ何番地先ト記スヘシ
 一官有地反別(坪數)何程

但地上立木竹何程(立木竹ハ其種類、本數、目通、長等ヲ詳記スヘシ)
 右官有土地(水面)從來私何某ニ於テ何々(從來使用ノ事故ヲ詳記スヘシ)ノ爲メ明治何年何月ヨリ全何年何月迄拜借中ノ處今該地主(水面繋留)ノ物件賣買(或ハ借用權讓與ノ事故ヲ詳悉スヘシ)仕候ニ付何某ハ借用換ノ義御許可ヲ得候ニ付ハテ何某ヨリ何年何月何日付テ以テ差出候契約ノ條件ハ爾來何某ニ於テ確守履行可致候因テ双方及保證人連署ノ上更ニ承諾書差出候也

年月日
 住 所 繼承人 何 某 印
 住 所 前借用人 何 某 印
 住 所 保證人 何 某 印

◎訓令第五十一號(明治二十七年十二月二十八日)

官三屬スル私有ノ土地水面貸渡規程今般告示第七十六號ノ通相定メ候ニ付テハ自今右三基キ出願スルモノアルトキハ篤ト其願書ヲ調査シタル後進達スヘシ
 前項ノ出願ニシテ若シ該規程ニ違フモノナルカ又ハ適法ノ手續ニヨラサルモノア

各 郡

形片八道ニ訂正又ハ更正セシメ意見アラハ別途副申スヘシ
官有土地水面借用願ニ對シ許可ノ指令ヲ與ヘタル片ハ右規程ノ定ムル所ニ從ヒ其
契約書ヲ徴シ差出スヘシ

第四章 山林原野及樹木

◎甲第七十四號 (明治十三年五月十七日)

十四年甲第二十八號ヲ以テ「及ヒ官林監守人」ノ七字追加

自今官林接續ノ私林伐採并ニ官林内ヲ通行シテ材木運搬等ノ節ハ凡ソ其日數ヲ定メ豫テ該地「戶長役場」及「官林監守人」ヘ其旨届出ヘク此段布達候事

◎乙第二十九號 (明治十三年三月十六日)

(續岐國ヲ除ク)各郡町(村)

明治七年(九月)本縣坤第四百四號全(十月)坤第三百三十四號八年(一月)坤第一號全(十月)坤第六百六十一號舊區戶長ヘ達取消候條自今枯損木等有之節ハ「戶長」ニ於テ其譯記載至急郡役所ヘ可届出此段相達候事

◎乙第一百號 (明治十三年九月廿八日)

各郡町村

官木等盜採ニ罹リ候節ハ其都度最寄警察署亦ハ分署交番所及ヒ本廳郡役所ヘ可届出ハ勿論ニ有之候處中ニハ警察署ヘ何等不届出向モ有之不都合候條今後ハ其都度無遅緩届出候様注意可致此旨相達候事

◎甲第二號 (明治十四年一月八日)

十四年乙第七十號ヲ以テ「本廳」ノ下ヘ「郡役所」ヲ加フ

抑山林ナルモノハ水陸生産ノ殖スル所國家經濟ノ忽ニスヘカヲサル所ニシテ苟モ其制ヲ愆レハ寒暑序ヲ失ヒ水旱禍ヲ致シ之ヲ大ニシテハ全國殖産ノ道ヲ妨ケ之ヲ小ニシテハ一家需用ノ缺ヲ來スハ必然ノ勢ヒニ有之就テハ官民有ノ別ナク山林在來ノ材料ヲ愛惜シ濫伐野燹等ノ憂ヲ防クヘキハ勿論自今些少ノ閑地ト雖モ樹木植栽等ニ着手シ山林繁殖ノ道相立候標人民ニ於テモ深ク其意ヲ注シ且ツ近年諸山林ノ荒蕪ニ及ヘルモノ漸次鬱蒼繁茂ニ屬セシメ候様致度官民兩様ノ爲メ冀望不啻候町村戸々互ニ相報道シテ心得違無之様可致追々相達候次第モ可有之候得共先以此旨及論達候事

◎丙第五號 (明治十四年一月十八日)

各郡

官有倒木取拂方及取拂費用之儀ニ付明治十二年(十一月)本縣乙第三百六十二號ヲ以テ相達置候趣モ有之候處其道路若シクハ耕地地中へ横倒候分取拂方ノ義ハ出張官ニ於テ左ノ通心得可成費用減省候様注意可致此段相達候事

一 道路ニ横倒スル官木ヲ取方附ルニハ目下行客等ノ支障アル分ニ限り其儘路傍ヘ取ヨセ置クヘシ

一 耕地地ニ倒ル、モノト雖モ忽チ難拾置程ノ場合ニ無之且地主ニ於テモ之レヲ承諾スル分ハ其儘公賣スヘシ

一 耕地地ニ横倒忽チ難拾置分ニシテ其儘運搬シ得ヘキモノハ別ニ伐仕成ニ及ハ

十九年訓第一二號
參看

十九年勅令第五十
四號ニ依リ十一月
大政官達第三十二
號消滅

ス其儘近傍空地等へ取寄セ置クハシ

但道路耕地宅共其儘取除ケ難相成モノハ儘カニ取除ケ得ヘキ丈ニ截斷スヘシ

◎丙第四百十六號 (明治十四年十二月八日)

各郡

明治十一年(七月)第三十二號公達府縣官制職制中郡區長ニ於テ處分スヘキ條目第
五項へ掲載有之倒木枯木云々ハ天災ノ爲ニ轉倒シタル者及ヒ天然枯死ノ者ニ相限
リ候義ニシテ其枝條若クハ樹幹ノ幾分ヲ枯凋シタル損木ノ如キハ本項ニ含蓄セザ
ル儀ト可心得此旨相達候事

◎無號 (明治十九年二月二十四日)

各郡町村

官有地損木有之候節ハ其都度所轄郡役所へ届出該郡役所ニ於テ實地検査ノ上處分
致來候處樹頭及ヒ枝葉等ハ幾分ヲ枯槁シ生育ノ見込有無ニ拘ハラズ損木ト看做シ
可届出向モ間々有之夫レカ爲メ検査上彼是手數ヲ要シ不都合ノ趣相聞ヘ右ハ元來
全身槁死ノ者ニ限リ可届出等ニ有之候條實地ニ就キ右様ノ義無之様一層注意ヲ加
テ可申此段相達候事

◎甲第十七號 (明治十八年二月二十七日)

民有ノ茅野秣場等肥饒ノ爲メ火入ト唱ヘ其枯草ヲ燒拂候ヨリ官民林延燒ノ害不抄
ニ付自今右火入候節ハ必ス前以テ其四至境界筋武間幅以上ノ火除道ヲ開設シ「戸

十八年乙第四十二
號參看

二十年縣令第四十
四號ヲ以テ「本縣
巡警課」云々ヲ「刑
法」以下二十二字
ニ改ム

長」へ届出(官林接續ニシテ「監守人」配置アル場所ハ該「監守人」へモ申出)検査ハ
受クヘシ若シ其手續ヲ履行セスシテ燒拂タルモノハ刑法第四百二十六條第一項ニ
據リ處分セラルヘシ

◎乙第四十二號 (明治十八年二月二十七日)

各郡町村 「官林監守人」

民有ノ茅野秣場等火入ノ節取締方今般甲第十七號ヲ以テ布達候ニ就テハ右届出ノ
節四至境界筋ノ火除道詳細検査ヲ遂ケ不取締無之様可取計此旨相達候事

◎乙第四百十六號 (明治十八年六月十日)

各郡町村

官民林ヲ間ハス非常失火等ノ節最寄人民急テ救ヒ防禦スルハ當然ノ儀ニ有之候處
若シ右等ノ節傍觀坐視之ヲ顧ミサル様ノ儀有之候テハ保護上不都合ニ候條目今地
元「戸長」ニ於テ最寄人民ヲ獎募シ防禦候様可致此旨相達候事

◎乙第二百二十三號 (明治十八年十一月廿一日)

各郡町村

縣下官林事務ノ儀ハ「農商務省愛媛山林事務所」ニ於テ取扱候得共火災風損虫害盜
伐其他都テ官林ノ利害ニ付テハ郡「戸長」等ニ於テ平常注意可致ハ勿論ニ付右等發
見候節ハ速ニ該「事務所」へ申報シ且難差置場合ニ於テハ直ニ防禦取締方ニ從事シ
其旨同所へ可申出此旨相達候事

◎丙第九十七號 (明治十八年十一月二十八日)

各 郡

縣下官林事務ノ義ハ「農商省愛媛山林事務所」ニ於テ取扱候得共道路耕宅地等へ顛倒又ハ顛倒セントスル如キ暫時モ難捨置官林木ニ於テハ追テ其取扱方順序相立候迄先従前ノ手續ニ依リ郡役所ニ於テ處分シ其旨速ニ右事務所へ通報シ該費金同時請求可致尤精々冗費相嵩サル様顛倒木ハ通行等ニ差支アラサル迄ニ取除キ顛倒セントスル者ニ在テハ其危害ヲ防禦スルニ足ルヘキ程ニ伐除處分候様注意可致此旨相達候事

◎甲第六十五號 (明治廿六年十二月二日)

縣下官林ニ係ル諸願伺等ノ義ニ付テハ本年甲第三百三十號ヲ以及布達置候處道路溝渠溜池新設變更又ハ社寺學校等建築ヲ要スル節ハ其旨先以テ當廳へ願出指令ノ上「農商省愛媛縣山林事務所」へ申出ヘシ

右布達候事

○訓第三七九號 (明治二十四年十月十三日)

郡役所 市役所

本年(七月)農商省令第八號ヲ以テ官有林野ノ立木又ハ木材ノ検査及引渡シニ用ユル極印雛形及使用區別制定相成候ニ付右使用規則別紙ノ通之ヲ定ム

十九年勅令第十八號ニヨリ十八年甲第三百三十號消滅

(別紙)

極印使用規則

- 第一條 官有林野ノ立木又ハ木材ノ検査及引渡ニ用ユル極印ハ明治二十四年(七月)農商省令第八號雛形ノ通調製シ自今左ノ區別ニ依リ使用スヘシ
- 第二條 賣渡讓與ノ爲メ豫メ立木損木及木材ノ検査ヲ爲シタルトキハ立木損木ハ其樹幹目通ニ第一號雛形ノ検査印及其幹脚(幹部伐採後殘存スヘキ部分)ニ第三號雛形ノ山印木材ハ其端部ニ第一號雛形ノ検査印ヲ打印スヘシ
- 第三條 賣渡讓與ニ依リ立木損木及木材ノ引渡ヲ爲ストキハ前條ニ依リ打印シタル検査印ノ傍ラニ尙第二號雛形ノ拂印ヲ打印スヘシ
- 但検査木ノ内幾部分ノ賣渡讓與ニ依リ引渡ヲ爲ス場合ニ於テハ其殘存スヘキ分へハ前條ニ依リ打印シタル検査印及山印ノ傍ラニ尙山印ヲ打印スヘシ
- 第四條 伐採跡地ノ検査ヲ爲シタルトキハ其伐採断面ニ第一號雛形ノ検査印ヲ打印スヘシ
- 第五條 根株拂下ヲ爲シ之ヲ引渡シタルトキハ前條ニ依リ打印シタル検査印ノ傍ラニ尙第二號雛形ノ拂印ヲ打印スヘシ
- 第六條 雜木林等ニノ反別ノ區畫ヲ以テ引渡ヲ爲スヘキモノハ其區界標木(屈曲毎ニ標木ヲ設クルハ勿論直線ト雖モ十間毎ニ之ヲ設クヘシ)ノ樹幹目通ニ第三號雛形ノ山印ヲ打印シ其數二本以上ナルトキハ該極印ノ傍ラへ順テ遂ヒ番號ヲ

付スヘシ

第七條 前條雜木林ノ伐採跡地ヲ檢查シタルトキハ區界標木ノ山印ヲ全印ヲ以テ消印スヘシ

第八條 盜伐木ヲ發見シタルトキハ根株及幹部其他見易キ所ニ第三號離形ノ山印ヲ打印スヘシ

第九條 林野ノ境界標木ニ打印ヲ要スヘキ場合ニハ第三號離形ノ山印ヲ用ユヘシ

第十條 第七條ノ消印及第九條ノ山印ハ朱肉ヲ用ヒ其他ハ黒肉ヲ用ユヘシ

第十一條 極印ヲ誤打セシトキハ朱肉ノ同印ニテ消印スヘシ
但朱肉ヲ用ヒタル山印ヲ消印スルトキハ黒印ヲ用ユヘシ

第五章 堤塘渠溝及河川

◎坤第九十四號 (明治九年七月廿二日)

各區々戶長

本年坤第四十三號ヲ以河港道路堤防當春季(八年分後半期ニ當ル即チ九年一月ヨリ同六月迄トス)營繕目論見金高一周歲(甲年七月ヨリ乙年六月マテ甲年一周歲トス)定額ニ超過候ニ付一應內務省へ申稟及フヘキ旨概算ヲ以テ相達置猶精算ヲ遂ケ候處各郡村營繕目論見高ノ內其官費ニ該ルモノ總計金壹萬七千〇六拾八圓七拾六錢七厘トス而シテ明治八年分(八年七月ヨリ九年六月ニ至ル)定額金壹萬貳

千〇六拾六圓ノ內前半期中(八年七月ヨリ全十二月ニ至ル)三遺拂タル金高五千參百八拾四圓八拾貳錢八厘ヲ除キ殘リ金高六千六百八拾壹圓拾七錢貳厘トス之ヲ目論見官費金高ニ比較スレハ金壹萬〇參百八拾七圓五拾九錢五厘ノ不足アリ因テ不足金ノ分別途下附コレアリ度旨內務省へ具狀及ヒ候處別途下渡ノ義ハ國費多端ノ際ニ付難聞屆候得共事情無餘儀相聞候ニ付金六千〇參拾參圓(一周歲定額ノ半數トス)當九年七月後經費金ノ內テ以繰上ケ下渡候條事實難聞箇所ノミ修繕差加ヘ精算ノ義ハ九年七月後經費ニ紐ミ差出スヘキ旨指令コレアリ就テハ再應檢査ノ上更ニ其緩急ヲ較リ其最モ急ナルモノ而已ヲ撰ミ修繕可申付筈ニ候得共各郡村共孰レモ聞キ難キ事情ハ同一様ニ可有之且再檢査ノ爲メ時日遷延候テハ其時期ヲ失ヒ不都合抄ナカラサルヘキニ付此度限り權宜ヲ以テ八年分經費殘金六千六百八拾壹圓拾七錢貳厘ト此度九年七月後經費金ノ內ヨリ繰上ケ下付相成ルヘキ金高六千〇參拾參圓トノ合計金壹萬貳千七百拾四圓拾七錢貳厘ヲ以テ當春目論見官費金高壹萬七千〇六拾八圓七拾六錢七厘ニ割リ付官費金高百圓ニ付金七拾四圓四拾八錢七厘(毛位以下切捨)ツ、可下渡候條此旨相心得各郡村共土工落成候ハ、金員受取方可申出候尤本年坤第四十三號ヲ以テ相達候如ク昨八年九月全國一般土工經費定額節減改正相成此度下附相成ルヘキ經費金六千〇參拾參圓ノ分ト雖別途下附アリシニ非ス固ヨリ九年分經費ノ內ヨリ繰上ケ下附コレアリシ儀ニ付以後ノ經費金は迄ノ通ニハ難下渡都合ニ候條當九年七月以後ハ從前三等營繕箇所ニ當ル溜池井關

十三年布告第四十八號ヲ以テ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ土木費中官費下渡金ヲ廢ス
十二年乙第二十九號ヲ以テ可致ノ下二十三字削除

用惡水路及ヒ樋類等ニ至テハ新規ハ固ヨリ修繕共渾テ官費ヲ仰カス皆民費ヲ以テ取營ムヘク候尤皆民費ト雖モ新築ニテ土地變換コレアル分ハ其都度願出指令濟ノ上着手可致儀ト可相心得候此段相達候事
○無號 (明治九年十月三十日)

「第十六大區」 「區戶長」へ
「第十九大區」

喜多宇和兩郡ヲ流通セル肱川筋筏流出ノ義從來長幅之定度無之ヨリ最大ノ筏ヲ流シ動モスレハ堤防橋梁ニ衝突損傷致候義有之趣ニ付今後右川筋流出ノ筏ハ左ノ定度ヲ越ヘサル様可致萬一定度ヲ除ル筏ヲ作り流運セシモノ及見開候ハ、相當ノ可及處分候條心得違無之様區内無洩可申聞此段相達候事

竹木筏長幅定度左ノ如シ

一 壹間モノナレハ 八棚以下 此長八間トス幅六尺

一 貳間モノナレハ 四棚以下 此長幅右同シ

一 四間モノナレハ 貳棚以下 此長幅右同シ

但一棚トハ筏ヲ編成セル一繋キヲ云フ尤丸木竿橋ノ類モ本條ニ準ス

十六年甲第百三號 參看

◎甲第五十三號 (明治十六年三月二十八日)

河川へ水門又ハ堰及埋樋等取設之義ハ從來其慣行アルモノ、外設置不相成筈ニ候條若シ新設ヲ要スルモノハ其事由ヲ詳記シ近傍地景明瞭ナル圖面相添可願出此旨

十八年甲第百三十九號
ナ以テ本達中「貸渡」
「借受」
「借借」
ノ文字ヲ使用シ
改ム全號ヲ以テ
但書中從前ノ下
貸渡「一」差許シ
ト改ム

布達候事
◎甲第百三號 (明治十六年六月二十七日)
本年(三月)甲第五十三號ヲ以テ河川へ水門又ハ堰及埋樋等新規取設之義ニ付及布達候處尙從來慣行アリテ現ニ設置アル者ト雖モ其有形變更(木造水門及埋樋ヲ石造又ハ陶器ニ或ハ土俵堰ヲ箒又ハ石垣ニシ或ハ間敷ヲ變スル等渾テ仕様ノ變更スルヲ云フ)スル場合於テハ詳細ナル仕様帳及明瞭ノ圖面相添前以許可ヲ受クヘシ
右布達候事

◎甲第九十九號 (明治十七年十二月六日)
官有堤塘竹林使用規則別紙之通相定ム
但從前差許シ有之分モ此規則ニ因リ明治十八年三月限更ニ願出ツヘシ
右布達候事
(別紙)

官有堤塘竹林使用規則

第一條 官有堤塘ノ竹林ヲ使用セント欲スル者ハ第一號書式ニ因リ身元確ナル保
證人二名以上連署シタル願書へ近傍地景ヲ模寫セル色分圖面ヲ副へ差出スヘシ
第二條 使用中ハ其立竹ノ原數ヲ減スルヲ得ス故ニ返還ノ節不足アラハ相當ノ
償金ヲ納メシムルモノトス
第三條 第二條ノ通定ムト雖モ堤塘保護ノ都合ニ依リ竹數ノ増減ヲ命スルヲアル

内何程 目通何程

右竹林當何年何月ヨリ明治何年何月マテ何箇年季使用仕度尤前書ノ料金年々(一月七月)兩度ニ上納可仕候間御聞届被下度圖面相添此段奉願候也

郡(町村)番地族籍

年月日 使用人 何 某 印

全 上 保證人 何 某 印

全 上 何 某 印

全 上 何 某 印

「戸長」 何 某 印

第二號 「縣令」宛

和當印紙貼用スヘシ

御 請 書

何國何郡何町村字何々川官有地

一 堤塘竹林反別何程

金 何 程

十八年甲第百三十九號ヲ以テ第二號書式ヲ削リ更ニ第二號書式ヲ追加ス

十八年甲第百六十四號ヲ以テ反別ノ次「此使用料」ノ行ヲ削ル

但何年季或ハ何ヶ月

右仕用ノ義奉願候處何年何月何日付御許可ニ付テハ明治十七年甲第百九十九號御布達ノ趣遵守可仕候此段御請申上候也

何國何郡何町(村)何番地身分

年號月日 何 / 誰

全 何 / 誰

保證人 何 / 誰

全 何 / 誰

「縣令」宛

◎甲第百三十七號 (明治十八年十月二十九日)

堤上堤腹仕用規則自今別紙之通相定ム

但明治十二年(八月)甲第百五十號布達ハ廢止ス

右布達候事

堤上堤腹仕用規則

第一條 従前ノ慣行ヲ以テ堤上堤腹ヲ仕用セント欲スルモノハ身元健ナル保證人貳名以上ヲ立テ別紙(甲號)書式ニ照シタル願書ニ仕用箇所ハ勿論其近傍地景地目明瞭ナル色分ケ圖面相添願出ヘシ

二十四年訓令第六十七號參看

二十一年縣令第三十五號ヲ以テ第一條但書追加

二十年縣令第六百十
五號ヲ以テ第六條
改正二十一年全第
五十六號ヲ以テ一
又ハ以下十五字
挿入

但民有地第二種ノ溜池ニ屬スル堤塘ニシテ其修繕負擔者之ヲ使用スルモノハ
本文ノ限ニアラス

第二條 任用料ハ任用入ヨリ上納スヘキ當然ナリト雖モ若シ任用入ヨリ上納セサ
ルルハ保證人ヨリ上納セシムルモノトス

第三條 任用入ニ於テ期限通上納セス保證人ヨリ上納セシムルルハ爾后其任用ヲ
停止スルコトアルヘシ

此場合ニ於テハ假令如何ナル勞費アルモ其償ヲ下付セサルモノトス

第四條 地所任用許可ヲ得タルモノハ其當初出願ノ目的ニ隨テ之レヲ使用スルコ
トヲ得ルト雖モ他人へ書入質入又ハ之レヲ鑿チ或ハ石垣ヲ設ケル等地形及地目ノ
變換ニ係ルコトハ一切之レヲ爲ストヲ得サルモノトス

但其已ムヲ得サル分ハ事情ヲ具シ許可ヲ乞フヘシ尤民有地ノ質入書入ハ此限
ニアラス

第五條 任用地内ニ於テ井戸溜壺等ノ新設ヲ禁ス
但己ムヲ得サル分ハ前條但書ニ準ス

第六條 任用期限中タリトモ治水上障礙アリト認ムルトキ又ハ公用ノ爲メ其地ヲ
要スルトキハ何時タリトモ其使用ヲ差止ルコトアルヘシ此場合ニ於テハ假令如
何ナル勞費アルモ其償ヲ下付セサルモノトス

第七條 満期ニ至リ更ニ之レヲ任用セント欲スルモノハ期限ヨリ三ヶ月前ニ第一

十八年甲第五十
八號ヲ以テ第十一
條追加

條ノ手續ニ準シ願出ヘシ

但月期任用ノ分ハ期限ヨリ一ヶ月前本文同様願出ヘシ

第八條 第四條第五條ニ違背スルモノハ使用差止メ地目變換及井戸溜壺等新設ス
ルモノハ素地ニ復舊セシムヘシ

第九條 任用許可ノ上ハ日數十日以内ニ別紙(乙號)書式ノ請書ヲ差出スヘシ

第十條 使用ノ年季ハ歷年度五ヶ年以内トス

第十一條 任用料金ハ一ヶ年分兩度ニ區分シ一月ヨリ六月迄ノ分七月十五日七月
ヨリ十二月迄ノ分翌年一月十五日限リ上納スベシ尤一ヶ年金額ヲ折半シ五毛ノ
端數ヲ生スルルハ七月納ニ壹厘ヲ減シ一月納ニ壹厘ヲ加ヘ(譬ヘハ一ヶ年壹錢
五厘ノモノ七厘ヲ七月ニ納メ八厘ヲ一月ニ納ムルノ類)上納スヘシ

但月期任用ノ料金ハ其満期ノ翌月十五日限リ上納スヘシ尤(六月ヨリ七月十
二月ヨリ一月)ニ涉ルモノハ(六月十二月)分迄ノ料金(七月一月)十五日限リ
上納スヘシ

甲號

堤上(或ハ堤腹)任用ノ義ニ付願

何國何郡何町(村)字何々川(或ハ池又ハ鹽田)堤上(或ハ堤腹)官有地(又ハ民有地)
一反別何反何畝歩

此任用料(壹ヶ年或ハ壹ヶ月)金何程

但壹反歩ニ付金何程

右地所宅地或ハ畑地(從來任用ノ地目ヲ記スヘシ)ノ爲メ任用致來候ニ付更ニ何年季(或ハ何ヶ月)任用仕度候間御聞届被成下度尤御許可ノ上前書ノ料金(年々何月或ハ月々)上納可仕候條繪圖面相添此段奉願候也

何國何郡何町(村)何番地身分

何ノ誰

同 保證人 何ノ誰

同 何ノ誰

同 何ノ誰

〔縣令〕宛

乙號

相當印紙貼用スヘシ

御請書

何國何郡何町(村)字何々川(或ハ池又ハ鹽田)堤上(或ハ堤腹)官有地(又ハ民有地)

一 反別何反何畝歩

但何年季又ハ何ヶ月

右ハ何々ノ爲メ任用奉願候處何年何月何日付ヲ以テ御許可ニ付テハ明治十八年甲

十八年甲第百六十四號ヲ以テ反別ノ創此使用料ノ行次除

第三百三十七號御布達ノ趣遵守可仕候右御請申上候也

何國何郡何町(村)何番地身分

何ノ誰

同 保證人 何ノ誰

同 何ノ誰

同 何ノ誰

〔縣令〕宛

◎甲第八十七號 (明治十九年七月二日)

明治十六年甲第九十四號ヲ以テ官費又ハ地方稅及自費負擔ニ係ル道路橋梁河海堤防水洩若クハ用惡水路壕池等修繕又ハ變更新設ノ義ニ付及布達置候處民有地一筆内幾部分ヲ用惡水路及壕池トシ別筆トナサ、ルモノハ本地ノ地種地目ニ据ヘ置ク筈ニ付自今出願ニ不及別筆トナスカ又ハ全筆變換ニ係ルモノ並從來ノ水利ニ關係アルモノハ當廳ノ許可ヲ受クヘシ

◎達乙第五號 (明治十九年八月廿四日)

各郡

川面並溝渠上使用料金ノ義ハ是迄「第二部收入」トシテ上納致來候處今般照第五號

十九年甲第九十二號ヲ以テ「ナス」ノ下「モノ」及「チ」カ又ハ「下改」ノ限リ「テ創リ」並「以下」十三字ヲ加フ

ヲ以テ及公布候ニ付自今右區別ニ據リ其修繕費地方稅負擔ニ係ルモノハ地方稅雜收入トシテ上納可致町村費及自費負擔ニ係ルモノハ郡役所へ徵收シ請求ニ據リ下渡スヘシ

十九年通乙第五號
參看

◎縣令第五號 (明治十九年八月廿五日)

川面並溝渠上使用料金ノ義ハ本年度ヨリ其个所堤防及溝渠修繕費地方稅負擔ニ係ルモノハ地方稅雜收入ニ組入町村費又ハ自費負擔ニ係ルモノハ其費用支出ノ廉ヘ下渡修繕費ニ充ツヘク候條町村費及自費負擔ニ係ル分ハ工事着手ノ節仕用目論見帳相添所轄郡役所へ下渡ノ義願出ヘシ

但連帶支辨ニ係ルモノハ其主擔ニ屬スヘキ義ト心得ヘシ

◎訓令第六十七號 (明治二十四年六月二十六日)

郡役所 市役所

町村役場

地盤ノ官有ニシテ市町村費ノ負擔ニ屬スル堤塘道路並木敷ノ使用ハ自今其費用ヲ負擔スル市町村ニ於テ縣廳ノ認可ヲ得テ之ヲ處分スヘシ
前項堤塘道路並木敷使用料及堤塘道路用惡水路土居敷等ニ屬スル竹木其他ノ收益ハ其費用ヲ負擔スル市町村ノ收入ニ屬スヘシ
地盤ノ市町村有ニ屬スル堤塘ノ使用及堤塘ヨリ生スル收益等ハ市町村ノ管理タルヘシ

第六章 土石採取

◎甲第八十七號 (明治十三年十二月廿二日)

河川内ニ流出スル大小石ノ儀ハ從來ノ慣行ヲ以テ道路及ヒ治水ニ關スル公共ノ修繕用ニ充ルモノ、外猥リニ使用不相成候條一己私用ニ望ノ向ハ相當代價ヲ以テ拂下ノ儀可願出儀ト可相心得此段布達候事

十四年乙第五十二號
今乙第九十六號
十六年縣令第五十一號參看

◎甲第六十六號 (明治十四年四月九日)

客年(十一月)甲第八十七號ヲ以河川内ニ流出スル大小石使用ノ義及布達置候處海岸ニ轉出スル大小石及埋堆ノ土砂并ニ河川内土砂ノ義モ右布達ノ通相心得自今一般左ノ手續ニ依リ出願可致此段布達候事

但本文修繕用ニ充ツル石并ニ土砂欠乏ノ患無之箇所ニ限リ營業ニ關スルモノヘモ可拂下事

河海内ノ土石并ニ砂拂下願手續

一 拂下願出ノ節ハ掘取ケ所明瞭ナル圖面及ヒ實地障得無之旨村總代ノ保證書等ヲ願書ニ添テ差出スヘシ

一 願書ニ拂受ノ事由其員數(石何十貫、土何坪、砂何坪)相當代價(拾貫目ニ付何錢一坪ニ付何錢ト但書ヲ付ス)等明瞭記載スヘシ

一 取入期限ノ儀モ豫メ見込テ立願面へ記入致置追テ許可ノ上取入濟ニ相成候ハ

、何月何日着手何月何日取入済ノ旨届出ヘシ

◎乙第五十二號 (明治十四年四月九日)

各郡(町村)

客年(十二月)甲第百八十七號ヲ以川石使用ノ義及布達置候處尙又今般甲第六十六號ヲ以布達ノ次第モ有之就テハ自今拂下出願ノ向モ有之候ハ、其都度該村「戸長」ニ於テ實地障害ノ有無并ニ相當代價ノ當否篤小取調具申可致此段相達候事、但拂下許可ノ節ハ掘取中不取締無之様「戸長」ニ於テ注意可致事

◎縣令第五十一號 (明治二十六年十二月二十六日)

官有河川中ノ散在石ヲ町村其他公共團體ニ於テ工事用トシテ採取セントスルトキハ先例ノ有無ニ拘ハラス爾後總テ當廳ノ許可ヲ請ク可シ

第七章 測量

◎乙第四十九號 (明治十一年四月五日)

各「大小區」

内務省地理局ニ於テ關東大三角測量施行候處逐次八州外へ擴及候ニ付測量上ニ係リ竹木枝打及ヒ伐採ノ儀民有ハ出張官ヨリ該主へ示談ノ上處分爲致候旨同省ヨリ達有之候條臨時出張官員ヨリ示談有之候ハ、不都合無之様可執計此段相達候事
◎乙第七十四號 (明治十八年四月二十日)

各郡町村

參謀本部測量局ニ於テ漸次全國ニ三角測量網ヲ擴張シ其三角點ノ位置ヲ確定シ永久保存ノ爲メ標石建設ノ筈ニ有之就テハ右標石民有地へ建設ノ節ハ直ニ出張官吏ヨリ其地主并ニ所轄郡役所へ可及協議候條不都合無之様可取計此旨相達候事

◎告第六十八號 (明治十八年四月二十日)

參謀本部測量局ニ於テ漸次全國ニ三角測量網ヲ擴張シ其三角點ノ位置ヲ確定シ永久保存ノ爲メ標石建設ノ筈ニ有之右ハ經緯度ニ應スル地表面ノ位置並ニ其地ノ高低ヲ確定スル測量上最重要ノモノニ付建設之上ハ其筋ニ於テモ篤ク保存方注意相成筈ニ候得共尙所在ノ人民ハ勿論其他共右保存方注意可致此旨告諭候事

◎告諭第一號 (明治二十年三月一日)

陸軍省ニ於テ追々全國へ水準測量網ヲ擴張シ其線路每壹里ニ確定ノ水準點ヲ永久ニ保存ノ爲メ標石建設可相成筈ニ有之右ハ水位上各地ノ高低ヲ確定シ以テ水準測量百般ノ基礎ニ供スル重要ノモノニ付建設ノ上ハ其筋ニ於テ厚ク注意可致筈ニ候得共尙所在町村ノ人民ハ勿論其他共右保存方注意スヘシ

◎達丙第五五〇號 (明治二十年三月二日)

各 郡

陸軍省ニ於テ追々全國へ水準測量網ヲ擴張シ其線路每壹里ニ確定ノ水準點ヲ永久ニ保存ノ爲メ標石建設可相成筈ニ有之依テ右敷地使用ノ節ハ出張官吏ヨリ直ニ其

二十年達丙第五五〇號參看

二十年告諭第一號參看

地主へ示談シ尙其地所轄郡衙及警察署へ差支ノ有無等協議可致旨其筋ヨリ照會越候條諸般不都合無之様取計ヘシ

但本文標石ノ義水位上ニ於ケル各地ノ高低ヲ確定シ以テ水準測量百般ノ基礎ニ供スル重要ノ物ニ有之候條右建設ノ上ハ厚ク保存方ニ注意スヘシ

○訓第九八號 (明治廿一年六月二日)

郡役所

陸軍參謀本部陸地測量部ニ於テ測量施業中沿道官有樹木へ規標ヲ附設シ又ハ枝葉ヲ伐採スル等ノ節ハ豫メ照會ヲ經ス附設或ハ伐採シ測量完成ノ期ニ至リ其個所又ハ木種員數等ヲ通報候様相定候旨今般其筋ヨリ訓令有之候條其旨心得ヘシ

○訓第一五二號 (明治二十五年五月十七日)

郡役所 市役所

明治二十三年(三月)法律第二十三號陸地測量標條例ニ依リ社地境内へ測量諸標設置ノ節ハ陸軍省出張測量官ヨリ該社寺ト協議ノ上尙ホ常應ヘモ照會シ保存及風致上ニ支障ナキ限リハ該標設置ノ筈ニ候條出張官ヨリ右協議ヲ受ケタル社寺ハ其標目ノ位置ヲ記シタル畧圖ヲ添ヘ直ニ常應ヘ届出サスヘシ

右訓令ス

第八章 土工

◎甲第二十四號 (明治十四年一月二十九日)

從來宅地耕地等へ建物新築若クハ建替等ノ際隣地へ協議ヲ遂ケス着手致候ヨリ後日ニ到リ葛藤ヲ生シ候様ノ儀間々有之哉ニ相聞ヘ不都合ノ事ニ候條自今右等ノ節ハ豫メ隣地關係ノ者へ可成協議ヲ遂ケ着手候様可致此段論達候事

但明治十年(七月)本縣内第五十一號讀岐國エノ布達ハ取消候事

◎甲第九十四號 (明治十六年六月十四日)

官費又ハ地方税ノ負擔ニ屬スル道路橋梁及ヒ河海堤防水列等ヲ協議費又ハ自費ヲモツテ修理セントスルハ本廳ノ許可ヲ受クヘシ

協議費又ハ自費ノ負擔ニ屬スル道路橋梁及ヒ河海堤防水列若クハ用惡水路壕池等ヲ修理スルハ許可ヲ受クルニ及ハストイヘ旧來ノ仕様變更又ハ新設ニ屬スルモノハ本廳ノ許可ヲ受クヘシ

但一己使用ノ爲メ設クル道路ハ現地種地目ニ据置ヘキモノニ付本文願出ノ限ニアラス

右布達候事

◎達甲第九十六號 (明治二十年八月十八日)

郡役所 「戸長役場」

本年十月一日以後地方税負擔ニ係ル河港道路橋梁ノ修繕ヲ要スヘキ箇所アルトキハ「戸長」ヨリ郡役所ニ届出ツヘシ

十七年甲第百三十四號ヲ以テ用「惡水路」ノ下ハ「壕池」ノ字ヲ入十九年甲第九十二號ヲ以テ但書第二十二條法律第一號第二十二條令第六十二號ニヨリ協議費消滅ニヨリ甲第八十七號參看

◎訓令第十七號 (明治廿七年三月廿三日)

各 郡

土木事業取扱手續左ノ通之ヲ定ム

但明治二十年(八月)達乙第五十七號全年(全月)訓令第一〇二號廿三年(十月)訓令第四七六號ハ廢止ス

土木事業取扱手續

第一條 縣ノ經濟ニ屬スル河海堤防港灣道路橋梁等ノ修築工事ハ此手續ニ依リ郡長ニ於テ取扱フヘシ

但知事ニ於テ執行スルヲ必要トスルモノハ此限りニアラス

第二條 前條工事ニ要スル費金ハ其年度ノ豫算額ヲ定前年度三月中ニ之ヲ示スヘシ

第三條 郡長ニ於テ工事ヲ執行セントスルトキハ其年度ノ豫算定額内ニ於テ實地ノ景狀ニ從ヒ緩急輕重ヲ查覈シ左ノ事項ヲ具シ知事ノ認可ヲ請ク可シ

一 設計書(圖面ヲ必用トスルトキハ其圖面トモ)及ヒ其金額

二 施行法

三 實地景況書

四 工事日數

五 保險日數

六 右ノ外必要ト認ムル事項

第四條 前條認可ヲ受ケタル後其事項ニ變更ヲ要スルモノアルトキハ事由ヲ具シ更ニ認可ヲ受クヘシ

但工事日數十日以内ノ變更及ヒ延期又ハ請負入札ノ結果ニ因ル工費ノ減少ハ本條ノ認可ヲ受クルニ及ハス其時々報告スヘシ

第五條 工事施行法ハ左ノ五種トス

一 公告競争請負工事

二 指名競争請負工事

三 町村及關係人民請負工事

四 郡役所直轄工事

五 隨意契約請負工事

第六條 指名競争ハ五名以上ヲ選拔スヘシ

第七條 從來ノ慣行ニ依リ利害ニ關スル所ノ部落ノ人民ヲシテ工事ヲ請負ハシメントスルトキ其關係人民請負人員ハ貳名以上五名以下トシ事業ノ難易輕重ヲ斟酌シ請負契約ノ事項ヲ示スト同時ニ之ヲ指示スヘシ

第八條 隨意契約ヲナスハ左ノ場合ニ限ルモノトス

一 非常急施ヲ要シ他ノ施行法ニ依ルノ暇ナキトキ

二 請負中ノ工事ニ附帶シタル工事ニシテ他ノ請負人ヲシテ請負ハシメ難キ片

三 入札望入ナキトキ又ハ再入札ノ未豫定價格ニ超過シ不相當ト認メタルトキ

四 特ニ其人ヲ限ルニアラサレハ請負ハシメ難キトキ
五 工費一廉拾圓未満ナルトキ

第九條 實地景況書ハ左ノ事項ヲ掲クヘシ

- 一 破損ノ年月日並ニ景況若シ分明ナラサルモノハ其概要
- 二 既往現在ノ景況並ニ修築ヲ要スル事由
- 三 舊形ヲ變更セントスルモノハ其之ヲ要スル事由
- 四 新築ニ係ルモノハ將來受クル所ノ利益ノ見込並ニ區域
- 五 右ノ外必要ト認ムル事項

第十條 工事ヲ請負ハシムルニ付テハ總テ土木事業請負規則及土木事業町村及關係人民請負規則ニ依ルモノトス

土木事業請負規則第五條ノ請負契約書ハ第一號書式ニ依ルヘシ

請負人ヨリ前項ノ請負契約書ヲ以テ差出シタルトキハ其受領書ヲ下付ス可シ

第十一條 工事日數及保險日數ハ左ノ標準ニ依ルモノトス

- 一 工事日數ハ其事業ノ難易ヲ斟酌シテ之ヲ定ムヘシ
- 二 保險ヲ要スルモノハ其日數五十日以上トス

第十二條 入札保證金ハ左ノ區域ニ依リ之ヲ定ムヘシ

見積價格參拾圓未満 入札保證金貳圓以上參圓迄
 全參拾圓以上百圓未満 全 參圓以上五圓迄

全百圓以上參百圓未満

全 五圓以上七圓迄

以上見積價格百圓ヲ加フル毎ニ其百分ノ二乃至百分ノ三ヲ増加スヘシ

第十三條 契約保證金ハ請負金額百分ノ十以上ニ於テ工事ノ難易輕重工費ノ多寡等ヲ斟酌シテ之ヲ定ムヘシ

町村及關係人ヲシテ請負ハシムル工事ハ其受負金高參拾圓未満ハ契約保證金ヲ差出サシムルニ及ハサルモノトス

第十四條 郡長ニ於テ直轄施行スル處ノ工事ニシテ其一分ヲ請負ハシメントスル場合ニ於テモ亦土木事業請負規則ニ照ラシ之ヲ取扱フヘシ

第十五條 入札ノ公告又ハ通知ハ成ルヘク其入札期日ノ五日以前ニ之ヲナスヘシ

第十六條 開札ハ掛員二名以上ニアラサレハ之ヲ行フヘカラサルモノトス
開札セントスルトキハ先ツ其入札ト入札人トヲ引合セ土木事業請負規則第七條ニ抵觸スルモノナキヤ否ヤヲ調査スヘシ

第十七條 左ニ掲グルモノハ土木事業請負規則第八條ニ依リ請負ニ不適當ト見做スヘシ

- 一 未成年者及ヒ婦女
- 二 禁治產者並ニ准禁治產者

第十八條 土木事業請負規則ニ依リ入札保證金若クハ請負契約保證金ノ縣ノ所得トナシ又ハ不正ノ所爲ニ依リ入札ヲ取消シタルトキハ其處分セシ年月日及其者

ノ住所氏名年齢等ヲ詳悉シ處分ノ日ヨリ五日以内ニ知事ニ報告シ同時ニ各郡長ニ之ヲ通知スヘシ

本縣土木事業ニ關シ訴訟セシモノアルトキハ前項ト同シク其手續ヲナスヘシ

第十九條 郡役所ハ豫メ簿冊ヲ調製シ置キ前條ニ係ルモノアルトキハ時々其事項ヲ詳記スヘシ

第二十條 工費内譯明細書ハ設計書ノ種目ニ從ヒ其代價ヲ相當ニ分記セシメ後日ノ紛雜ナキニ注意シ精算ノ調査ヲナスヘシ

第二十一條 郡長ハ工事中隨時吏員ヲ派出シ之ヲ監督セシム可シ
派出員工事ヲ監督スルトキハ設計書並ニ圖面ニ照シ精算ノ調査ヲナシ後日落成検査上修補或ハ改築ヲ要スルカ如キコトナカラシムヘシ又荷モ設計外ニ渉ル指揮ヲナスヘカラス

派出員監督中實地ノ景狀ニ依リ其設計ニ就キ取捨増減スヘキ事項ノ必要ヲ認め若クハ請負規則ニ照シ請負人ニ對シ命令ヲ發シ處分スヘキ事件ノ必要ヲ認めタルトキハ其旨郡長ニ開申スヘシ荷モ派出員限リ專行スヘカラス

第二十二條 工事ノ落成シタルトキハ其旨知事ニ届出ツヘシ其落成検査ノ委任ヲ受ケタルトキハ郡長ハ吏員ヲ派出シ設計書並ニ圖面等ニ照シ其修築ノ精粗間數ノ長短物量ノ多寡品質ノ良否位置ノ適否等精密之ヲ調査セシメ其検査ノ成績ヲ報告スヘシ

派出員ニ於テ修補或ハ改築セシムヘキ必要ヲ認めタルトキハ其旨郡長ニ開申スヘシ荷モ派出員限リ專行スヘカラス

第二十三條 郡長ニ於テ急破修繕ニ着手シタルトキハ電信又ハ急使ヲ以テ即時其旨報告シ尙ホ三日以内ニ其實況書及設計書ヲ差出スヘシ

實況書ニハ破損セシ年月日時破損ノ爲メ損害ヲ受ケタル區域並ニ輕重破損箇所ノ大小廣狹修繕着手並ニ落成見込ノ年月日工事施行法其他必要ト認めル事項ヲ詳悉スヘシ

前項工事ノ落成セシトキハ五日以内ニ工費異動ノ有無ヲ具シ異動アルモノハ精算書ヲ添へ其届旨出ツヘシ

第二十四條 郡長分任條件ニ依リ國縣道ヲ修繕シ及ヒ橋梁ヲ假設シタルトキハ第

九條ニ準シ其景况等ヲ詳悉シ落成後五日以内ニ設計書ヲ添へ其旨届出ツヘシ

第二十五條 工費ヲ請求セントスルトキハ第二號書式ニ依ル可シ
工費ハ其費額確定ノ後之ヲ請求スヘキモノトス

但郡役所直轄工事ニ關スルモノハ此限リニアラス
郡役所直轄工事ノ落成シタルトキハ精算書ヲ差出スヘシ

第二十六條 入札人又ハ請負人ヨリ差出シタル保証金ヲ縣ノ所得トナシタルトキハ該年度地方稅雜收入トシテ取扱フヘシ

金 内 何川修繕費

金 内 何郡海岸修繕費

金 内 何港修繕費

右ハ明治何年度地稅土木費決算前書ノ通相違無之候也

明治何年何月何日

知事氏名殿

郡長 氏 一名 印

◎告示第四十八號 (明治廿七年三月廿三日)

土木事業請負規則左ノ通之ヲ定ム

土木事業請負規則

第一章 總 則

第一條 此規則ニ於テ土木事業ト稱スルハ縣ノ經濟ニ屬スル河海、堤防、港灣、道路、橋梁、建物等ノ修築工事ヲ云フ

第二條 土木事業ノ請負契約ハ總テ此規則ニ據ルヘシ

但特別ノ規定アルモノハ此限ニアラス

第三條 土木事業ノ請負契約ハ知事又ハ其委任ヲ受ケタル官吏ニ於テ之ヲ行フモノトス

前項請負ハシメタル工事ハ知事及其委任ヲ受ケタル官吏ニ於テ隨時掛員ヲ派出シ之ヲ監督セシメ又ハ落成検査ヲナサシム可シ

第四條 土木事業ノ請負契約ヲ分テ左ノ二種トス

一 競争契約

二 隨意契約

第五條 請負契約書ハ其時々定ムル所ノ書式ニ從ヒ之ヲ差出スヘシ

第六條 請負人ニ於テハ本縣現住者ニシテ身元確實ナル保證人二名ヲ定メ請負契約書ニ連署セシムヘシ

前項ノ保證人若シ不適當ト認ムルトキハ何時ニテモ之ヲ取替シムヘシ

保證人他府縣下ニ轉住寄留シ若クハ破産又ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ其他死亡失踪等其身上ニ異動ヲ生シタルトキハ請負人ニ於テ更ニ相當ノ保證人ヲ選ミ連署ノ上其旨申出許可ヲ得テ之ヲ定ムヘシ

第七條 左ノ各項ノ一ニ當ルモノハ此規則ニ據リ土木事業ノ請負人又ハ保證人トナルコトヲ得ス

一 破産若クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復権セサルモノ又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサルモノ

二 土木事業請負契約ニ關シ訴訟中ノモノ

三 此規則ニ據リ入札保證金ヲ縣ノ所得トセラレタル後滿一ケ年ヲ經過セサルモノ及請負契約保證金ヲ縣ノ所得トセラレタル後滿二ケ年ヲ經過セサルモノ

第八條 土木事業ノ請負ニ不適當ト認ムル事實アルモノハ入札スルヲ許サス又ハ其入札ヲ棄却スルコトアルヘシ

第九條 請負契約ニハ總テ請負人ヨリ請負金高百分ノ十以上ノ契約保證金ヲ差出サシム其歩合ハ第十三條ノ公告又ハ第十四條第三十條ノ通知ト同時ニ之ヲ示スヘシ

但請負人ノ都合ニ依リ其歩合ニ超過スルモ妨ケナシ

契約保證金ハ請負人ニ於テ契約ヲ結フヘキ官衙ノ爲換方ヘ預入其預リ切符ヲ以テ差出スヘシ

契約保證金ハ無記名有利足公債證書ヲ以テ代納スルコトヲ得其價格ハ時價凡ソ一割下ケトス

第十條 請負金高五十圓以下ノ場合ニ於テハ契約保證及保證人ヲ要セサルコトアルヘシ

第十一條 何等ノ場合ヲ問ハス此規則施行上ニ關シ入札人又ハ請負人等ニ於テ損

害ヲ受ケタルコトアルモ總テ其者ノ負擔トス

第二章 競争契約

第十二條 競争契約ヲ分テ左ノ二種トシ其競争ハ總テ入札法ニ依ル

一 公告競争契約

二 指名競争契約

第十三條 公告競争ハ揭示又ハ新聞紙其他ノ方法ヲ以テ左ノ事項ヲ豫メ公告スヘシ

一 入札ニ付スヘキ事項

二 設計書圖面并ニ請負契約書案等ヲ示ス場所

三 請負日數

四 保險日數

五 入札保證金額

六 入札及ヒ開札ノ場所並ニ其日時

七 請負契約保證金ノ歩合

第十四條 指名競争ハ其事業ニ適當ト認ムル營業者五名以上ヲ撰定シ前條ノ事項ヲ通知スヘシ

第十五條 競争契約ニ付スヘキ事業ノ豫定價格ハ之ヲ封書トナシ開札ノ際開札場ニ備ヘ置クヘシ

第十六條 入札ヲサントスルモノハ設計書圖面請負契約書案及實地ノ景狀等ヲ

熟覽シ第十七條ノ手續ニ從ヒ入札保證金ト俱ニ豫定ノ日時ニ之ヲ差出シ開札ニ立會スヘシ

但保證金ヲ添ヘサル入札又ハ時限後ニ差出シタル入札ハ之ヲ受理セス
入札書ハ第一號書式ニ依ルヘシ

但入札場ニ其書式ヲ揭示シタルトキハ此限ニアラス
入札人代理人ヲシテ入札セシメントスルハ委任狀ヲ入札掛員ニ示スヘシ

第十七條 入札保證金ハ入札掛員ノ面前ニ於テ封金ト爲シ其金員氏名ヲ封表ニ記載シ入札掛員ニ差出スヘシ

前項ノ保證金ハ時宜ニ依リ其官衙ノ爲換方ヘ預ケ入レ其預リ切符ヲ以テ差出サシムルコトアルヘシ

第十八條 入札人既ニ差出シタル入札ハ之ヲ變更シ若クハ取消スコトヲ得サルモノトス

第十九條 開札ハ豫定ノ場所日時ニ入札人ノ面前ニ於テ之ヲ行フヘシ

第二十條 入札金額ニ關シ竊ニ申合ヲ爲シ其他不正ノ所爲アリト認ムルトキハ其入札ニ限り之ヲ取消シ若クハ其日ノ入札ハ總テ之ヲ取消スコトアルヘシ前項不正ノ所爲ニヨリ入札ノ取消ヲ受ケタルモノハ爾後滿二ケ年間入札ニ加ヘサルモノトス

第二十一條 左ニ掲グル入札ハ無効トス

一 入札人又ハ其代理人開札ニ立會セサルモノ

二 入札書記載ノ金員若クハ氏名ノ認知シ難キモノ

三 入札書記載ノ金員ヲ加除更正シタル齟齬若クハ氏名ノ下ニ捺印ナキモノ

四 入札書式ニ違ヒ其要件ヲ缺キタルモノ

五 請負金高ノ内譯金額ニ符合セサルモノ

六 入札人第七條若クハ第二十條第二項ニ該當スルモノ

第二十二條 入札人公告競争ニハ五名以上指名競争ニハ三名以上ナラサルトキハ其入札ヲ返付シ更ニ入札ニ付スルコトアルヘシ

第二十三條 入札ハ豫定價格以內ノ最低價ヲ以テ落札トス落札トナルヘキ同價ノ入札二人以上アルトキハ其入札人ヲシテ直ニ再入札セシメ最前ノ低價額以內ニ於テ落札人ヲ定メ尙同價ノ入札二人以上アルハ抽籤ヲ以テ落札人ヲ定ムヘシ

第二十四條 開札ノ上豫定價格以內ノ入札アラサルトキハ之ヲ取消スヘシ
但即時再入札ニ付スルコトアルヘシ

第二十五條 落札人ノ定リタルトキハ入札保證金ハ即時ニ之ヲ返付スヘシ
但落札人ヘハ請負契約保證金ヲ差出シタル後返付スヘシ

第二十六條 落札人ハ其落札ヲ他人ニ賣渡シ又ハ讓渡スコトヲ得サルモノトス

第二十七條 落札人ハ指定ノ期限内ニ第二號書式ニ準シ落札金額ニ對スル工費内譯明細書ヲ調製シテ之ヲ差出スヘシ

内譯明細書ノ代價不相當ト認ムルトキハ期日ヲ定メテ之ヲ更正セシムヘシ若シ之ニ應セサルトキハ其落札ヲ取消スコトアルヘシ

内譯明細書調査ノ上相當ト認ムルハ更ニ契約取結ヒノ通知ヲナスヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ其指定ノ期日内ニ契約書及ヒ契約保證金ヲ差出スヘシ

第二十八條 落札人ナシテ前條契約書及ヒ契約保證金ト同時ニ第三號書式ニ依リ職名住所氏名及ヒ印鑑ノ届書ヲ調製シ市町村長ノ證明ヲ得テ之ヲ差出サシムルコトアルヘシ

第二十九條 左ノ各項ノ一ニ當ルモノハ其入札ヲ無効トシ入札保證金ハ縣ノ所得トス

- 一 開札着手後ニ於テ第七條若クハ第二十條第二項ニ該當シ請負人ノ資格ナキコトヲ發見シタルトキ
- 二 開札着手後ニ於テ其入札人若クハ代理人開札場ヲ立去リタルトキ
- 三 第二十六條ニ背キタルトキ
- 四 落札人請負契約取結ヒ以前入札取消ヲ申立タルトキ
- 五 第二十七條第一項ノ指定期日内ニ工費内譯明細書ヲ差出サ、ルトキ
- 六 第二十七條第四項ノ指定期日内ニ契約書及契約保證金ヲ差出サ、ルトキ
- 七 第二十八條ノ届書ヲ差出サ、ルトキ

第三章 隨意契約

第三十條 隨意契約ハ之ヲ契約セントスル者ニ先ツ設計書圖面等ヲ示シ期日ヲ定メテ工費見積書并ニ工費内譯明細書ヲ差出サシムヘシ

工費見積書及工費内譯明細書等調査ノ上相當ト認ムルトキハ契約取結ヒノ期日並ニ保證金額ヲ定メ之ヲ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ其指定ノ期日内ニ契約書及ヒ契約保證金ヲ差出スヘシ若シ之ヲ差出サ、ルトキハ請負ヲ欲セサルモノト見做スヘシ

第四章 請負契約

第三十一條 請負人ハ知事又ハ其委任ヲ受ケタル官吏ヨリ交付スル處ノ設計書(圖面ヲ添付シタルトキハ其圖面トモ)ニ從ヒ其定ムル期日内ニ工事ヲ落成スヘキモノトス

但天災地變等止ムヲ得サル事故アリテ延期ヲ請フトキ正當ノ理由アリト認ムルトキハ之ヲ許スコトアルヘシ

第三十二條 知事又ハ其委任ヲ受ケル官吏ハ事業上必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ請負人ナシテ第四號書式ニ準シ工事工程表ヲ差出サシメ又ハ之ヲ變更セシムルコトヲ得ルモノトス

請負人工事ニ着手セントスルトキハ三日以前ニ其旨届出ツヘシ

第三十三條 事業着手ヨリ落成検査迄ノ間其事業全体ノ管理ハ請負人ノ責任トス

ス故ニ其期間ニ於テ何等ノ損害ヲ受ケ又ハ他ニ損害ヲ與ヘタルコトアルモ知事又ハ其委任ヲ受ケタル官吏ハ總テ其責ニ任セス

但天災地變等防制スヘカラサル災害ニ遭遇シ之カ爲メ減失セシ材料ノ内知事又ハ其委任ヲ受ケタル官吏ヨリ供シタル材料アルトキハ其材料ノミ縣ノ損失トナスヘシ

第三十四條 請負契約書ヲ差出シタル後請負人ニ於テ契約解除ヲ請求シタルトキハ契約保證金ハ勿論既ニ修築ニ充用シタル物件ハ總テ無償ニテ縣ノ所得トナスヘシ

但請負人ニ屬スヘキ物件アルトキハ請負人ハ自費ヲ以テ指定ノ期日内ニ之ヲ持去ル可シ

前項ノ場合ニ於テ既ニ拂渡シタル工費アルトキハ之ヲ返納セシメサルモノトス第三十五條 事故アルトキハ知事又ハ其委任ヲ受ケタル官吏ハ何時ニテモ其工事ノ設計ヲ變更シ又ハ工事ヲ中止シ又ハ契約ヲ解除スルコトヲ得ルモノトス

工事ノ變更ヲ要スルトキハ更ニ落成期日ヲ定メ設計書ヲ交付シ其工費ハ工費内譯明細書ノ代價ニ準シ之カ増減ヲ定ムヘシ

但此場合ニ於テハ契約保證金ヲ増減スルコトアルヘシ

其契約ヲ解除シタルトキ既ニ修築ニ充用シタル物件及ヒ工事ノ材料トシテ工場ニ運ヒ入タル物件アルトキハ之ヲ受取り前項ニ準據シ其代價ヲ拂渡シ契約保證

金ハ之ヲ返付スヘシ

但其物件ノ内知事又ハ其委任ヲ受ケタル官吏ニ於テ不適當ト認ムルモノアルトキハ其代價ヲ拂渡サス期日ヲ定メ請負人ノ費用ヲ以テ之ヲ持去ラシムヘシ

第三十六條 工事ノ出來形設計書ニ比シ異動アリテ代價ノ増加ヲ生スヘキ場合アルモ前條ノ手續ヲ經タルモノニアラサレハ請負人其増價ヲ請求スルコトヲ得サルモノトス

第三十七條 知事又ハ其委任ヲ受ケタル官吏ニ於テ設計ニ違ヒ若クハ粗惡ノ修築ナリト認ムルモノアルトキハ工事中何時ニテモ請負人ナシテ之ヲ改造セシムルコトヲ得ルモノトス

若シ其改造ニ應セサルトキハ第三十四條ヲ適用シ契約ヲ解除スルコトアルヘシ第三十八條 實地工事執行ノ時限ハ日出ヨリ日没迄ト定メ夜業ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

但知事又ハ其委任ヲ受ケタル官吏ノ許可ヲ得タルトキ若クハ指揮シタルトキハ此限リニアラス

第三十九條 工事中請負人ハ設計書(圖面ヲ添付シタルトキハ其圖面トモ)ヲ携帶シ工場ニ出張スヘシ

但代理人ヲ出張セシメントスルルハ豫メ連署ヲ以テ其住所氏名ヲ届出ツ可シ第四十條 知事又ハ其委任ヲ受ケタル官吏ニ於テ前條ノ代理人其他工事ニ使役セ

ル職工人夫等若シ不都合ノ所爲アルカ又ハ其工事ニ不適當ト認ムルトキハ何時ニテモ請負人ノ費用ヲ以テ之ヲ取替シムルコトヲ得ルモノトス

第四十一條 工事ニ供スル用品又ハ水中土中等ニ施スヘキ工事ニシテ落成後其適否ヲ判別スヘカラサルモノハ知事又ハ其委任ヲ受ケタル官吏ノ検査ヲ請ケタル後ニアラサレハ修築セシメサルコトアルヘシ此場合ニ於テハ豫メ請負人ニ其旨示スヘシ

第四十二條 工事ニ要スル器具器械類ハ總テ請負人ニ於テ調辨スルモノトス但知事又ハ其委任ヲ受ケタル官吏ニ於テ貸付ノ豫約ヲ爲シタルモノハ此限リニアラス

第四十三條 請負人ハ其請負義務ヲ他人ニ移スコトヲ得サルモノトス

第四十四條 工事中請負人ニ於テ不正ノ所爲アルカ又ハ怠慢ニシテ工事進歩セス落成期日迄ニ成功ノ目的ヲシト認ムルトキハ契約ヲ解除スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ第三十四條ヲ適用スルモノトス

第四十五條 請負人ハ其請負工事ニ付派出員ニ於テ質問ヲ爲シ又ハ設計圖面ニ照シ指揮スルコトアルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得サルモノトス

若シ請負人ニ於テ其指揮設計圖面外ニ涉ルト思料スルトキ其時々知事又ハ其委任ヲ受ケタル官吏ニ申立テ指揮ヲ請クヘシ
請負人前項ニ依リ知事又ハ其委任ヲ受ケタル官吏ノ指揮ヲ受ケスシテ後日派出

員ノ指揮ニ對シ異議ノ申立ヲナスコトアルモ總テ之ヲ採用セサルモノトス

第四十六條 工事落成期日ニ至テ落成セサルトキハ第三十四條ニ準シ處分スヘシ請負人ニ於テ其落成期日ノ延期ヲ請フトキハ更ニ期日ヲ定メ之ヲ許スコトアルヘシ此場合ニ於テハ當初定メタル落成期日ノ翌日ヨリ落成ノ當日迄一日毎ニ請負金高千分ノ三ヲ延滞償金トシテ知事又ハ其委任ヲ受ケタル官吏ノ指定シタル期日内ニ之ヲ納ムヘシ若シ期日内ニ之ヲ納メサルトキハ請負人ニ拂渡スヘキ工費ノ内ヨリ扣除スヘシ

第四十七條 工事ノ落成シタルトキハ其旨知事又ハ其委任ヲ受ケタル官吏ニ届出テ検査ヲ請クヘシ

前項検査ノ節請負人ハ其通知ニ指定シタル日時ニ設計書(圖面ヲ添付シタルトキハ其圖面トモ)ヲ携帶シ實地ニ立會スヘシ若シ立會セサルトキハ検査ノ結果ニ對シ異議ノ申立ヲナスコトヲ得サルモノトス

第四十八條 派出員ハ工事落成検査上必要アリト認ムルトキハ請負人ヲシテ修築物件ノ幾部ヲ取除カシムルコトアルヘシ此場合ニ於テ原形ニ復スルハ請負人ノ負擔トス

第四十九條 工事落成検査上其出來設計書(圖面ノ添付シタルトキハ其圖面トモ)ニ違正若クハ粗惡ノ修築ナリト認ムルモノアルトキハ更ニ期日ヲ定メ請負人ノ費用ヲ以テ之ヲ改造又ハ修補セシムヘシ此場合ニ於テハ第四十六條第二項ニ據

延滞償金ヲ納ムヘシ

但延滞償金ハ落成届出ヨリ改造又ハ修補ヲ達シタル迄ノ日數ニ對スル分ハ之ヲ除クモノトス

若シ其期日内ニ改造又ハ修補セサルトキハ請負人ニ於テ契約解除ヲ請求セシモノト見做シ第三十四條ヲ適用スヘシ

第五十條 工事落成検査上不都合ナシト認ムルトキハ設計書餘白ニ派出員ニ於テ即時其年月日並ニ検査済ノ旨ヲ記入シ署名捺印ノ上之ヲ交付シ又ハ追テ其旨通知スヘシ

第五十一條 工事落成検査ニ際シ其工場ニ請負人ニ屬スル物件アルトキハ請負人ハ派出員ノ指示スル期日内ニ之ヲ持去ルヘシ

第五十二條 工費ハ工事落成検査後ニアラサレハ拂渡サ、ルモノトス

但工費多額ニシテ請負人ニ於テ内渡金ヲ請求シタルトキハ其出來形ノ歩通ヲ調査シ五歩以上成功ノトキハ請負金高十分ノ三以内七歩以上成功ノトキハ同十分ノ五以内假ニ拂渡スコトアルヘシ

前項出來形歩通ノ調査ハ内金渡ノ標準ナルヲ以テ落成検査ニ於テ其効ナキモノトス

第五十三條 落成検査後ノ保險ヲ付シタル工事ニシテ若シ其期日内ニ損壞伸縮凹凸等ヲ生シタルトキハ更ニ期日ヲ定メ請負人ノ費用ヲ以テ當初ノ設計ニ照ラシ

之ヲ修築セシムヘシ若期日内ニ之ヲ修築セサルトキハ知事又ハ其委任ヲ受ケタル官吏ニ於テ之ヲ修築シ其費用ハ請負人ノ負擔トシ之ヲ追徴スヘシ

但知事又ハ其委任ヲ受ケタル官吏ニ於テ非常ノ天災ニ因リ止ムヲ得サルト認ムルトキハ本條ヲ適用セサルコトアルヘシ

前項知事又ハ其委任ヲ受ケタル官吏ニ於テ之ヲ修築シタルトキハ請負人ハ其事業ニ付異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

第五十四條 左ノ各項ノ一ニ當ルモノハ第三十五條第三項ヲ適用シ契約ヲ解除スルコトアルヘシ

但此場合ニ於テハ契約保證金ハ縣ノ所得トナスヘシ

一 第六條第二項ノ要求ニ應セス又ハ同條第三項ニ依リ更ニ保證人ヲ選定セサルトキ

二 第三十二條第一項ノ工事工程表ヲ差出サス又ハ之ヲ變更セサルトキ

三 第三十八條ニ背キ夜業ヲナシタルトキ

四 第四十條ノ代理人又ハ職工人夫ヲ取替サルトキ

五 第四十一條ニ背キ検査ヲ請ケサルトキ

六 第四十三條ニ背キタルトキ

第五十五條 第三十四條第三十五條第五十一條ノ場合ニ於テ請負人其所屬ノ物件ヲ持去ラサルトキハ總テ無償ニテ縣ノ所得トナスヘシ

第五十六條 契約保證金ハ工事落成検査済ノ後返付シ保險ヲ付タル工事ニ付テハ
 保險満期ノ後之ヲ返付スヘシ

(第一號書式)

入札書(入札ハ總テ封書ト爲シ封表ニ契約人ノ氏名ヲ記載スヘシ)

何郡市町村大字何々第何號

一何々工事

此工事請負金何程

内譯 (内譯ヲ要スルトキハ此例ニ依ルヘシ)

金何程 何々

金何程 何々

右ハ明治何年(何月)愛媛縣告示第何號土木事業請負規則ヲ承諾シ前記ノ代金ヲ以
 テ請負可致依テ入札差出候也

何府縣郡市町村大字番戶

職業

明治何年何月何日

氏名 印

生年月

官氏名殿

(第二號書式)

工事内譯明細書

種目	員數	單價	金額	摘要
堤防盛土夫	何坪何合	金何程	金何程	土代價ヲ要セス盛土 夫何百人ト見積リ 一人ニ付何程
座掘夫	何人	全	全	運賃トモ
土臺用松木	何本何歩	全	全	運賃トモ
全上掘付夫	何人	全	全	
築石	何坪	全	全	石代及運賃トモ
築石用栗石	何坪	全	全	拾取り運賃トモ
築石用石工	何人	全	全	
全上手傳夫	何人	全	全	
栗石拾掛夫	何人	全	全	拾取り及運搬夫 トモ
芝付夫	何人	全	全	切取り運搬夫ト モ
蛇籠用竹	何本	全	全	運賃トモ

蛇籠用栗石	何坪	全	全	拾取運賃トモ
蛇籠仕立夫	何人	全	全	蛇籠作リ据付栗石詰杭打厄一本ニ付何人
全上用杭	何本	全	全	運賃トモ
何々何程	何程	全	金何程	
計				

右ハ何郡市町村大字何字何第何號何々工事今般請負承諾致候ニ付テハ工費内譯金本書ノ通相違無之候也

何府縣郡市町村大字番戶

明治何年何月何日

官 民 名 殿

請負人 氏 名 印

(第三號書式)

御 届

一住所何府縣郡市町村大字番戶

一營業何々

但何年何月開業以來引續營業

一印鑑○

右ハ拙者住所營業印鑑前記ノ通相違無之(市長町長)村長ノ證明ヲ得テ此段御届申上候也

明治何年何月何日

官 民 名 殿

氏 名 印

右 證 明 候 也

明治何年何月何日

(第四號書式)

何府縣郡市町村長 氏 名 印

工事工程表

種 目	着手年月日	成功年月日
何々築品買入	何年何月何日	何年何月何日
座 堀	全	全
土臺木据付	全	全
石垣築造	全	全
何々盛土	全	全
堤防腹付	全	全

栗石拾掛	全	全
何々芝付	全	全
何々々々	全	全

右ハ何郡市町村大字何字何何第幾何々工事今般請負承諾致候ニ付本表期日ノ通成
功可致候也

何府縣郡市町村大字番戶

明治何年何月何日

官氏名殿

請負人 氏名 印

◎告示第四十九號 (明治廿七年三月廿三日)

土木事業町村及關係人民請負規則左ノ通之ヲ定ム

土木事業町村及關係人民請負規則

第一條 縣ノ經濟ニ屬スル土木事業ニシテ町村若クハ關係人民ヲシテ其工事ヲ請負ハシムルトキハ此規則ニ據ルヘシ

第二條 町村若クハ關係人民ヲシテ工事ヲ請負ハシメントスルトキハ知事又ハ其委任ヲ受ケタル官吏ハ町村長ニ左ノ事項ヲ示スヘシ

- 一 工事設計書(圖面ヲ必要トスルモ)及ヒ其請負金額
- 二 工事落成期日

三 請負保證金ヲ必要トスルトキハ其保證金額

四 落成検査後ノ保險ヲ必要トスルトキハ其保險日數

五 右ノ外必要ト認ムル事項アルトキハ其事項

第三條 町村長ハ前條指示ノ日ヨリ十日(特ニ期日ヲ指示シタルトキハ其期日)以內ニ其町村ノ請負ニ係ルモノハ町村會ノ議決ヲ經テ工事請負契約書(別紙書式契約保證金及工費内譯明細書ヲ差出スヘシ

其關係人民ノ請負ニ係ルモノハ速ニ關係人民ニ之ヲ示シ其人民中ニ於テ身元確實ナル者ヲ撰ミ工事請負人ヲ定メシメ前項ト同ク之ヲ差出サシムヘシ

但請負人若シ不適當ト認ムルトキハ何時ニテモ之ヲ取換シムルコトアル可シ前項工事請負人ハ總テ其請負契約ニ關スル責任ヲ負擔スヘシ

第四條 工事ノ請負ヲ欲セサルトキハ前條期日內ニ其旨届出ツヘシ

前條ノ契約書ヲ差出サス又ハ前項ノ届出チナサハルトキハ該工事ヲ請負ハシメサルモノトス

前二項ノ場合ニ於テハ遅クモ前條期日ノ翌日迄ニ其設計書(圖面ヲ添付シタルトキハ其圖面トモ)ヲ返付スヘシ

第五條 此規則ニ據リ請負タル工事ニ付テハ明治廿七年三月愛媛縣告示第四十八號土木事業請負規則第三條第二項第三十一條乃至第五十三條第五十四條第二項乃至第六項第五十五條及ヒ第五十六條ヲ適用スヘシ

土木工事請負契約書

何郡町村大字何字何何第何號

何々工事請負高

一金何程

内 (内譯ヲ要スルトキハ此例ニ依ルヘシ)

金何程

金何程

此請負契約保證金何程

一 工事ノ仕様ハ交付セラレタル設計書何第何號ノ通りトス
但圖面何様添付

一 工事着手期日ハ明治何年何月何日トス

一 工事落成期日ハ明治何年何月何日トス

一 工費内譯明細書工事工程表ハ別冊ノ通りトス

一 保險日數ハ工事落成検査済後何十日トス

一 何々工事又ハ何々用品ハ修築前御廳ノ検査ヲ受クルモノトス

一 右ノ外指示スル所ノ事項

右ハ明治何年(何月)愛媛縣告示第何號土木事業町村及關係人民及請負規則ヲ承諾シ(本町村會ノ議決ヲ經テ)請負致候也



(別紙)

何郡町村大字何何番戶

明治何年何月何日

全 上

請負人 氏 名 印

請負人 氏 名 印

(何郡町村長) 氏 名 印

官 氏 名 殿

○訓第三一六號 (明治廿七年九月十一日)

郡市町村

河水暴漲或ハ海嘯等ノ災害アルニ際シ堤防開門等破損缺潰ノ危険アル場合ハ其經濟負擔ノ孰レニ屬スルヲ問ハス苟モ危難ノ衆人民ニ關係アル者ハ其最寄町村民ニ於テ即時防禦ノ手段ヲ施スヘキハ相互其生命財產ヲ保護スル爲メ當然ノ任務タリ然ルニ近來往々心得違ノモノアリ譬ハ出水ニ當リ假防工事ヲ施セシ堤上ヲ浸入飲潰セントスル場合モ尙袖手傍觀スル者有之哉ニ相聞不都合ノ至リニ候尤修築工事請負者アリ其者ニ於テ充分ニ防禦相届候見込有之分ハ格別ニ候得共苟モ其間ニ其者居合セサルトキハ即時出水ノ浸入ヲ防禦シテ飲潰ノ患無ラシムル様最寄町村民ニ於テ盡力可致筋ニ有之候本年モ夏氣以來非常ノ早魃ニシテ天候平順ナラス其反動ハ意外ノ風雨出水或ハ海嘯等ノ災ニ遭遇スルモ難計憂慮ニ堪ヘサル次第ニ付各

水害地町村ニ於テ共同一致堤防々禦ノ術ヲ講シ其用材料等ヲ準備シ置在來ノ堤防
開門等ハ勿論就中修築着手未着手ノ工事場所ニ於テ更ニ崩潰流失ノ患無ラシムル
様一層注意スヘシ
右訓令ス

第九章 雜款

◎坤第四十五號 (明治九年三月八日)

各區々戶長

山林原野池溝等所有定方ノ儀ニ付客年(七月)地租改正事務局乙第三號御達并本年
(二月)坤第十九號ヲ以テ相達置候趣モ有之處從來人民ニ於テ勝手ニ進退致來候
歎又ハ比隣郡村等ノ保證有之分ハ直ニ所有相定メ不苦様相心得居候向モ有之趣相
開右ハ從來ノ慣行ニ仍リ人民勝手ニ進退致來候凡民有ノ確證無之分ハ都テ客年(一
月)坤第十二號達土地所有取調離形ニ照準シ可伺出儀ト可相心得此段相達候事
但全村ニ管セス一二人ツ、所有定方相願候向ハ其書式必シモ離形通無之共其本
人ヨリ爲願出不苦尤地種反別事由等ハ詳細記載シ村中總代ノ保證ヲ副可差出一
村持ノ廉ハ隣村總代ノ保證タルヘキ事

◎坤第六十二號 (明治九年五月十九日)

各區々戶長

山林原野所有定方ノ儀ニ付テハ追々相達候趣モ有之後來紛議ヲ不生様一ト字限り
反別ヲ記載シ可窺出筈ノ處村ニ寄リ數百所ニ涉リ事務繁劇ノ際手数不抄儀ニ付「
戶長事務取扱所」エハ必詳細ノ帳簿ヲ調整シ所有窺書ヘハ各種毎總反別ヲ記載シ
一山總字或ハ四至ノ境界ヲ書載シ窺出候儀モ不苦候條此段相達候事

◎乙第二十號 (明治十年三月八日)

各區々戶長

地所字(即チ地所ノ稱呼ニシテ所謂「アザ」或ハ「ホノギ」ナルモノ)之儀ハ從來
文字アレハ其稱呼ハ其地ノ訛音ヨリ成立タルモノ或ハ從來ノ稱呼ニ強テ他ノ文字
ヲ假リ音訓ヲ混用シテ之ヲ填ムルモノ等往々讀ミ得難キモノコレアリ地所賣買願
地所拜借願等都テ地所ニ關スル文書取調ノ際差支不抄候條爾來地所ノ字ヲ記載候
節ハ其文字ノ右傍ヘ其地ニテ稱呼シ來レル方音ノ儘ヲ假名付ケ可爲致尤從來稱呼
ノミアリテ一定ノ文字ナキモノハ必シモ文字ヲ填ムルニ及ハス其稱呼セル方音ノ
儘假名字ヲ以テ記載可爲致此段相達候事

但地租改正ニ付既ニ差出シ若クハ差出サントスル畝願牒ハ當時迄ノ通ニテ不苦
候得共追テ地價取調帳差出候節ハ本條ノ通可相心得事

第十五編 交通及運輸

第一章 郵便

◎乙第三百三十四號 (明治十二年五月九日)

各郡町村

各府縣下郡役所へ宛タル郵便物ノ内唯何府縣郡役所トノミ記シ其所在地名ヲ詳記セサル向モ有之取扱上不都合ノ儀往々有之爲メニ公私ノ不便尠ナカラサルニ付總テ郡役所へ宛タル郵便物片書へ其所在地名ヲ記載シ可差出旨驛遞局長ヨリ照會之趣有之候條自今屹度注意可致此段相達候事

◎乙第八十二號 (明治十五年七月三日)

各町村

郵便信書配達ノ際請取人舉家轉住セシ歟又ハ肩書不充分ノ故ヲ以テ配達シ能ハサル時ハ規則ニ據リ差出人へ差戻シノ處分可致ハ勿論ノ義ニ候得共其轉住又ハ宛名ノ者無之哉否確証ヲ得ンカ爲メ信書相添取調方郵便局ヨリ其役場へ依頼越候節ハ迅速取調付箋可致此段相達候事

◎訓第四九號 (明治二十年三月八日)

各郡

郵便物ノ義ハ郵便條例第六十七條ニ據リ郵便局ヲ經由スルニ非サレハ送達シ得サル成規ニシテ猥ニ特使ヲ用ユヘカラサルハ勿論ノ處該條但書ノ主意ヲ誤リ「戸長役場」其他へ送達スル書類中土地ノ便宜方位ノ都合等ニ據リ常雇等ノ名義ヲ以常時特使ヲ發スル向往々有之哉ニ相聞へ候右ハ萬々有之間敷義トハ思考候へ共萬一

二十年送丙第一六七號參看

右様ノ義所犯發覺スルニ於テハ同條例第二百三十條ニ據リ相當ノ罰科ニ處セラルヘキ筈ニ付自今郵便物差立ノ際ハ一層注意セラルヘシ但本文ノ趣旨各「戸長」へモ内示セラルヘシ

右訓令ス

◎達丙第一六七三號 (明治二十年七月二十二日)

各郡役所

郵便物受取人又ハ差出人居所不分明ニシテ配達シ能ハサルハ郵便局ヨリ其地「戸長役場」へ取調方承合候節ハ速ニ可取調旨去明治十五年本縣乙第八十二號ヲ以テ相達置候處事務繁忙等ノ故ヲ以テ往々其意ニ應セサル向有之哉ニ相聞エ且右ニ就テハ本年(五月)遞信省訓令第四號ノ旨モ有之候條今後取調ヲ乞フタル節ハ故障ナク其求メニ應セシムル様各「戸長」へ示達ス可シ

◎訓第四六七號 (明治二十二年十月十二日)

郡役所「戸長役場」

三等郵便局長並郵便受取所取扱人郵便貯金預所取扱人採用ノ際取扱方之儀客年五月遞信省訓令第三號及今第六號ノ趣モ有之候處今般勅令第九十六號ヲ以テ地方遞信官々制改正ニ付テハ三等郵便局長并郵便受取所取扱人郵便貯金預所取扱人選定方ハ松山郵便電信局ノ取扱ニ屬スルヲ以テ將來其選舉或ハ書類ノ徵收方等其關係郡役所又ハ「戸長」役場へ同局ヨリ直ニ移牒可致旨照會越候條其旨心得ヘシ

但右選舉ニ關スル書式(第一ヨリ第五迄)爲參考配布ス
右訓介ス

第一

被選承諾書

(用紙大判十三行界紙以下全シ)

何府縣何國何郡何町村何番戶住戶主

(又ハ戶主某長男次男養子等)族籍

何

某

生年月日

私儀三等郵便電信、郵便局長(又ハ郵便受取所及郵便貯金預所取扱人)被命候上ハ
總テ御規則堅ク相守リ誠實ニ奉務可仕候依之御選舉ノ趣承諾候也

右

年號月日

何 某

印

松山郵便電信局長殿

第二

身元引受承諾書

何縣何國何郡何町(村浦)何某三等郵便電信局、郵便局長(又ハ郵便受取所取扱人及
郵便貯金預所取扱人)ニ御採用ノ上ハ同人身上ノ儀私ニ於テ引受御制規ノ身元引
受證差出可申依之此段上申仕候也

年號月日

何府(縣)何國何郡何町(村浦)何番戶住戶主(又ハ戶
主某長男次男養子等)
族籍

何

某

松山郵便電信局長殿

第三

保證承諾書

(此承諾書ハ局長取扱人被選者非
戶主無財產ノ時ノミ要ス)

私長(次)男(養子等)某三等郵便電信局、郵便局長(又ハ郵便受取所取扱人及郵便貯
金預所取扱人)ニ御採用ノ上ハ保證人ニ相立御制規ノ保證差出可申依之此段上申
候也

何府(縣)何國何郡何町(村)何番戶

戶主 族簿

何

某

年號月日

松山郵便電信局長 殿

第四

財産調書

(身元引受人并ニ戶主ノ財産調書トモ此書式ニ依ル)

何府(縣)何國何郡何町(村)何番戶住

戶主(又ハ戶主某長男次男等)

何國何郡何町村字何々	族籍	何 某
番 號 (幾筆アルモ一筆毎ニ別記ヲ要ス)		生年月日
一 田 (畑) (宅地) (山林) 何反何畝何歩 (質入又ハ書入等ノ有無ヲ記スヘシ)		
此地價金何圓		
此賣買價格何圓		
同 同		
一 建家何棟	何葺	同上
此賣買價格何圓		
合反別何反何畝何歩		
建家何棟		
此地價金何圓		
賣買價格何圓		
右私所有ニ相違無之候也		
		右

年 號 月 日	何 某 印
松山郵便電信局長 殿	
此所ニ町村「戸長」証明ノ與印ヲ要ス	
第五	
履 歷 書	道府縣華士族平民
	姓 名 印
	生年月日
本 籍	
一 道府縣何國何郡區何町村何番地戸主又ハ何某兄弟伯叔父等 (現ニ本籍地ニ居住スル時ハ「現今本地ニ居住」ノ數字ヲ本項ニ加ヘ次項ノ現今寄留地ヲ省ク可シ)	
住所ノ移動	
一 何年何月何日何地ニ生レ何年何月何日マテ居住	
一 何年何月何日何地ニ移轉シ何年何月何日マテ居住戸籍ノ異動	
一 何年何月何日道府縣何郡區何町村何番地族籍某方へ養子入婿附籍等	
一 何年何月何日道府縣何郡區何町村何番地族籍某方へ復籍等異動アル毎ニ之ヲ記スヘシ	
兵 役	

- 一 何年何月何日何鎮臺ニ入營何年何月何日何卒トナリ何年何月何日歸休ヲ命セ
ラレ何年何月何日常備役滿期豫備軍ニ編入等兵役上ノ事項ヲ記載スヘシ
- 學 事
- 一 何年何月何日ヨリ何地何某ニ就キ又ハ官公私立何學校ニ於テ何學ヲ修メ何年
何月何日ニ至ル所修ノ科目大略何々
- 一 何年何月何日ヨリ何地官公私立何學校ニ入り何學科ヲ修業シ何年何月何日卒
業ス其證書ノ寫別紙ノ如シ修業何年何月間ニシテ其科目ハ何々
- 職 業
- 一 何年何月何日ヨリ何業ヲ營ム(何業ヲ兼テ營ム)
- 一 何年何月何日何業ヲ廢ス
- 一 何年何月何日ヨリ何地何會社ニ傭レ(給料何圓)何々ノ業務ニ從事シ何年何月
何日ニ至テ解僱其間給料
- 增 減
- 一 何年何月何日ヨリ何年何月何日迄何業ニ從事ス
- 一 何年何月何日ヨリ何々ノ著譯ニ從事シ何年何月何日ニ至ル其著譯スル所ノ書
名左ノ如シ
- 著譯書名ヲ掲グヘシ
- 官 職

- 一 何年何月何日何地官公私立何學校何課教員トナリ教授ニ從事シ何年何月何日
解職其間何々ヲ兼勤シ何々ノ事務ニ從事ス以上ノ辭令左ノ如シ
- 此所ニ辭令ノ全文ヲ各通トモ掲グ可シ又私立學校等ニテ辭令ナキモノハ其俸
給等ヲ本文ニ記ス可シ
- 一 何年何月何日何官廳ニ於テ何々拜命何年何月何日マテ何々ノ事務ニ從事シ何
年何月何日辭職以上ノ辭令左ノ加シ
- 辭令ノ全文ヲ掲グヘシ
- 賞 罰
- 一 何年何月何日何地ニ於テ何々事由ノ爲メ賞ヲ受ク其辭令左ノ如シ
- 辭令全文ヲ掲ケ辭令ナキ者ハ本文中ニ受賞ノ事由ヲ記スヘシ
- 一 何年何月何日何地ニ於テ何々事由ノ爲メ罰ヲ受ク
- 辭令アルモノハ各其全文ヲ掲ケ辭令ナキモノハ本文中ニ其事由ヲ記シ又裁判
所ノ宜告誓ハ其要ヲ記スヘシ總テ罰ハ其受罰ノ日數科料罰金ノ額等ヲ記ス可
シ身代限りノ有無
- 一 何年何月何日何地ニ於テ身代限りノ處分ヲ受ケ何年何月何日負債辨償濟(身
代限りノ處分ヲ受ケタルナシ)
- 右ノ處分ニ付裁判所ノ申渡ヲ記スヘシ

右

年月日

姓名印

松山郵便電信局長 殿

○訓第三六八號 (明治二十三年七月二日)

郡役所 市役所

町村役場 警察署

警察分署 「收稅部出張所」

「租稅檢査員派出所」

郵便物表書ニ宛名ノミヲ記シ其所在國郡市町村名ノ肩書ヲナスシテ相互往復候向有之郵便取扱上警察署又ハ「出張所」等ニ冠スル地名ニ依リ或ハ紛送誤達ヲ生シ到達遲延ヲ來スコト往々有之折角郵便速達ノ方法モ爲メニ其効ヲ奏セサルノミナラス又其書狀發受者ニ於テモ緩急時機ヲ失スルノ慮不勘固ヨリ郵便取扱者ニ於テモ精々注意スヘシト雖モ分秒ノ間數萬ノ郵便物ヲ區分發送スル儀ニ付自然其方位ヲ誤ル等ノコトナキモ亦難保ニ依リ郵便差出者ニ於テ豫メ此邊ニ注意シ其表書ニハ必ス宛名所在ノ國郡市町村名ヲ判然肩書ナスヘキ様今般其筋ヨリ照會有之候條自今一層注意スヘシ

右訓令ス

○官第四二號 (明治二十三年七月四日)

各部

管内各郡役所市役所町村役場警察署分署「收稅部出張所租稅檢査員派出所」等ハ發スル郵便物表書ニ其宛名ノミヲ記シ該所在ノ國郡市町村名ノ肩書ヲナスル向有之郵便取扱上警察署又ハ「出張所」ニ冠スル地名ニ依リ或ハ紛送誤達ヲ生シ到達遲延ヲ來スコト往々有之折角郵便速達ノ方法モ爲メニ其効ヲ奏セサルノミナラス又其書狀發受者ニ於テモ緩急時機ヲ失スルノ慮不勘固ヨリ郵便取扱者ニ於テモ精々注意スヘシト雖モ分秒ノ間數萬ノ郵便物ヲ區分發送スル儀ニ付自然其方位ヲ誤ル等ノコトナキモ亦難保ニ依リ郵便差出者ニ於テ豫シメ此邊ニ注意シ其表書ニハ必ス宛名所在ノ國郡市町村名ヲ判然肩書ナスヘキ様今般其筋ヨリ照會有之候條自今一層注意スヘシ

○訓令第五十五號 (明治二十三年七月十日)

郡役所 市役所

町村役場

縣廳又ハ郡役所市役所及ヒ町村役場ノ間ニ於テ往復スル公文書類郵送ノ節若シ不足稅ヲ要スル場合ハ交互其受取先ニ於テ之レヲ支辨スヘキ義ト心得ヘシ

○官第三九號 (明治二十四年七月三日)

各部署

書狀ノ送達方ハ郵便條例第六十七條特例各項ノ外ハ必ス郵便ニ依ラサルヘカラサルハ勿論ノ儀ニ候處往々所屬小使或ハ受負人夫ノ類ヲ使用シ送付セシムルモノ有